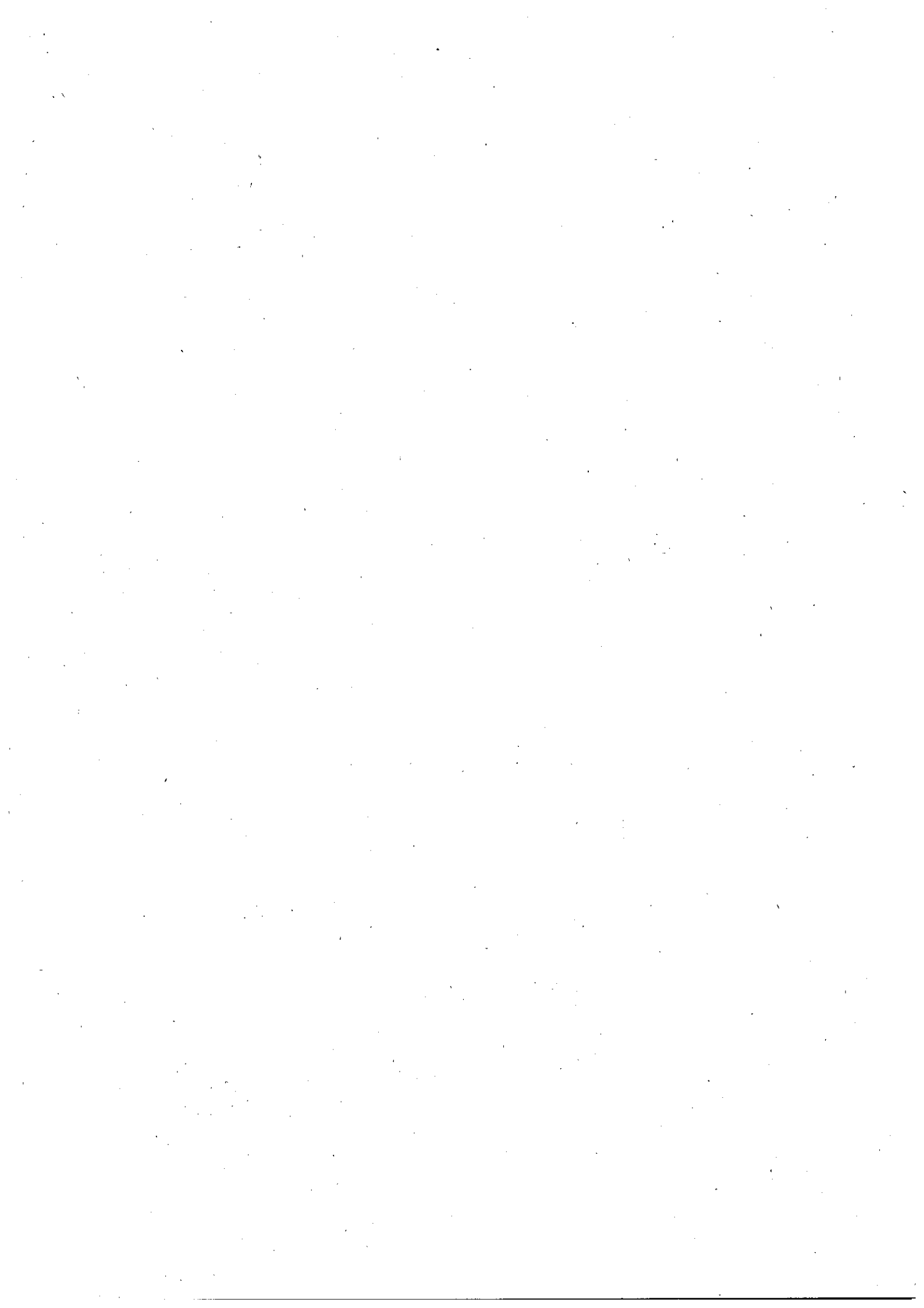


新宇土市史基礎資料 第四集

# 町在(四)

—嘉永元—安政六年—

宇土市教育委員会



(町在四) 目次

嘉永元年

- 二四一 郡浦又太、岩崎岩太 他 ..... 1
- 二四二 源次郎 ..... 2

嘉永二年

- 二四三 紫垣章兵衛、紫垣久四郎 ..... 3

- 二四四 定 吉 ..... 3

- 二四五 岩 太 ..... 4

- 二四六 稻原藤平 ..... 5

- 二四七 高濱玄迪、高濱叔涼 ..... 6

- 二四八 積 新左衛門 ..... 6

嘉永三年

- 二四九 小山直助、田代勘右衛門 ..... 7

- 二五〇 坂本岩喜 ..... 8

- 二五一 松田三為 他 ..... 9

- 二五二 北野甚七 ..... 10

- 二五三 井上八十八 ..... 11

- 二五四 嘉右衛門 ..... 12

嘉永四年

- 二五五 糸石玄磧 ..... 12

- 二五六 赤澤宇太郎 ..... 13

- 二五七 菊地丹次 ..... 16

- 二五八 江上養節 ..... 16

- 二五九 松田三成 ..... 17

嘉永五年

- 二六〇 水口才助 ..... 19

- 二六一 中村順太 ..... 20

- 二六二 澤田善次郎 ..... 21

- 二六三 辛川良右衛門 ..... 22

- 二六四 松本岩右衛門 ..... 23

嘉永六年

- 二六五 橘 喜又 ..... 24

- 二六六 喜右衛門、嘉兵衛 ..... 25

- 二六七 中園英之助 他 ..... 25

- 二六八 庄兵衛 ..... 26

- 二六九 日隈太郎右衛門 ..... 27

- 二七〇 小林喜真太 ..... 28

- 二七一 中村権平 ..... 29

- 二七二 江 謙吾 他 ..... 30

- 二七三 本郷惣右衛門 ..... 33

- 二七四 内田壽太郎 ..... 33

- 二七五 井上育太郎 ..... 36

- 二七六 北野甚七 ..... 38

- 二七七 弥平次 ..... 39

嘉永七年

- 二七八 松岡謙濟 ..... 40

- 二七九 金田龜齡 ..... 41

- 二八〇 浦上勝甫 ..... 42

安政元年

二八一 芥川源之允 .....

二八二 宇平次、儀平 .....

二八三 小山七郎太 .....

二八四 三村傳之助 他 .....

二八五 上妻八右衛門 .....

二八六 儀平 .....

二八七 松岡道成 .....

**安政二年**

二八八 野村新助 .....

二八九 浦上勝甫 .....

二九〇 松浦善三郎、野口廣吉 .....

二九一 北野茂次郎、北野甚七 .....

二九二 釜賀茂助 .....

二九三 拓植玄迪 .....

二九四 玄春 .....

二九五 郡浦新五左衛門、郡浦志摩助 .....

二九六 河口藤十郎、梅田弥兵衛 .....

**安政三年**

二九七 岡村庄太郎 .....

二九八 慶次、格次 .....

二九九 北野安右衛門、喜助 .....

三〇〇 積三左衛門 .....

三〇一 陣内信次、稻原覚左衛門 他 .....

三〇二 江嶋増太郎 .....

三〇三 平原太郎助 .....

103 103 100 99 97 96 95 94 88 87 86 86 85 84 83 82 81 81 80 47 44 43 43

**安政四年**

三〇四 伊佐軍太、伊佐三吾 .....

三〇五 久保桂助 .....

三〇六 田代満次 .....

三〇七 守田源作 .....

三〇八 清蔵、才七 .....

**安政五年**

三〇九 西信一 .....

三一〇 才七、助七 .....

三一 甚七 .....

三二二 中園英之助 他 .....

三二三 満永和三郎 .....

三二四 田河内茂左衛門 .....

三二五 近藤九平、岩村久兵衛 .....

**安政六年**

三二六 野田七右衛門 .....

三二七 本田健助 .....

三二八 岡村辰次郎 .....

三二九 齊藤弥五兵衛 .....

三三〇 亀井九郎兵衛 .....

三三一 藤本作兵衛 .....

三三二 竹馬圓次、小郷藤兵衛 .....

三三三 草野安次郎、近藤衛守 .....

三三四 中山直右衛門 他 .....

三三五 松田三悦 .....

124 121 120 118 118 117 117 116 115 114 114 113 112 110 110 109 108 107 106 105 105 104

## 例言

一、本書は、宇土市史編纂の基礎資料を集成したもので、その第四集として財団法人永青文庫所蔵の細川家史料「町在」の宇土市関係分を抄録したものである。掲載の許可をいただいた財団法人永青文庫（細川護貞理事長）に感謝する。

一、底本は、熊本県立図書館架蔵の複製本によったが、複製本に齟齬があるものについては、熊本大学附属図書館寄託の原本と対照させ、それによって修正した。閲覧にあたってご便宜いただいた熊本県立図書館・熊本大学附属図書館に感謝する。

一、史料は、今回検索を行なった宇土市関係史料の中から任意に番号を付したものであり、便宜的に人名を表題とし、目次と対照させた。

一、表題となった人名の下に、原本の分類目録番号を付した。この番号は、細川藩政史研究会刊行の「永青文庫、細川家旧記・古文書分類目録 正編」に収められた整理番号である。熊本県立図書館の架蔵番号とは異なるため、巻末に登録番号対照表を付した。

一、釈文は、下記に従って活字化したものである。

一、それぞれの史料には適宜、句読点「、」「。」および並立点「・」をつけた。

一、文書の年月日、差出、当所等の位置や高さは、底本に係わらず統一した。

一、用字については、次のとおり配慮した。

旧漢字・異体字は固有名詞をのぞき原則として、現行の漢字に改めた。

変体仮名「ゑ」「ゐ」「へ」「え」は、原則として、現行の仮

名にあらためたが、助詞の者・茂・江・而・并・ニは、そのまま用い、活字を小さくした。

オドリ字の、漢字は「々」、平仮名・片仮名はそのまま「、」「、」「く」を使用した。

二字、又は三字繋の仮名（*あ、め*等）は、二字または三字の仮名になおした。

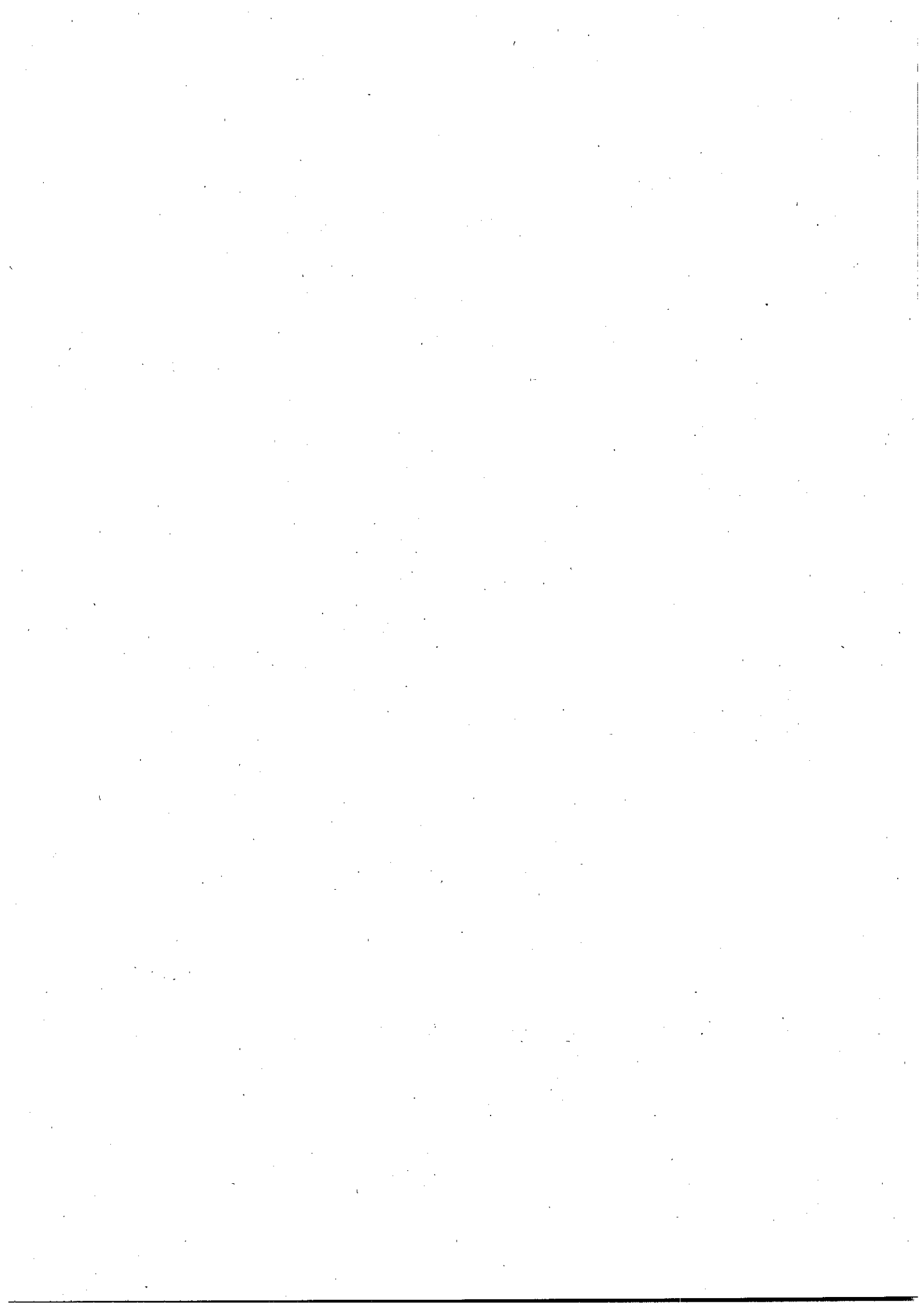
一、地名・人名等の固有名詞については底本に拠った。ただし補記の必要なものについては傍註を付した。

一、底本の不明部分は□とした。疑わしい文字については、ママを付した。

一、敬称のための欠字・平出・台頭等は行わなかった。

一、史料収録にあたっては差別や人権について十分配慮したが、できるだけ原本に忠実な釈文を行なったために、現在の価値観では律しきれないような内容の文も含まれている可能性がある。歴史資料としての存在意義をそこなわないための止むを得ない判断であることをご了解いただきたい。

一、史料の検索・釈文・校訂は市史編さん室において実施した。



(嘉永元年)

二四一 郡浦又太、岩崎岩太 他

(九一四一)

御内意之覚

郡浦手水一領卷正三而塘方助役石場見拟兼

郡浦又太

右同石場見拟

岩崎岩太

郡浦地士三而右同断

本田英左衛門

郡浦一領卷正

佐藤 保

郡浦御郡代直触三而戸馳村庄屋石場見拟兼

佐藤又左衛門

郡浦諸役人段

松枝九郎兵衛

郡浦一領卷正

松枝傳藏

郡浦一領卷正佐田九郎八養子

佐田富太郎

右者、去ル卯九月高潮・大風ニ而、諸御郡海辺一円程之損所ニ而、

何レも急場之御普請ニ付、入用之大小石戸馳石場より取出之儀、

御用懸被仰付候処、何レも差入相勤、都合二十一ヶ所之御普請所

より、急場注文之石無間抜取出積送候石数、太略左之通。

一 割石拾七万七千五百五十余

一 栗石六千三百七十坪余

一 式尺引石四千三百五十余

一 一尺五寸引式千九百五十余

右之通ニ而、三百六十貫目余之石代錢聊無異乱受扱いたし、且亦

石代積賃等、究り直段より引下ケ運送仕候儀も、大数七十貫目余

も有之、右体之儀も、畢竟出役中一致ニ出精仕候所より御出方減

ニも相成候事ニ付、旁以何れも相応ニ被賞被下候様。就中又太・

岩太兩人者、式ヶ所之御普請をも引受、各別出精仕、英左衛門・

保・又左衛門列も受扱等、根ニ成り相勤候ニ付、又太列ニ指繼、

重ク被賞被下候様。

(朱書)

〔攝儀達之通ニ付金子三百疋可被下置哉〕

郡浦御目見医師

愛甲 操

右同断ニ付而出役いたし、石工等之内病人怪我人等不断有之候処、

昼夜療治方出精いたし、施薬数も太略式千二百疋余ニ及、一稜之

為合ニ相成候ニ付、屹度被賞被下候様。右之通ニ付夫々御賞美被

仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談

可被下候。以上

弘化三年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

(朱書) 〔右郡浦又太以下稜々付札之通、申八月廿八日申渡且達。此一級申八月廿八日申渡且達。〕

(付巻) 一 田畑正取式拾三町余

一 内 式拾壹町程、作地ニ相成居候分

一 錢五百四拾貳貫九百貳匁余

御新地并往還兼用御築立より破損跡御手入懸御人目

郡浦手水三而郡浦又太列九人別紙申立之趣ニ付、見

聞仕候処、左之通御座候。

一 領一疋三而郡浦手水塘方助役、戸馳石場見

扱兼

三百九拾三貫四拾四  
余

御新地御築立分  
百六貫八百四拾六匁余

二見川洪水三付塔手  
破損御手入分

四拾三貫拾匁余  
井樋居方井沖塔蓋置

等御手入分  
右之通御座候事

郡浦又太

一領一疋三而戸馳石場見抄

岩崎岩太

地土三而右同断

本田英左衛門

御郡代直触三而戸馳石場見抄同村庄屋

佐藤又左衛門

諸役人段

松枝九郎兵衛

一領老疋

佐藤 保

右同

松枝傳藏

右同佐田九郎八養子

佐田富太郎

右者去ル卯九月高潮・大風三而、海辺御郡新地損所出来いたし候節、何れ之ヶ所々々茂、急場之御普請ニ付、入用之石戸馳石場より取出ニ相成、右之面々、御用懸被仰付、何れ茂差入り、出精相勤、無間抜大小之石運送仕、御普請之ヶ所々々、御弁利ニ相成、且又御出方減ニ茂相成候由。又太・岩太兩人者、其砌亀崎・塩屋浦、兩御新地破損所、御普請茂引請、彼方江茂相詰、兩所ニ懸出精仕候由。其外之面々茂、米錢請払之儀ニ至迄、手堅出精いたし候由。

御目見医師

愛甲 操

右同断ニ付、出役いたし、大勢之石工等入込居候内ニ者、怪我・病人等不断有之候由之処、療治方出精いたし、一稜為合ニ相成候由ニ而、施薬等之儀、本紙書面之通相聞申候。

右之通ニ而、何れ茂出精相勤候由。其外大小石数、且又御入目錢請払、御出方減等之儀、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

午六月

久野多學 印

二四二 源次郎

(九一―四一―)

御内意之覚

松山手下網津村庄屋

源次郎

右者、文政七年網津村頭百姓申付、同十二年下網津村庄屋役申付、当年迄都合二十五年手全ニ精勤仕居、田方水気拔、新古井手堀浚等取計、諸作地も相増、所柄次第ニ成立、一体村方取扱も宣処、御年貢・諸公役・諸出銀共ニ、速ニ相納申候由ニ付、彼是被賞、礼服御免被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

弘化五年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

源次郎儀、庄屋二十年出精相勤候段、達之通ニ而、年数見合も御座候間、礼服可被成御免哉。

覚

松山手下網津村庄屋

源次郎

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、役方数年心懸能、水気拔、新井手立等を初、御年貢・諸出米錢茂速ニ相納せ、一体村方之世話筋行届候由ニ而、勤年数等之次第、委細者本紙書面之通ニ承申候。以上



申四月

河口嘉久次郎

在勤中御郡代直触可被仰付哉。

(嘉永二年)

二四三 紫垣章兵衛、紫垣久四郎

(九一二四一三)

御内意之覚

廻江手永南田尻・北田尻両村庄屋并水夫小頭

兼带地士

紫垣章兵衛

右者及老年役儀難相勤、御断願出申候間、水夫小頭之儀者差免申度奉存候。

右紫垣章兵衛二男二而会所小頭東阿高村庄屋

後見兼带

紫垣久四郎

当西三十八歳

右者生得手全有之、壮健ニ茂御座候間、父跡水夫小頭申付度奉存候間、在勤中御郡代直触被仰付被下候様奉願候。右之通御内意奉願候条、宜被成御參談可被下候。以上

嘉永二年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

章兵衛儀、及老年、水夫小頭兼带相勤兼候付、願之通差免有之候様及達、二男紫垣久四郎儀、水夫小頭被申付度由、達之通ニ付、

(朱書)  
[右僉議之通聞四月九日達]

覚

廻江手永南田尻・北田尻両村庄屋并水夫小頭

兼带

紫垣章兵衛

右章兵衛二男二而廻江会所小頭、東阿高村庄屋後見兼带

紫垣久四郎

右兩人別紙之趣ニ付、見聞仕候処、章兵衛儀、最早及老年、水夫小頭兼带之儀者難相勤、御断願出之趣、無余儀様子相聞、同人二男久四郎儀、役前心懸能出精相勤居候様子ニ付、水夫小頭申付ニ相成候而茂相勤可申人物之由、承申候。以上

西四月

永野敬四郎

(朱書)  
[聞四月九日達]

二四四 定吉

(九一二四一四)

御内意之覚

松山手永御郡代直触ニ而、先年病死仕候草野善十郎倅、申渡無之内病死

定吉

当未五十九歳

未八月

河口嘉久次郎

二四五 岩 太

(九一四一四)

右定吉亡父草野善十郎儀、依寸志之訊、寛政十二年御郡代直触ニ被仰付置候処、文化十年病死仕候。倅定吉儀、其頃幼少ニ有之候間、同姓之草野安左衛門方江育、当時迄其佩押移居申候。惣体人柄宜敷様子ニ相聞申候間、父代被对、寸志之訊相応ニ被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段可然様被成御參談可被下候。以上

御内意之覚

松山手永御郡代直触ニ而先年病死仕候吉武儀

弘化四年七月

杉浦津直

七曾孫

御郡方

岩 太

御奉行衆中

歳十七

僉議

定吉儀、寸志御郡代直触之跡目、究之通無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

及達候処申渡無之内病死

(宋書)  
〔石倉議之通、十月十九日達〕

覚

松山手永御郡代直触ニ而致病死候草野善十郎

倅ニ而郡浦手永三角村居住

定吉

右者、曾祖父儀七儀、文化年中御類焼寸志錢五百目并御才覚寸志錢壹貫七百貳拾貳匁、且寛政五年布古閑村難渋之者江貸置候錢辻貳貫六百四拾九匁捨方仕、都合四貫八百七拾壹匁寸志差出申候間、文政五年御郡代直触ニ被仰付置候処、同七年病死仕候。同人倅專吉と申者茂引統相果、其子萬之助と申者幼少ニ而、跡相統難奉願処より、其佩押移居、是亦先年病死仕候。然処同人倅右岩太儀、人柄も相応ニ有之、且御才覚等寸志之訊も御座候間、曾祖父跡相応ニ被召出被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

弘化四年七月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付見聞仕候処、人物相応ニ有之、行状ニ付而茂、異り候唱承不申候。尤相統延引仕候儀者、父善十郎相果候砌、追而者御手伝等之寸志可被召上時節茂候ハ、繼目之寸志差上候内存ニ而居候中、火災彼是不仕合打統、次第ニ零落ニ陥候故、兎哉角と押移候由ニ而、外ニ何ぞ稜立候子細茂無之様子ニ相聞申候。以上

岩太儀、達之通ニ候得共、曾祖父儀七、文政七年相果候後、倅孫追々ニ相果、及断絶候事ニ付、今更曾祖父之跡目相統ハ難被仰付候間、早々村人数ニ差加候様及達可申哉。

〔朱書〕  
〔右僉議之通、十月十九日達〕

覚

松山手永御郡代直触ニ而、先年致病死候吉武儀七曾孫ニ而宇土町居住

岩太郎

右者、曾祖父跡相統、別紙之趣ニ付見聞仕候処、吉武儀七倅專吉・同人倅萬之助事、儀兵衛其倅右岩太郎ニ而、吉武儀七血脈之曾孫ニ者、相違茂無之、人物相応ニ有之、行状ニ付而茂、異り候唱承不申候。尤数代相統延引仕候儀者、父儀兵衛五六歳之比、曾祖父之儀七と祖父之專吉者、文化七年之夏、四五日を隔テ、父子一同ニ相果、儀兵衛茂岩太郎十二・三歳之比、是又四十内外ニ而相果候由。畢竟打統之早世、殊ニ子孫茂、幼年故免哉角と押移候由ニ而、外ニ格別子細茂無之様子ニ相聞申候。且曾祖父代、御才覚寸志錢差上置候儀等者、本紙之通ニ而相替候儀者、付紙用置候通ニ承申候。以上

未八月

河口嘉久次郎

二四六 稻原藤平

〔九一二四一四〕

御内意之覚

郡浦手永居住御郡代直触ニ而相果候稻原伝右衛門倅

稻原藤平

三十歳

〔付紙〕  
〔本紙稻原伝右衛門と有之候得共、稻原伝左衛門と承申候〕

右者民力強、寸志錢四貫目去二月指上、夫々上納相濟申候間、繼目ニ被立下、藤平儀親同様、御郡代直触被召出被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

弘化四年十一月

杉浦津直

〔朱書〕  
〔僉議之通、十月十九日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

藤平儀、達之通ニ而、繼目寸志高見合之規矩ニ当申候間、御郡代直触可被仰付哉。

覚

郡浦手永栗崎村居住御郡代直触ニ而病死仕候

稻原傳左衛門倅

稻原藤平

右者、親跡相統別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、人物宜、行状ニ付異候唱茂承不申候。父傳左衛門儀、弘化元年十一月病死いたし、倅藤平より繼目寸志錢調達仕置、被召上候段、去二月御達ニ相成、上納相濟候上、跡式相統奉願候内存ニ而、是迄延引仕候様子ニ相聞申候。以上

未十二月

平井恒右衛門

二四七 高濱玄迪、高濱叔涼

(九二四一四)

御内意之覚

廻江手永御惣庄屋触醫師

〔朱書〕

〔本道〕  
三法 破防

高濱玄迪

右者天保六年親跡御惣庄屋触被召出、其後療治方出精いたし、當時懸り村々、廻江・清藤・志々水・三田尻・三拾町・平原・中野・新村、其外錢塘・松山等手永村々ニ懸、貧富無差別、病家々々深切ニ打廻り去年病人數千八百人余有之、貧民江者施薬をも仕、彼是所柄逸稜為合ニ相成候間、旁被対、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

同手永右同断

高濱叔涼

右者天保六年養父跡御惣庄屋直触ニ被召出、同四年療治方出精仕候ニ付而、金子貳百疋被下置候。當時療治懸村々、廻江手永ニ而沈目・陣内・鰐瀬・藤山・両塚原・尾窪・下宮地・東阿高・隈庄・木原村・甲佐内ニ而府領等十余ヶ村ニ及、貧民江者施薬をもいたし、彼是所柄逸廉之為合ニ相成申候間、旁被対御郡代直触ニ被仰付被下候様、有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談、可被下候。以上

弘化三年四月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄迪・叔涼儀、達之通御座候得共、年浅ニ付見合置申候処、当年ニ至、御惣庄屋直触被仰付候而十五年ニ相成、御郡代より内意之趣も御座候付、医業吟味役江及問合申候処、治療習熟、学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様ニ而、丙科ニ相当申候。御郡御目附付、御横目よりハ相応被行候由相達、丙科ニ而右見聞之趣ニ而者、十四年以上進席之見合ニ而、年數前条之通ニ付、兩人共御郡代直触可被仰付哉。

〔朱書〕

〔右僉議之通十月廿九日達  
一聞方之趣替無候事〕

覚

廻江手永醫師高濱玄迪列兩人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

志々水村居住御惣庄屋直触醫師

高濱玄迪

右者家業心懸能、病家貧福之無差別、深切打廻候由、

沈目村居住右同断

高濱叔涼

右者家業心懸能、内外療治方出精いたし、眼科を茂兼、病家廻診等懇ニ有之候由右之通ニ而、兩人共相応ニ被行所柄為合ニ相成候由、且貧民等謝礼届兼候分者、施薬ニ茂相成候様子ニ承申候。以上

午六月

永野敬四郎

二四八 積 新左衛門

(九二四一四)

御内意之覚

郡浦手永御山見抄并宇土御牧見抄兼帯在勤中

地土

積新左衛門

右者、天保元年郡浦手永御山見抄并御山仕立方申付、在勤中地土被仰付、当酉年迄式拾ケ年出精相勤申候。天保二年宇土御牧見抄兼勤申付、当酉年迄拾九ケ年出精相勤申候。右之通ニ而、御山見抄并ニ仕立方・御牧方等何れも厚心を用、且御牧内江居住仕居候ニ付而者、産馬等厚世話仕、数十年出精相勤居候間被賞、地土本席ニ被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永二年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

新左衛門儀当役二十年之内十九年之間ハ、御牧見抄兼帯

相勤、御山牧春見抄方格別行届候由、達之通ニ而年数見

合も御座候間、御郡代直触本席可被仰付哉。但新左衛門

儀、根方御山支配役積三左衛門弟より別家ニ被召出、右

無足之席苗字御免之御惣庄屋直触ニ准候等ニ付、在勤中

御郡代直触可被召出処、如何様之訳とも不相分、在勤中

地土ニ被召出置候間、此節究之通ニ引続、御郡代直触本

席可被仰付哉と奉存、本行之通。

覚

郡浦手永長濱村居住ニ而、同手永御山見抄并

御山仕立方御牧見抄兼帯ニ而在勤中地土

積新左衛門

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、数々之役儀、多年出精相勤、惣体御牧見抄之儀、兩人ニ而、言人者、松山手永御山支配役野田七右衛門江兼勤申付ニ相成居候処、右七右衛門儀者、同手永永尾村居住ニ而、御牧迄之道程式里余茂有之候付、存分之見抄届兼候由。新左衛門儀者、御牧内居住ニ而、諸御用茂多、且一昨年より産馬相増候御仕法ニ付而者、猶更心を用、見抄方出精いたし候由。其外勤年数等、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

西七月

吉田作助

(嘉永三年)

二四九 小山直助、田代勤右衛門

(九一四一四)

御内意之覚

在勤中御郡代直触ニ而榎梓見抄并南走瀉村庄

屋兼帯

小山直助

右直助儀、文化十三年御郡筒被召抱、同十四年南走瀉村庄屋当分申付、文政十二年本役申付、同年榎梓仕立方見抄申付、在勤中御郡代直触被仰付、当年迄庄屋三十三ケ年、榎梓見抄廿一年、出精相勤、南走瀉村之儀者千式百石余之村高ニ、一旦著御救立をも奉願候零落所ニ御座候処、直助庄屋申付候後、親農初手厚成立之仕法深切ニ世話仕、当時者中段以上之村方ニ相成、夫レニ応入氣も宜

敷、且榎梓之儀見拟役相勤候以来、手全以仕立方仕、当時者年々御用十分ニ相整候由ニ而、一稜御益筋と相見申候間、庄屋以来三十三年之稜々勤功被賞、御郡代直触本席被仰付被下候様。

御郡代直触ニ而御郡方上納、大河洲新地帳本

田代勘右衛門

右勘右衛門儀、寛政十一年西走瀉村頭百姓申付、文化六年西走瀉・三ヶ所村庄屋申付、文政五年北走瀉村庄屋当分兼勤申付、同年御郡筒被召抱、直ニ庄屋相勤、同九年御郡方大河洲新地帳本申付、同十二年北走瀉村庄屋差免、天保五年北走瀉村庄屋所替申付、西・三ヶ所村庄屋後見申付、同十年西・三ヶ所村庄屋後見者差免、同十一年頭百姓以来数十年致出精、村方成立之仕法等厚心配いたし候旨ニ付、御郡代直触被仰付、同年依願庄屋差免、当時大河洲新地帳本迄相勤居、頭百姓以来当年迄五十一年相勤、大河洲新地之儀者、水拔、板井樋を石ニ仕替往々一稜之為合ニ相成、右開明に付而も厚心配仕、上納米も相増、彼是被賞、麻上下巻具、被拝領被下候様右之通御内意奉願候条、兩人共ニ可然様被成御參談可被下候。以上

西三月

中嶋九郎左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

(朱世) 直助・勘左  
衛門事、僉議  
之通十月十九  
日達

直助儀御郡筒ニ而庄屋役年数三十三年相成、見合も御座候間、達之通、御郡代直触可被仰付哉。勘左衛門儀、惣年数五十一年之内庄屋并大河洲新地帳本四十老年相勤、

大河洲新地開明ニ付而者功績も有之様子ニ付、達之通、作

紋麻上下一具可被下置哉。但先賞御郡代直触被仰付候以来、十年ニ相成申候。

覚

錢塘手、永小山直助列兩人、別紙之趣ニ付見聞仕候處、左之通御座候。

在勤中御郡代直触ニ而榎梓見拟并南走瀉村庄屋兼帯

小山直助

右者役方数十年心懸厚出精相勤、南走瀉村者千石余之村高、殊ニ零落所ニ而為有之由之処、世話筋能行届、勤農ニ基、村方心得茂宜相成候由、且榎梓見拟之儀茂心懸能仕立方いたし候由、承申候。

御郡代直触ニ而大河洲新地帳本

田代勘左衛門

右者頭百姓以来役方五十年余心懸能出精相勤、大河洲新地開明之節茂種々心配いたし、且板井樋を石ニ仕替、彼是心懸能精勤いたし候由、承申候。

右之通ニ而兩人共勤年数等之次第、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

酉六月

久野多學園

二五〇 坂本岩喜

(九一二四一五)

覚

郡浦手永手場村居住御郡代直触ニ而病死仕候

坂本太郎右衛門倅

坂本岩喜

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付見聞仕候処、素成人物之由。武芸茂  
稽古いたし、行状ニ付異候唱渡承不申候。且亡父太郎右衛門、存  
生中継目寸志錢差出置候儀、本紙書面之通相聞申候。以上

戊三月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

僉議

岩喜儀、継目寸志高、御郡代直触より一段落之規矩ニ相当候付、  
苗字御免之御惣庄屋直触可被仰付哉。

再議

岩喜儀、本文之通相究、及其違候処、同人父坂本太郎右衛門儀、  
根元御郡筒より御郡代直触被仰付置候付、寸志差出不申候而も、  
岩喜儀、御郡筒に者相成候者ニ可有之段、御郡代より内意有之、  
左候得者、岩喜儀、苗字御免之御惣庄屋直触ハ持前程之儀候付、  
右之土台ニ継目寸志貳貫目ハ、御郡代直触引繼之規矩ニ相当申候  
間、父同前御郡代直触可被召出哉。

(朱書)

[右僉議之通、四月十三日達ニ成申候処、猶再議之通、五月三日達]

御内意之覚

郡浦手永御郡代直触ニ而致病死候坂本太郎右

衛門倅

坂本岩喜

右者、当四月父代寸志之訳被对、苗字御免之御惣庄屋直触被仰付  
候。然処父坂本太郎右衛門儀、文政十一年十二月御郡筒被召抱、

同十二年十二月寸志錢差上、御郡代直触被仰付、根元同人儀、下  
地御郡筒より進席被仰付置候間、御郡筒之儀者、右岩喜相統可被  
仰付筈ニ御座候処、先書御内意仕候節、筆足不申処より、右之通  
被仰付候儀と相見、不念之次第ニ奉存候。依之再心奉願候儀、恐  
多奉存候得共、下地御郡筒持懸之処を以、父代寸志被立下、父同  
様御郡代直触ニ被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、  
宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永三年四月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

二五一 松田三為 他

(九一—二四—五)

覚

宇土町居住御郡医師並松田三成倅

松田三為

高森御郡医師古澤玄萃倅

古澤貞舛

大浦彦之允育大浦寿伯倅

大浦順甫

小田手永立花村居住御郡医師並田尻宗甫倅

田尻宗彦

右之面々自勘ニ而、京師江遊学仕、夫々ニ師家を求、学业致出精、  
於彼地心得方宜敷、何茂業術習熟いたし、帰着後も療治方被行候  
様子、見聞仕候。全体無録之身分、難苦を凌、家業相勤候段、篤

志之至ニ付、何卒相応ニ拜賜被仰付被下候様有御座度、左候ハ、家業篤志之規模相立、後進御誘掖にも相成可申奉存候。則江村萬春・磯田嘉左衛門覺書相添、御達仕候。於私共重畳奉願候、以上

三月

莫 玄朴

町野玄肅

三為以下、遊学として京都江罷越、師家を求、いつれも三ヶ年以  
上學業出精習熟いたし、篤志之段被賞被下候様、書面之通ニ御座  
候様之見合ハ、無御座候得共、無味ニも難被差置、御間承届之及  
達候而ハ、如何程ニ可有御座哉。

(朱書)

〔右發議之通、田尻事、五月朔日達、其外四月廿七日達〕

一江村萬春・磯田嘉左衛門添書、通例ニ付控略。

朱書之通候得者、追而見合ニ可相成哉と、左ニ引取書いたし置也。

右之通被仰付候。以上

嘉永三年五月

稲津久兵衛

佐田右平

真野源之助

松田三為

右者、弘化二年より為遊学京都表江罷越、典氣寮御医師山本安房  
守殿・同小兒科山科土佐守殿入門いたし、利益妙院様御付之面々  
病氣之節ハ療治いたし、且又六條太夫様御誦書を茂申上候様か、  
頓而、弘化四年罷下候迄相初、罷下候後、御国許ニ而ハ、岡田松  
頼門弟之由ニ候。

古澤貞舛

右者天保十四年より為遊学、京都表江罷越、花岡流外科高階清

助・痘科佐井文庵江入門いたし、一ヶ年計致修業、夫より大坂表  
江罷越、花岡家江致入門候間、治術相進、塾長を茂いたし、弘化  
三年罷下御国許ニ而ハ、富田宗栗門弟ニ而、是又塾長いたし居候由。

大浦順貞

右同断、京都表江罷越、産科松岡文良・痘科佐井文庵江致入門、  
二科共相進、産科ハ賀川家之仕ニ依候得共、近世畢議之新法仕出  
し候。輩外ニも段々御聞候間、夫へも周施いたし、手術稽古出来  
候。罷下候途中、讃州表ニ暫逗留、段々請給茂有之候由。弘化三  
年罷下候。御国にて富田宗栗門弟之由。且先年ハ竹田へ罷越、花  
岡流之外科をも稽古いたし候由ニ御聞候。  
右三人江村萬春申立略控也。

田尻宗彦

右者弘化四年四月産科習熟之存念ニ而、爰許出立、京都賀川家高  
井錦小路室町居住水原三折と申医師探領術と称し、母子両全之手  
術開業有之候付、此方同七月入門。嘉永元年二月遅速術相伝、同  
年十月産術奥儀皆伝極書之伝書等不残写取、同二年京都発足、爰  
許着之上、療治方專被行候様。初ハ町野玄肅門人之由。磯田嘉左  
衛門申立略控也。

二五二 北野甚七

(九一四一五)

御内意之覚

地士ニ而松山手永横目

北野甚七

歳八十六



右者天明元年馬瀬村庄屋申付、文政三年松原村ニ所替被申付、同四年手永横目兼帯申付、同七年松原村庄屋役者差免、天保六年新開御米山御用宅見拟兼勤申付、当年迄七十ヶ年出精相勤居申候。

一亨和元年勤功且寸志之訳ニより苗字被成御免、文化八年勤功ニより御郡代直触ニ被仰付、天保二年右同断ニ而麻上下一具被為拝領、同九年右同断ニて地士ニ被仰付、右之外鳥目等御賞賜数度有之、全体手全成ものニ而、数十ヶ年役々心懸厚ク出精相勤居候ニ付、相応之御賞美被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永三年四月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

(朱書) 甚七儀、庄屋役・手永横目・新開御米山床御用懸見拟都合七  
〔僉議  
之通七  
月廿六  
日達〕  
十年相勤、前賞地士被仰付候以來十三年ニ相成・作紋麻上下  
ハ先年被下置候間、此節ハ長年勞を被賞、銀五兩可被下置哉。  
但八十六歳高年之者ニ付、達方差急申候筈ニ御座候。

覚

地士ニ而松山手永横目

北野甚七

右者別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、役方数十年心懸能出精相勤、新開御米山御用宅見拟兼勤申候由ニ而、勤年数等委細者本紙書面之通相聞申候。以上

戊六月

河野子次右衛門④

二五三 井上八十八

(九一四一五)

御内意之覚

宇土町居住士席浪人格ニ而相果申候井上藤次郎養子

井上八十八

廿歳

右養父藤次郎儀、文化八年父代寸志之訳ニ被對、士席浪人格ニ被仰付、猶式人扶持被下置候処、去ル弘化三年相果申候。養子八十八儀者、人柄も宜敷御座候間、養父跡相応ニ被召出被下候様、於私奉願候。尤養父藤次郎より、文政三年日光御手伝御用ニ付錢四百目、同十三年關東川々御普請之御用ニ付百目、寸志ニ差上置候。其外所柄取救等之稜も御座候得共、此儀ニ付而者、追て奉願筋も可有御座、至其期宜敷被仰付可被下候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永三年三月

杉浦津直

御奉行衆中

僉議

八十八儀、達之通士席浪人格二代目究之通、苗字刀持懸ニ而町独礼可被仰付哉。  
但御扶持方之儀者、世滅を以式人扶持被下置候付、此節より者祿除り申究御座候。

(朱書)  
〔右僉議之通 七月廿五日奉覽、九月五日申渡〕

覚

宇土町居住土席浪人格ニ而病死仕候井上藤次

郎養子

井上八十八

右者親跡相續、別紙之趣ニ付見聞仕候処、人物宜、文武芸心懸能、出精いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、且養父藤次郎より寸志錢差出置候儀、其外委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

戌六月

河野子次右衛門

二五四 嘉右衛門

(九一四一五)

御内意之覚

戸口浦村頭百姓水夫引廻兼

嘉右衛門

当戊七十八歳

右者、寛政十一年頭百姓申付、同十二年より水夫引廻兼相勤、厚心配仕候ニ付而者、去ル酉正月鳥目老貫五百文被為拜領候。其後兩役共弥以出精数十年相勤候ニ付、天保十二年小脇差御免被仰付、当戊年迄五十二年無怠懈相勤居申候間、相当進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永三年三月

杉浦津直

覚

郡浦手永戸口浦村頭百姓水夫引廻兼帯

嘉右衛門

右者、別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、役方五十二年手全ニ相勤、

村方之世話筋且水夫引廻茂行届、各別出精いたし候由。本紙書面之通相聞申候。以上

戌六月

河野子次右衛門

僉議

〔朱書〕 水夫引廻茂所惣代之見合を以被賞候例有之、右惣代八三〇年已上礼服、四十年已上無苗御惣庄屋直触被仰付候見合せ有之、嘉右衛門儀、水夫引廻五十一年ニ相成、天保十二年十一月六日達、月四十三年目ニ而、小脇指御免被成置候付、此節無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。但頭百姓一篇ニ而も、人体ニ依五十年以上相勤候へハ、無苗御惣庄屋直触被仰付候見合旁本文之通御座候。

〔本文〕 年已上礼服、四十年已上無苗御惣庄屋直触被仰付候見合せ有之、嘉右衛門儀、水夫引廻五十一年ニ相成、天保十二年十一月六日達、月四十三年目ニ而、小脇指御免被成置候付、此節無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。但頭百姓一篇ニ而も、人体ニ依五十年以上相勤候へハ、無苗御惣庄屋直触被仰付候見合旁本文之通御座候。

(嘉永四年)

二五五 糸石玄積

(九一四一六)

御内意之覚

郡浦手永居住無苗御惣庄屋直触医師

糸石玄積

右者、天保九年親跡御惣庄屋直触被仰付、当戊年迄十三年ニ相成申候。惣体家業心懸厚、療治懸り、数ヶ村ニ懸、昼夜致奔走且者施薬同然之療治向多御座候処、貧福之無差別懸ニ致療治、於所柄一廉為合ニ相成申候ニ付、旁被賞、御郡代直触進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永三年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄積儀、家業心懸能、療治方相応ニ被行候由、聞方之通ニ付、医業吟味役問合候処、治療習熟学業篤志之段相達、再春館御目附も同様科目丙科相当申候。療治方相応ニ被行候段之在医、右科目ニ而八十四年以上進席之見合ニ御座候処、玄積儀御惣庄屋直触被仰付候已来十四年ニ相成付、達之通御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉議之通、三月十九日達〕

覚

郡浦手永網田村居住御惣庄屋直触医師

糸石玄積

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、医業心懸能、療治方相応ニ被行、病家廻診等、深切ニ有之、貧民之者共、謝礼届兼候儀茂有之由ニ候得共、右体ニ無頓着、病用手厚有之、所柄一稜為合ニ相成候由。委細者本紙書面之通相聞申候。以上

戊六月

河野子次右衛門

二五六 赤澤宇太郎

(九一四一六)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋

赤澤宇太郎

一錢貳拾貳貫八百四拾四匁壹分壹厘

但計石村下手永開新地入目錢之内出錢仕置分

内 七貫六百拾四匁七分

三ヶ一立戻候分

残 拾五貫貳百貳拾九匁四分壹厘

三ヶ二捨方分

佐敷手永道河内村居住御郡代手附横目山本甚

左衛門父

山本甚之助

一錢八拾八貫九百貳拾八匁四分貳厘貳毛

但右同断

内 貳拾九貫六百四拾貳匁八分七毛三弗

三ヶ一立戻候分

残 五拾九貫貳百八拾五匁六分壹厘四毛七弗

三ヶ二捨方分

右者、佐敷手永之儀、惣高三千八百石余、人数六千五百人余ニ而

高・人数至而不鈞合ニ有之、自然非常之凶荒打統、他所米穀融通

差支候様之節者、飢餓之恐不少、先役共以来、追々急飢御取扱之

備、種々心配茂仕候得共、山付者嶮阻・狹隘之村方・海辺者床海

勝ニ而、干渴少、差寄新開見込之場所等も無之、下地御免もから

け居候上、高不相応之宿駅を渡受、年々出夫・出銀等も繁多ニ而、

全体仕法付兼、就中佐敷手永中ニ而、計石村之儀、高八拾石余・

人数八百人余ニおよび、至而作地少御座候得者、都而未業ニ趨漁稼

又者船日雇等を以押移、前々より零落仕居候処、文化十一年先役

共、右村下干潟江所柄、御救として荒畝貳拾町程之新地、御出方

を以、御築立奉願候得共、不被為叶、猶又手永備開ニ奉願候処、

願之通被仰付候ニ付、其節赤沢宇太郎亡父赤澤丑右衛門、当所御

惣庄屋相勤居申候ニ付、右御築立一件主ニ成、心配仕候。依之銀

主才覚等之儀も申談せ候処、同人儀、加入不仕候而者、銀主之

面々不吞込之様子ニ而、丑右衛門所持之地方差出、御間拝借奉願、加入築立ニ相成申候処、其後追々塘手破損修覆料を始、漏留・笠服付等、銀主々々も手ニおよび不申、佐敷・田浦会所官錢之内を以取賄候得共、及不足候ニ付、佐敷会所引受四拾五貫目、御間拝借奉願、追々右拝借并丑右衛門拝借共返納皆済仕、銀主々々より出錢仕候分百九拾貫目余、都合式百六拾貫目余之入目錢ニ而、築留出来仕居候処、去ル天保十四年九月非常之高汐・強風ニ而、塘手式ケ所根切、壹ケ所中切、其外半崩洩穿等數十ケ所之損所出来、新地内一凹汐入皆無ニ相成候ニ付、早速取防、修覆之儀、銀主中江申談せ候処、追々余計之出錢仕居候上、猶又修覆料難渋之趣ニ有之、尤兼而佐敷手永備開ニ悉皆引受申度存念ニ付、幸之折柄、銀主中江重畳申談せ、追々振出置候出錢高百九拾貫目余之内、三ケ一六拾三貫目余立戻、残百貳拾貫目余之内、民力強之意ニ而、捨方いたし候様申談せ候由之処、後年一稜之德米収納可仕目当を以、余計之出錢茂仕置、未々各別之德米も収納不仕内、三ケ二之捨方ニ而除候者、甚残念之様子ニ御座候得共、猶弥ヶ上余計之修覆料出錢も不輒且者民力強之主意を以申諭せ候趣、彼是難黙止、外同様三ケ二捨方ニ而除申候ニ付、佐敷手永中より諸品・出夫等引受、寸志且右修覆料備、田浦手永壹歩半御備有余等拝借奉願、右之通三ケ一立戻、御譜請向夫々成就仕申候処、速ニ毛付ニ相成、其後者各別之申分も少、村下之儀ニ御座候得者、垢溜能次第ニ、地味宜相成、跡作も充分出来仕、当時毛付畝德米之内、付紙之通ニ而、一稜之手永備、別而村方成立之一助ニ相成申候。然処右之通一時之破損ニ而、悉皆、佐敷手永之備ニ相成、後年程手厚相成、先者一手永之幸福ニ而御座候。必意前文之通、銀主者美之德米目当を以、

成丈出精出方仕置、大略堅クニ相成、漸相応之德米所務際ニ至、天災と者乍申、一時之破損ニ而、弥ヶ上之出錢難渋之趣茂有之候得共、一者民力強之趣意ニ度対、旁三ケ二數拾貫目之錢高捨方いたし候ニ付悉皆、手永開ニ相成、後年急飢之御備打立候儀、於其身者聊念慮内望之筋有之間敷候得共、前条之趣其佝も難被閣、別而赤澤丑右衛門儀者、役前ニ而、開発之心配殊ニ銀主誘之ため、自身引受、御間拝借等奉願加入、彼是不一形心配も仕候様子ニ御座候間、旁如何様卒相応之御賞美被仰付被下候様。尤赤澤丑右衛門儀者、先年病死仕、山本甚之助儀者、倅山本甚左衛門相統仕居申候間、右宇太郎・甚左衛門江御賞美被仰付被下候様、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

嘉永三年七月

御郡方

御奉行衆中

芦北 御郡代

僉議

質地借財捨方寸志者、員數之多少不依、総而御間承届之見合ニ御座候。尤御救立ニ相究候村方捨遣候者者、其程三応し、章服も被下置筈ニ御座候。本文赤澤宇太郎・山本甚左衛門、父代佐敷手永備開築立之節、入目錢兩人より振替置候処、先年非常之高汐・強風ニ而、新地及破損候節、修覆數八ヶ上之出錢難渋之由ニ付、佐敷会所より引受、右兩人出錢之内三ケ一立戻、三ケ二捨方いたし候付、相応被賞被下候様。書面之通御座候。質地借財捨方寸志者、惣高之四歩通を、民力強之規矩を以被賞究御座候。右兩人之捨方者、質地借財捨方と者、様子も違申候得共、甚之助儀者、全德米

目当ニ出銭いたし置候。未破損手入之出銭出来兼候処より、無余

覚

松山手永御惣庄屋

赤澤宇太郎

儀三ヶ二捨方いたし候趣ニ相聞、未夕徳米収納いたし不申由ニ者候得共、矢張質地借財捨方同様、割減を以可被賞哉。尤余計之高

ニ付、相当之拜領方者出来不申、斟酌を以、左之通。

錢高貳拾貳貫八百目余之内

一拾五貫貳百目余

内

四歩通

松山手永御惣庄屋

作紋小袖一

赤澤宇太郎

錢高八拾八貫九百目余之内

一五拾九貫貳百目余

捨方

四歩通

佐敷手永御郡代手付横目山本甚左衛門父

作紋衿一

山本甚之助

同小袖一

山本甚之助

同衿羽織一

右之通可被下置哉。尤御救立ニ相成候儀者無之由ニ候得共、佐敷

手永之儀、御救として、御出方を以、新地築立願出も為有之由候

得共、不被為叶、猶又手永備開願出、近年者拾六町余毛付ニ相成、

付紙之通、徳米相納、所柄一稜為合ニ相成候由ニ付、本行之通相

しらべ申候。

但本文之通候得共、甚之助拜領方ハ、達之通、当代甚左衛門江可

被下置哉。

一錢貳拾貳貫八百四拾四匁七分

但計石村下手永開新地入目之内出銭仕置候分。

内

七貫六百拾四匁七分

但出銭之三ヶ一、右同人江立戻ニ相成候分。

残而拾五貫貳百貳拾九匁四分壹厘

但出銭之内三ヶ二捨方いたし候分。

佐敷手永道河内村居住御郡代手附横目山本甚

左衛門父

山本甚之助

一錢八拾八貫九百貳拾八匁四分貳厘貳毛

但計石村下手永開新地入目之内出銭仕置候分。

内

貳拾九貫六百四拾貳匁八分七毛三弗

但出銭之三ヶ一、右同人江立戻ニ相成候分。

残而五拾九貫貳百八拾五匁六分壹厘四毛七弗

但出銭之内三ヶ二捨方いたし候分。

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、佐敷手永之儀、高・人数不鈎合ニ

有之、及難渡候由ニ而、去ル文化依願、同手永於計石村手永備開

として、畝數貳拾町程之新地築立ニ相成候砌、右宇太郎亡父赤澤

丑右衛門儀者、其節御惣庄屋在勤ニ而、種々心配為致様子ニ而、入

目銭之内、銀主々々為倡、所持之地方引当拜借を以、貳拾四貫八

(朱書)  
「右僉議之通、七月廿九日申渡且達」

百四拾四匁余、山本甚之助より八拾八貫九百貳拾八匁余振替置候由。尤丑右衛門儀者、内存之儀茂有之間敷候得共、甚之助儀者内実者徳米目当ニ出銭之様子ニ候得共、右新地之儀、築留後、追々塘手破損等有之、耽と徳米収納茂いたし不申内、天保十四年之秋、非常之高沙・強風ニ而、塘手所々及破損、修覆料等八ヶ上之出銭難渋之由ニ而、佐敷会所より引請、右出銭之内、兩人共右之通三ヶ一立戻、三ヶ二捨方いたし候由之処、其後者、格別申分茂無之、近年拾六町余者、毛付ニ相成、跡作茂充分出来いたし、年々本紙付紙之通、徳米相納、所柄一稜為合ニ相成候由。其外委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

亥二月

吉田作助

山野井典次

(朱書)  
[亥七月廿九日申渡且達]

二五七 菊地丹次

(九一四一六)

御内意之覚

廻江手永御惣庄屋直触ニ而三拾丁村庄屋

菊地丹次

当亥七十三歳

右者寛政四年会所見習之呼出、享和二年井樋方小頭申付、文化三年差免小頭代申付、同十一年差免中野村庄屋申付、同十三年西田尻村江所替申付、文政五年役方数年出精仕候旨ニ而礼服被成御免、天保二年役方数年出精仕候旨ニ而無苗御惣庄屋直触ニ被仰付、同

十一年北田尻村江所替申付、同十三年三拾丁村ニ所替申付、同十四年会所見習以来役方数十年出精仕候旨ニ而、苗字御免御惣庄屋直触ニ被仰付、当年迄都合六十ヶ年手全ニ出精仕居申候間、乍恐年功旁ニ被对、御郡代直触ニ進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永四年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

丹次儀、達之通会所見習以来六十年之内、庄屋三十八年、苗字御免後九年ニ相成、此歩些間近ニも御座候得共、惣年数多、且極老ニ付、見合茂御座候間、御郡代直触可被仰付哉。

覚

廻江手永御惣庄屋直触三拾町村庄屋後見

菊地丹次

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、会所見習以来役方数十年心懸能相勤、村方之世話筋茂行届候由、其外勤年数等、本紙書面之通相聞申候。以上

亥八月

鶴田市喜<sup>㊦</sup>

二五八 江上養節

(九一四一六)

御内意之覚

郡浦手永戸口浦居住御郡代直触医師

(朱書)  
[本道]

江上養節

右者天保七年御郡代直触被仰付、兼而医業心懸能療治方之儀、戸口浦・上下網田・濱・赤瀬・中村之内小田良、右六ヶ村ニ而四百軒余、其外所々ニ掛ケ手広療治仕、至貧乏ものニ者施薬もいたし、一体手厚キ人柄ニ而療治方行届、於所柄一廉為合ニ相成申候間被賞、御郡医師並進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜ク被成御參談可被下候。以上

弘化五年三月

杉浦津直

御郡方

御奉行衆中

僉議

養節儀達之通ニ付、医業吟味役江及問合申候処、治療習熟学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣も同様ニ有之、丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目より者、療治方相成被行候由相達、中等ニ相当申候丙科ニ而、右見聞之趣ニ而者十四年以上ニ而進席被仰付見合御座候。養節儀当年ニ至御郡代直触被仰付候。以来十四年ニ相成申候間、御郡医師並可被仰付哉。

覚

郡浦手永戸口浦村居住御郡代直触医師

江上養節

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、医業数年心懸能出精いたし、内外療治方相成ニ被行、病家廻診等手厚有之、所柄為合ニ相成候由。尤本紙ニ施薬と有之候者、貧民謝礼届兼候分等之由承申候。其外病家軒数等之次第者、書面之通ニ相聞申候。以上

申五月

河口嘉久次

二五九 松田三成

(九一四一六)

御内意之覚

宇土町居住歩御小姓列医師

松田三成

〔宋世〕

〔本道〕

三方破の

右三成養父松田三淳と申者、根元八代御郡代直触医師松田三達弟ニ而、明和八年宇土町ニ入医仕、本道外科兼療治方出精仕、平日心懸宣ク、所柄之為ニも相成候ニ付、安永二年宇土御郡代直触ニ被召出、寛政二年療治方出精、且寸志之訳、旁ニ被対、御郡医師並ニ被仰付、文化元年猶寸志之訳ニよつて、三人扶持被下置、同七年家業志厚出精仕、数年施薬をも仕、外ニ寸志をも差出候ニ付、御目見医師ニ被仰付置候処、同十三年病死仕候。然処右三成儀、養父三淳より文化十三年為継目寸志、錢三貫目差出置候処、文政二年家業心懸能、病用手全出精仕、且養父三淳寸志之訳旁被対、式人扶持被下置、歩御小姓列ニ被召出、天保九年家業心懸能、療治方出精仕、御參勤之節、御供中為氣付、数年之間家法之製薬差出、其外追々施薬をもいたし候ニ付、作紋単御羽織一被下置、父跡相統被仰付候。以来当年迄三十三年御郡並之御奉公無懈怠相勤、療治方弥以出精仕、家法之製薬、貧民江施、将又、御參勤之節々、龍虎丹并種々製薬差出候稜々、左之通。

一龍虎丹七千百八拾貼

内

六千八百貼

但文化十四年より天保八年迄御參府之節々無代錢ニ而差出候分。

三百八拾貼

但文政四年より天保八年迄、窮民為取救差出候分。

一 玄妙散四百五拾貼

一 熊胆丸貳百拾五貼

但村々御普請等之節、右同断差出候分。

一 龍虎丹四百六拾七貼

内

三千五百貼

但天保十年より嘉永三年迄御参府之節々指上候分。

三拾貼

但天保九年御巡見衆御通行之節差出候分。

九百三拾七貼

但天保十年より嘉永三年迄窮民為取救差出候分。

一 熊胆丸九百三拾七貼

但天保十年より嘉永三年迄窮民為取救右同断

龍虎丹合壹万千六百四拾七貼

但巻貼ニ付五拾文宛、代錢都合八貫三百拾九匁貳分九厘

熊胆丸合千百五拾貳貼

但右同断、八百貳拾貳匁八分六厘

玄妙散合四百五拾貼

但巻貼貳拾四文宛、代錢合百五拾四匁二分九厘

惣合而九貫貳百九拾六匁四分四厘

一 当時療治懸之軒數五百余、病人數九百人程療治仕候。右之通御座

候処、三成儀惣体篤実ニ有之、療治方厚出精仕、藥品等別而入念

候ニ付、療治懸之向々一稜為合ニ相成、最早御奉公三十三年手全

相勤、数年余計之施薬をも仕、殊ニ宇土町之儀者宿駅之所柄ニ付、

不絶自他通行之病用多、前条外ニも追々施薬仕候由、既ニ御参勤

之節、御供中為氣付、不相替製薬差上候ニ付而ハ、厚志之至ニ付

被召上候間、其時々御達ニ茂相成、多年余計之貼數寸志ニ差出、

彼是奇特之儀ニ茂御座候間、年功旁ニ被对乍恐、此節御目見医師ニ

進席被仰付被下候様、於私も奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被

成御参談可被下候。以上

嘉永四年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

〔朱書〕

〔僉議之通十  
月朔日江戸御  
十二月三日申  
渡〕

三 成儀家業心懸能、療治方相応ニ被行、且御参勤之節々

御供中江、家法之製薬數年之間差出来、其外貧民江施薬

を茂いたし候由、達之通ニ付、医業吟味役問合せ申候処、

治療習熟、学業篤志之段相達、再春館御目附茂同様科目

丙科ニ相当り申候。療治方相応ニ被行候等位之在医丙科ニ

相当候へハ、十四年目以上進席之究ニ有之、三成儀父跡

目ニ被召出候以來三十三年、前賞作紋単羽織被下置候。

以來茂十四年相成候付、達之通、御目見医師可被仰付哉。

吉田作助

平井恒右衛門

覚

宇土町居住、歩御小姓列医師 松田三成

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業數十年心懸能出精いたし、内



外療治方相応ニ被行、病家廻診等深切ニ有之、且、御參勤之節々御供中為氣付、數年之間家法之製薬差出、其外貧民江茂追々施薬いたし候ニ付而著、天保九年御賞美茂被仰付候由。其後茂不相替今以數年之間余計之貼数差出、彼是一稜為合ニ相成候由。其外委細者本紙書面之通ニ而相替候之儀者、付紙仕置候通承申候。以上

亥八月

吉田作助<sup>㊦</sup>

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

(嘉永五年)

二六〇 水口才助

(九一四一七)

御内意之覚

(付紙)

〔下ニ付札也〕

本紙才助儀俸ニ有之候得共、実者惠助小者之時分、姉之子を養育いたし、追而養子ニ任、其後惠助儀寸志銀差出、御郡代直觸被仰付候節、入別候ニ俸と書出来候得共、実者前文之通、養子ニ相違無之由、承申候事、  
亥十一月 吉武英右衛門

郡浦手永網田村居住、地土ニ而致病死

候水口才助俸

水口才助

当亥六拾七歳

右者父惠助儀享和二年御銀所預潰方ニ付、鳥目壹貫五百目寸志差上、苗字刀御免御郡代直觸被仰付、同四年御才覚錢為寸志、八百五拾目并關東筋川々御普請御手伝御用ニ付、寸志錢百五拾目差上候ニ付、文化元年地土進席被仰付、同三年龍ノ口御類焼ニ付、鳥目壹貫目寸志差上候処、追而繼目之功ニ立可被下段、御達ニ相成、

当年迄五十年相勤、当四月病死仕候。俸才助儀手全成者ニ而、弘化二年魚類見取申付、当年迄七ヶ年相勤申候。且又劍術之儀、小崎孫右衛門弟ニ而、二天流五法并三先相伝仕、炮術之儀、池部次郎助門弟ニ而、目錄相伝仕、柔術之儀、宇土御家中武藤勘四郎門弟ニ而、目錄并印可相伝仕、相心御用ニ可相立者ニ見聞仕候。然処、御才覚寸志之儀者、先役より二代相統之合を以相倡置候由ニ付、父代寸志之訳旁ニ被対、乍恐親同様地土ニ被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永四年七月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

才助儀達之通ニ而、御才覚銀并預潰之寸志ハ、二代相統之合を以被誘置候由ニ付、二代目迄ハ父同様引統被仰付候見合ニ御座候間、父同様地土被召出、龍口御類焼ニ付而著、寸志ハ追而之繼目之内ニ可被立成段、猶及達可申哉。

(朱書)

〔右僉議之通正月廿一日達〕

覚

郡浦手永網田村居住地土ニ而病死仕候水口才助

助養子

水口才助

右者、親跡相統、別紙之趣ニ付見聞仕候処、手全成人物ニ而、武芸茂相嗜居、魚類見取申付ニ相成居、行状ニ付異候唱承不申、且亡父惠助より稜々寸志銀差出置候次第、本紙書面之通に而、御赦免開等者、所持不仕由承申候。以上

亥十一月

吉武英右衛門⑩

二六一 中村順太

(九一二四一七)

御内意之覚

郡浦手永独礼、御山支配役ニ而病死仕候中村  
小左衛門倅

中村順太

当亥四拾壹歳

右先祖者中村右馬之助と申、清正公江奉公仕、忠廣公御改易後浪人仕、宇土郡網田村江居住仕居候処、倅中村小左衛門儀、宝永七年壹領一疋被召出、下網田村之内ニ而御赦免開をも被下置、順太祖父中村武右衛門迄四代一領一疋相統被仰付、同人儀数々役付被仰付、諸役人段進席被仰付、寛政七年病死仕候。其子中村小左衛門儀、寛政八年親武右衛門跡諸役人段相統被仰付、同十二年三破神伝流炮術御家人中稽古引廻申付、文化十三年師役より代見をも申付ニ相成、引廻已来五十二年厚世話仕、同年塘方助役助勤申付、文政元年本役被仰付、松山手永網津村灰石場并郡浦手永海辺石見拟兼帯申付、同二年迄四ヶ年相勤居申候処、同三年塘方助役并石場見拟兼帯被差免、宇土郡御山支配役被仰付、同五年御仕立櫛楮見拟兼帯被仰付、当年迄三十二年各別出精相勤、文政八年二天流劍術代見申付ニ相成、所柄御家人中引廻世話仕、倡方能行届申候処、弘化四年役方数十年心懸厚出精相勤、且及老年候迄武芸相励、所柄同門相倡、世話筋行届候ニ付、独礼被仰付置、総年数役方三十六年、御郡並之御奉公共都合五拾六ヶ年精勤仕、当八月病死仕

候。倅前文順太儀惣体人柄宜敷、劍術之儀者小崎家之門弟ニ而二天流五法三先并一拍子相伝仕、炮術之儀ハ三破神伝流池部次郎助門弟ニ而、目錄相伝仕、兼而心懸厚出精仕、御家人之持前心得方も宜敷、文政十一年御山支配役并櫛楮見拟代勤被仰付、当年迄三拾四年相勤、平日御山内打廻り、仕立方をも心懸出精仕、屹と御用ニ相立候者ニ御座候。父小左衛門儀、前条之通数々之御役并御郡並之御奉公共ニ者五十六年相勤、且炮劍之両芸代見引廻をも数年厚世話仕候ニ付、大勢之御家人稽古行届、御国倡一稜之御備も相立候ニ付、乍恐父子稜々之勤功ニ被対、順太儀親跡独礼相統被仰付、直ニ御山支配役、櫛楮見拟之儀も親同様兼勤被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永四年十二月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

順太議父中村小左衛門儀、寛政八年父中村武右衛門数十年之勤、且寸志之訳旁被対、諸役人段被仰付、文化十三年塘方助役助勤以來役付、三十六年相勤独礼被仰付置、去八月相果申候。順太儀独礼跡目究之通一領一疋被召出、父跡宇土郡御山支配役被仰付、在勤中諸役人段被仰付、毎歳米拾五俵完可被下置哉。但小左衛門儀、御郡並御奉公共ニ五十六年相勤、順太儀も代勤三十四年相勤候付、独礼相統被仰付候様との申立ニ御座候得共、御郡並、且父代役ハ難取用、本文之通相しらへ申候。且又、櫛楮見拟之儀者御郡代限ニ申付候役ニ付、父小左衛門江被仰付置候儀も相分不申候付、此

節も相省置申候。

(朱書)  
〔右僉議之通一月廿五日送〕

覚

郡浦手永前越村居住独礼御山支配役ニ而病死  
仕候中村小左衛門倅

中村順太

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、人物宜武芸之儀、劍術者  
二天流一拍子打、炮術者神伝流目錄相伝茂相濟、行状ニ付異候唱  
相聞不申、御山支配役并櫛楮見拟兼帯代役茂被仰付置、出精相勤  
居候様子ニ付、本紙申立之通被仰付候而茂、可然人物と相聞申候。  
且家筋其外父子勤年数等之次第、委細者本紙書面之通承申候。以  
上

子二月

柴田仙左衛門印

二六二 澤田善次郎

(九一四一七)

御内意之覚

苗字刀御免、町独礼ニ而宇土町別当役

澤田善次郎

右者宇土町之儀、以前より別当兩人役ニ而御座候処、善次郎儀、  
天保元年三月本役兩人之外ニ別当助役申付、同年十二月一人欠跡  
本役申付、天保五年尚一人之欠跡共ニ善次郎独職ニ申付、当年迄  
都合二十二年相勤候内、三ヶ年者兩人役、十八年を一人役ニ而精  
勤仕居申候。

一 関東筋川々御普請御手伝御用ニ付寸志一件、初発より委申談、出  
精仕候旨ニ而、金子貳百疋被下置候。

一 天保十二年下益城・宇土於海辺新地御築立ニ付、出在御役人止宿  
等、無支様心配仕候旨ニ而、金子百疋被下置候。

一 錢貳百四拾目

但文政八年養父沢田忠三郎より立岡堤掘添之節、為寸志酒石五  
斗指出候分。

一 同三百五拾目

但文政十年右同人より宇土町出火之節、為取救差出候分。

右之通ニ而、宇土町之儀惣人数貳千五百人程有之、以前者在町ニ而  
御座候処、宝曆年中准五ヶ町ニ被仰付、寺院御家人之居住茂多、  
宿駅被請、自他通行繁り、従前々御巡見衆・遊行上人御休泊其外  
公義御役人・御大名方御通行地場之諸御役人休泊等者、必多度絶  
不申、殊更宇土様御館下町ニ而御家中を受、其外種々役前繁雜之  
所柄ニ付、町別当役之儀、以前より兩人役ニ而、時ニより助役も申  
付来候処、善次郎儀生得篤実ニ而、役筋吞込能行届候ニ付、去天  
保五年より一人役ニ申付、各別精勤仕、諸専心を用、多人数之所  
柄、兼而示方等も行届候ニ付、近年町内穩ニ有之、御難題筋引起  
不申、近年別而困窮之年柄打統下地零落之町方難涉弥増、取統兼  
候者も不少候処、富家々々江申談、追々救売之取計等仕、平常粮  
物之手当、種々心を尽、町内勝手宜敷面々、買備・救売之申談等  
厚世話仕、且宇土町之儀、以前者御出方を以、御本陣御手入茂被  
仰付来候処、近十年者被差止、自勤作事、又者富家々々より出錢  
等申談、御巡見衆其外御出御用等諸事、無御支様取計、将又駅所  
建馬之儀茂、御郡中之半方を宇土より引受、身上段取を以受持候

ニ付而茂、兼而心配多、諸御役人休泊ニ付而者、昼夜之無差別、宿究之心配も有之、町方多人數之取扱等、數年無間抜取計、其外町方ニ懸り候筋、一体取扱能、兩人役之処老人ニ而精勤仕、且乍聊養父代以来之寸志、取救之稜も有之候ニ付、其身二十二年之勤勞旁被对、乍恐被賞椽御紋之御品被下置候様、於私奉願候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永四年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

準五ヶ町別当被賞之例少ク究居候儀無御座候得共、十八年より二十五年迄之内ニ而、苗字被成御免候見合追々御座候。本文善次郎儀者、寸志ニ而町独礼被仰付置、別当三十二年ニ相成、是迄年功被賞無之候付、作紋麻上下一具可被下置哉。但椽御紋御上下之申立ニ御座候得共、熊本町別当同様之被賞ニ相当申候間、本文之通相しらへ申候。且又寸志之儀ハ、御郡方付紙之通御座候得共、御間承届之及達可申哉。

(朱書)  
〔右僉議之通、子十月十三日申渡且達〕

覚

苗字刀御免町独礼ニ而宇土町別当役

沢田善次郎

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、別当助勤以来役前心懸能、數年出精相勤、惣体宇土町之儀、以前より天保五年迄者別当兩人為有之由之処、吾人者欠成ニ而、其後善次郎老人ニ而相勤、諸御用筋繁雜ニ有之候処、役前吞込能、諸事心を用、多人數之町方兼而示方茂

能行届候由。且養父沢田忠三郎より寸志等差出置候儀、其外勤年數等、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

亥八月

吉田作助<sup>㊦</sup>

平井恒右衛門<sup>㊧</sup>

(朱書)  
〔子十月十三日申渡且達〕

二六三 辛川良右衛門

(九一四一七)

地士ニ而郡浦会所手代

辛川良右衛門

当子六拾八歳

(付紙)  
〔本行辛川良右衛門寛政十年会所小頭申付に有之候者小頭代々由三而享和元年十一月小頭本役申付ニ相成候由承申候事  
子七月  
久野多学〕

右者寛政十三年会所小頭申付、文化十一年村々質地代錢捨遣候ニ付、親跡御郡代直触被仰付、同十二年会所詰申付、同十四年栗崎村庄屋後見兼帯申付、文政七年手代役申付、天保三年窮民御取救寸志差出、地士被仰付、小頭以来当年迄五拾五ヶ年出精相勤居申候。

一当手永御給知在之儀、連々無類之零落所ニ而、先年追々御救立、新百姓茂取立候得共、兎角成立不申、年々高地片付兼御難題無際限候ニ付而ハ、良右衛門儀、右村々請込申付置、成立之仕法筋等種々見込を付、養水方并水氣拔等之新井手立新堤堀方等、別段心を用精勤仕候ニ付、地味変化一毛作之畝方茂跡作出來候様相成、漸々農力相増候ニ付、一人人氣も振立、近年ニ至候而ハ、御難題筋簿、高地も無申分相片付、一稜之功

業ニ御座候。

郡浦会所手代ニ而地士

辛川良右衛門

一天保元年役方数十年出精仕、且御給知在連年零落所ニ候処、厚心を用、農業相誘、新堤新井手堀方、彼是成立之儀、各別精勤仕候ニ付、作紋麻上下一具被下置候。右之外小頭已來稜々之御用も受持、何れも出精相勤候内ニ者、手代役之儀も当年迄二十九ヶ年相勤、外々役人共をも相誘、各別精勤仕、都合五拾五ヶ年相勤屹と御用ニ相立候分ニ御座候間、乍恐被賞一領一疋進席被仰付被下候様奉願候、左候て手代役差免、会所見扱役申付度奉存候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永五年四月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

良右衛門儀達之通ニ而、小頭代役以來五十五年之内、小頭本役より五十二年手代二十九年相勤、功業精勤等之様子、書面之通御座候処、庄屋手代等二年功ニ而一領一疋被仰付候。年限之歩ミ無御座候得共、良右衛門儀ハ依寸志地士被仰付置、天保元年作紋麻上下一具被下置候外二年功之被賞無御座役方及五十年余、前賞より茂二十三年ニ相成、格別精勤いたし候由ニ付、達之通一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉議之通于十一月四日達〕

覚

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、役方心懸厚、五十五ヶ年出精相勤御給封在連年零落所候処、良右衛門江成立受込被仰付置候ニ付而者、水気拔、新井手立新堤堀方格別心を用精勤仕候ニ付、地味茂變化仕、漸々農力相増、人氣茂振立、高地等茂無申分相給付候由ニ而、先年御賞美被仰付候得者、尚更心を用精勤いたし候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

子七月

久野多學圃

二六四 松本岩右衛門

(九一四一七)

御内意之覚

御郡代直触ニ而郡浦会所下代

松本岩右衛門

右者寛政十年会所見習ニ呼出、文化三年会所詰ニ而御免方附申付、天保七年代下役申付、当子年迄都合五拾五年出精相勤居申候。一文政九年役方多年心懸厚致出精、且郡浦手永御家人中棒火矢稽古道具、父代自勤ニ而仕立置候を自勤仕繼仕旁ニ付苗字御免、御惣庄屋直触被仰付、平日武芸数々心懸能致出精候段、御間御聞届ニ相成申候。

一天保八年会所見習以來数十年致出精、御免方諸手数筋無異乱相糺、且父代自勤を以仕立置候在御家人中棒火矢稽古道具不相替自勤を以取計、彼是心懸宜敷候ニ付、御郡代直触被仰付候。

右之外稜々御用筋請持、五拾五ヶ年之間手全ニ精勤仕御免方之儀ハ別而功熟ニ而、地方之糺方等研究筋行届、外々役人共江も厚敷にいたし、屹と御用ニ相立候旨ニ御座候間、乍恐被賞地土進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永五年四月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

岩右衛門儀達之通ニ而、会所見習以來五十五年之内、会所詰四十七年ニ相成、御郡代直触被仰付候而十六年ニ相成申候。下代会所詰五十五年以上ニ而御郡代直触被仰付見合ニ御座候處、岩右衛門儀ハ親跡目之節、苗字御免御惣庄屋直触被仰付置候付、一等引上り右直触被仰付置、前賞より茂十六年ニ相成、功業之趣茂書面之通ニ而見合茂御座候間達之通地土可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔右僉儀之通子十二月四日達〕

覚

郡浦会所下代ニ而御郡代直触

松本岩右衛門

右者別紙之趣ニ付見聞仕候處、会所見習以來役方心懸厚、五十五ヶ年出精相勤、別而御免方之儀者功熟之由ニ而、地方之糺方等研究筋行届、將又父代自勤ニ而仕立置候棒火矢稽古道具等之仕繼にて、不相替自勤を以取計候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

子七月

久野多學

〔嘉永六年〕

二六五 橘 喜又

〔九十二四一八〕

覚

松山手永網津村居住御郡代直触ニ而病死仕候  
橘丈平孫養子

橘 喜又

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候處、人物宜、武芸稽古いたし行状ニ付異候唱相聞不申、其外委細者本紙書面之通相聞申候。以上

子十二月

河野子次右衛門

御内意之覚

御郡代直触ニ而病死仕候松山手永網津村居住  
橘丈平孫養子

橘 喜又

当子三十三歳

右喜又養祖父橘丈平儀、文化五年龍口御屋敷御類焼ニ付寸志錢差上、御郡代直触ニ被仰付、当年迄四十五年相勤、当五月病死仕候。依之孫養子喜又儀、手全成ものニ付、無苗ニ而御惣庄屋直触被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜ク被成御參談可被下候。以上

嘉永五年十月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜又儀、達之通ニ付、御郡代直触跡目究之通、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
右僉議之通二月四日達

二六六 喜右衛門、嘉兵衛

(九一四一八)

覚

郡浦会所詰御免方附ニ而無苗御惣庄屋直触

喜右衛門

右同会所詰

嘉兵衛

右兩人別紙之趣ニ付見聞仕候處、何れ茂手全有之、数十年会所江罷出居、諸事物馴居候由ニ付、本紙申立之通喜右衛門儀者俵物方、嘉兵衛儀水夫小頭申付ニ相成候而茂、可然人物と相聞申候。以上

子十一月

久野多學園

御内意之覚

郡浦手永会所詰ニ而御免方付

喜右衛門

当子六拾三歳

右者追々御取締被仰付候俵物取扱筋之儀、一昨春右懸り手永々々御惣庄屋共會議之趣等御内意仕置候通ニ而、兼而漁浦之取締行届不申而者密売買之契有之、其上中損償之取扱筋等嚴重ニ無之候而者

難相濟、旁ニ付、右喜右衛門儀手全成者ニ而、数十年会所役相勤、諸事物馴居候ニ付、俵物方受込見拟兼帶申付度奉存候間、外々御見合を以、在勤中御郡代直触被仰付被下候様。

右同会所詰

嘉兵衛

右会所詰数十年手全精勤仕、浦方之何手馴居候者ニ付、当九月致病死候矢津源次郎跡水夫小頭申付度奉存候間、在勤中御郡代直触被仰付被下候様。

右之通夫々被仰付被下候様有御座度奉願候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永五年十月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜右衛門儀、達之通ニ而、俵物方受込見拟兼帶申付有之度由ニ付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。嘉兵衛儀、水夫小頭欠跡申付有之度由ニ付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

右僉議之通二月四日達

二六七 中園英之助 他

(九一四一八)

覚

郡浦手水中園英之助列三人、別紙之趣ニ付見聞仕候處、左之通ニ御座候。

網田村居住一領壹疋ニ而井樋方助役

中園英之助

右者手全成生質ニ而、塘方助役以来役前数十年心懸能出精相勤、  
壯健ニ茂有之、一体物馴居候由。

在勤中一領壹疋ニ而塘方助役并井樋方上見扱

郡浦又太

右者役前数年心懸能出精相勤、御普請筋之儀功者ニ有之候由。

長崎村居住御郡代直触ニ而松山・郡浦両手永  
算学倡方

虎口太郎兵衛

右者手堅生質ニ而筆算達者ニ仕、相応ニ才氣茂有之、測量方之儀茂  
功熟ニ有之候ニ付而者追々御普請筋ニ茂罷出、御用ニ相立候由。

右之通ニ而孰茂本紙申立之通被仰付候而茂、可然人物と相聞申候。  
以上

丑三月

平井恒右衛門

御内意之覚

一領一疋ニ而郡浦手永井樋方助役

中園英之助

当丑五拾八歳

右者手全成生質ニ而塘方助役、井樋方助役数十年相勤、一体物馴  
御用ニ相立候者ニ御座候間、病死仕候中村小左衛門跡、郡浦手永  
御山支配役被仰付、在勤中諸役人段被仰付被下候様。

在勤中一領一疋ニ而郡浦手永塘方助役并井樋方

上見扱

郡浦又太

当丑四拾九歳

右者井樋方御普請筋功熟ニ有之候付、前文英之助儀、願之通被仰  
付候ハバ、同人席跡井樋方助役申付度御座候間、在勤中之儀者是  
迄之通被仰付置被下候様。

御郡代直触ニ而郡浦・松山両手永算学倡方

虎口太郎兵衛

右者手堅キ人質ニ而、算学并測量方之儀、甲斐多喜次門弟ニ而、皆  
伝茂相濟、功熟ニ有之候付、追々御普請向測量等御用ニ相立居申  
候間、又太儀、願之通被仰付候ハバ、同人跡塘方助役申付度御座  
候間、在勤中一領一疋ニ被仰付被下候様。

右之通夫々宜敷被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内  
意仕候条、可然被成御參談可被下候。以上

嘉永六年三月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

英之助儀、達之通付、中村小左衛門跡郡浦手永御山支配役被仰付、  
在勤中諸役人段被仰付、毎歳米拾五俵完可被下置哉。又太儀達之  
通ニ付在勤席之儀、是迄之儀可被仰付哉。太郎兵衛儀、達之通塘  
方助役申付有之度由付、在勤中一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉議之通西月初日達〕

二六八 庄兵衛

(九一四一八)

覚



宇土町五丁目町頭

庄兵衛

嘉永六年三月

御郡方

吉田平之助

右者別紙之趣ニ付見聞仕候處、役方数十年心懸能出精相勤、町會所帳書を茂兼勤いたし、一体吞込能、御用筋心を用、町内世話筋、茂行届候由ニ而、勤年数等委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

丑三月

平井恒右衛門

御内意之覚

宇土町五丁目丁頭

庄兵衛

当丑六十九歳

右庄兵衛儀、文化八年父庄兵衛と為申者病中故、障等之節丁頭代役申付、同十年親跡五丁目丁頭本役申付、当年迄本役四十一年、

代役二年、都合四十三年精勤仕居申候。天保十年御巡見衆宇土町

御泊之節、別当代ニ而御用相勤候旨ニ而、御間御聞届之御達相成申

候。総体宇土町之儀、宇土御館下之訳ニよつて、准五ヶ町被仰付

置、凡丁数拾丁有之、宿駅茂請居候ニ付而ハ、諸御用向多、丁頭

共之儀茂一丁々々ニ相立居候へとも、町家ニ而役筋不馴、亦者商売

柄ニよつて、渡世方ニ差障候杯、於内輪ハ忌嫌候風弊も有之、旁

丁役可相勤人柄少、近年別而丁頭共病中斷等願出、追々引代り多

中、右庄兵衛儀者生得実体ニ有之、亡父引続丁頭申付候以来、万

端吞込能、商売渡世筋等ニも無係り、御用筋へ諸事心を用、町内

取締能、取計精勤仕居候間、数十年之勤勞ニ被対、乍恐庄兵衛儀、

苗字御免御惣庄屋直触被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。願

之通被仰付被下候ハハ、外々丁頭共励ニも相成可申と奉存候間、

重宜敷被成御參談可被下候。以上

僉議

庄兵衛儀、達之通に付吟味仕候處、鶴崎・佐敷・宇土町ハ准五ヶ

町ニ而、別当役八十二年目、又八十年以上ニ而苗字御免之見合

御座候得共、丁頭八年数相勤候もの無之候哉。被賞之例見兼申候

付、熟考仕候處、川尻・高瀬・高橋町丁頭八十年以上、町御奉

行直触三十年以上苗字御免之見合ニ付、准五ヶ町丁頭之儀茂、年

功次第ニハ相応可被賞筋ニ相見、庄兵衛儀、丁頭代役以来四十三

年、本役四十一年ニ相成、釣合茂宜相見申候ニ付、達之通苗字御

免御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱世)

右僉議之通四月廿一日達

二六九 日隈太郎右衛門

(九一四一八)

覚

郡浦手永赤瀬村居住一領老正ニ而病死仕候日

隈又助養子

日隈太郎右衛門

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候處、人物宜、武芸出精いたし、劍術者ニッ先、炮術者目録相伝相濟居、行状ニ付異候唱相聞不申、且父代寸志錢差上置候儀、本紙書面之通ニ而、御赦免開等者所持仕不申由承申候。以上

丑八月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永一領一疋<sup>ニ</sup>而病死仕候日隈又助養子

日隈太郎右衛門

当丑四拾歳

覚

郡浦手永大田尾村居住一領一疋<sup>ニ</sup>而病死仕候

小林忠助倅

小林喜眞太

右太郎右衛門養父日隈又助儀、父代寸志之訊<sup>ニ</sup>被对、文化三年一領一疋被仰付、当二月病死仕候。然処右又助存生中民力強、寸志六貫目差出度、依願被召上、追而繼目之切<sup>ニ</sup>被立下段、御達<sup>ニ</sup>相成、五歩一上納等も去十二月相濟申候。太郎右衛門儀、生得壯健成もの<sup>ニ</sup>而、武芸之儀、劍術者小崎孫右衛門々弟<sup>ニ</sup>而、二天流稽古

丑八月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永一領一疋<sup>ニ</sup>而病死仕候小林忠助倅

小林喜眞太

当丑四拾歳

仕、五法并三先相伝仕、炮術之儀者池邊次郎助門弟<sup>ニ</sup>而、目錄相伝仕、居合之儀者矢野彦左衛門門弟、長刀之儀ハ小堀平右衛門々弟<sup>ニ</sup>而、稽古仕、往々御用<sup>ニ</sup>可相立ものと見聞仕候<sup>ニ</sup>付、乍恐養父代寸志之訊<sup>ニ</sup>被对、一領一疋<sup>ニ</sup>被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

太郎右衛門儀、達之通<sup>ニ</sup>而、寸志高繼目究之規矩<sup>ニ</sup>相当申候間、

父同様一領一疋可被召出哉。

(朱世)

〔右僉議之通丑九月廿日達〕

二七〇 小林喜眞太

(九一四一八)

右者親跡相統、別紙之趣<sup>ニ</sup>付見聞仕候処、人物宜、武芸出精いたし、劍術者三ッ先相伝相濟居、行状<sup>ニ</sup>付異候唱相聞不申、且家筋等之儀、委細者本紙書面之通<sup>ニ</sup>而、御赦免開等者所持いたし不申由承申候。以上

右先祖之儀、小林孫三郎者清正公江仕、忠廣公御改易後浪人仕居候処、右孫三郎子、同孫三郎儀、妙解院様御代歩御小姓<sup>ニ</sup>被召出、

其子小林弥平次と申もの、依願一領一疋被仰付、御赦免地をも被

下置、代々相統被仰付候内、五代目小林弥平次儀、不埒之筋有之、

寛政六年一領一疋被差放、御赦免地をも被召上候。然処、右弥平

次養父小林嘉次右衛門と申者江、源之助と申実子有之、此者寛政

六年一領一疋被召出、代々被下置候。御赦免地をも被為拝領、夫

より当喜眞太父忠助代迄三代一領一疋相統被仰付、忠助儀当正月

病死仕候。倅右喜眞太儀、人柄宜敷、武芸之儀劍術者小崎孫右衛

門々弟<sup>ニ</sup>而、二天流稽古仕、五法并三ッ先相伝仕、炮術之儀者池邊

次郎助門弟、居合者江良眞左衛門門弟、長刀者小堀平右衛門門弟<sup>ニ</sup>

次郎助門弟、居合者江良眞左衛門門弟、長刀者小堀平右衛門門弟<sup>ニ</sup>

而稽古仕、往々御用ニ可相立者と見聞仕、家筋之儀者、前文之通  
代々一領老正相統被仰付来候間、乍恐喜眞太儀、父同様一領老正  
ニ被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御  
参談可被下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

喜眞太儀、達之通ニ而、先祖以来代々一領一正相統之家筋ニ付、  
親跡一領一正可被召出哉。

(朱書)

〔右僉議之通、丑九月廿日達〕

## 二七一 中村権平

(九一四一八)

覚

郡浦手永御山支配役、在勤中諸役人段ニ而病  
死仕候中村小左衛門倅

中村権平

右者親跡相統、別紙之趣ニ付、見聞仕候処、素成生質ニ而、武芸出  
精いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、且家筋等之儀、委細者本紙  
書面之通ニ而、御赦免開建山を茂所持いたし居由承申候。以上

丑八月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

宇土郡御山支配役ニ而病死仕候中村小左衛門

倅

中村権平

当丑十八歳

右先祖之儀、中村右馬助と申、清正公江仕、忠廣公御改易後浪人  
仕、右馬助子小左衛門と申者、依願宝永七年宇土郡一領一正ニ被  
召出、御赦免地をも被下置、代々一領一正相統被仰付候内、四代  
目中村武右衛門、寛政七年御上金之節、鳥目差上候ニ付、諸役人  
段進席被仰付、五代目小左衛門儀諸役人段相統被仰付、劍術・炮  
術代見引廻数十年相勤、且文政三年宇土郡御山支配役被仰付、  
稜々数十年出精ニよつて、弘化四年独礼被仰付相勤居候内、嘉永  
四年病死仕候。其子小左衛門儀、嘉永五年二月一領一正被召出、  
在勤中諸役人段ニ而、御山支配役被仰付置候処、当正月病死仕候。  
倅前文権平儀人柄宜敷、武芸之儀、炮術ハ池部次郎助門弟、劍術  
者中島源之允門弟、居合者矢野彦左衛門々弟、長刀者小堀平右衛  
門々弟ニ而稽古仕、往々御用ニ可相立ものと見聞仕、数代一領老  
正相統之家筋ニ而、乍恐権平儀、親跡一領老正被仰付、直ニ御赦  
免開をも被下置候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成  
御参談可被下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

権平儀、達之通ニ而、先祖以来四代一領一正相統被仰付、五代目  
祖父中村小左衛門儀、父之年旁、且寸志之訳旁ニ而諸役人段被召  
出、追而御山支配役被仰付、勤勞ニ而独礼被仰付置相果候付、父

小左衛門儀独礼之跡究之通一領一疋被召出、御山支配役被仰付、在勤中諸役人段被仰付置候処、当正月相果申候。右之通先祖以来数代一領一疋之家筋ニ付、権平儀、親跡一領一疋被召出、御赦免開建山をも直ニ可被下置哉。

(朱書)

〔右僉議之通丑九月廿日達〕

右之通被仰付候。以上

嘉永六年丑九月

佐田吉左衛門  
真野源之助  
小山門喜

二七二 江 謙吾 他

(九一四一八)

御内意之覚

松嶋手永

前崎村居住在勤中一領一疋

江 謙吾

一錢四貫目  
右者本席御郡代直触被仰付被下候様

松山手永

宇土町居住歩御使番列

岡村伊八郎

松合村居住独礼

一錢壹貫目  
一錢三貫目  
江本喜太郎

宇土町居住右同

一同三貫目  
門田壽三郎

同所右同

一同三貫目

同所苗字御免町独礼

木村又左衛門

一同八貫目

同所御郡代直触

村田忠左衛門

一同拾四貫目

藤本順次

右六人此節土席浪人格被仰付被下候様

松合村居住一領一疋ニ而在勤中諸役人段

一同貳貫目

右者諸役人段本席被仰付被下候様

草野安次郎

宇土町居住苗字刀御免町独礼

一同貳貫目

同町右同

澤田善次郎

一錢貳貫目

右兩人諸役人段被仰付被下候様

桑原作平次

松山御惣庄屋当分

一同八貫目

右者本席一領一疋被仰付被下候様

松山桂助

古保里村居住地士

一同三貫目

松合村居住御郡代直触

野口丈平

一同四貫目

右兩人一領一疋被仰付被下候様

松浦善三郎

高良村居住御郡代直触

一同壹貫目

大見村居住在勤中右同

河野八郎助

一同貳貫五百目

河野九郎次

一同壹貫五百目

龜井幸右衛門

下松山村居住本席右同

松山村居住無苗右同

一同壹貫目

中山直右衛門

一同貳貫五百目

藤右衛門

上古閑村居住御郡代直触

御領村右同

一錢壹貫目

山本幾右衛門

一同貳貫五百目

忠九郎

右五人此節地土被仰付被下候様

三日村右同

一同壹貫目

小曾部村居住御郡代直触ニ而致病死候竹馬幾

一同貳貫五百目

文助

右衛門倅

大口村右同

一同壹貫目

竹馬圓次

一同貳貫五百目

作右衛門

右幾右衛門儀、嘉永五年四月民力強寸志貳貫目差出、守富在御仕

柏原村右同

法付ニ付、本行之通差出候ニ付旁ニ被对、圓次儀、此節地土進席

一同貳貫五百目

源三郎

相統被仰付被下候様。

宇土町居住無苗御惣庄屋直触

下松山村御郡簡

一錢貳貫五百目

茂十郎

一同壹貫五百目

小郷彦右衛門

右十四人此節御郡代直触被仰付被下候様

曾畑村右同

松合村居住右同

一同壹貫五百目

河野潤左衛門

一同貳貫五百目

庄藏

古保里村右同

養子

一同壹貫五百目

野口惣左衛門

文左衛門

網津村右同

齊藤七左衛門

一同壹貫五百目

笹原村右同

右庄藏儀、病氣差癆難相勤、御断願出申候間、願之通御免被仰付被下候様、尤去八月民力強寸志貳貫目差出、守富在御仕法付ニ付、本行之通差出候ニ付旁ニ被对、文左衛門儀、此節御郡代直触ニ進席相統被仰付被下候様。

一錢壹貫五百目

大田黒彦左衛門

網津村右同

宇土町居住右同

一同壹貫五百目

野村勝之助

喜右衛門

岩熊村居住惣庄屋直触

一同壹貫目

養子

一同壹貫五百目

野村勝之助

喜右衛門

善左衛門

右善右衛門儀、病氣差癸難相勤、御断願出申候間、願之通御免被仰付被下候様、尤去八月民力強寸志式貫目差出、守富在御仕法付ニ付、本行之通差出候ニ付旁ニ被对、善左衛門儀、此節苗字御免、御惣庄屋直触相統被仰付被下候様

郡浦手永

郡浦村居住一領老疋

一錢拾貫目

永松清左衛門

同村右同

一回拾貫目

松枝傳藏

右兩人此節土席浪人格被仰付被下候様

栗崎村居住御郡代直触

一回老貫目

稻原覺左衛門

御郡筒ニ而長濱村庄屋

一錢三貫目

釜賀廣次

右兩人此節地土被仰付被下候様

御郡筒ニ而大田尾村庄屋

一回老貫五百目

松浦平右衛門

御惣庄屋直触ニ而中村庄屋

一回老貫五百目

徳永半兵衛

戸口浦村居住御惣庄屋直触

一回老貫五百目

高濱慶八

下網田村居住無苗御惣庄屋直触ニ而致病死候

文平養子

一回老貫五百目

伊右衛門

右者父代民力強寸志式貫五百目去年七月差出置、守富在御仕法付ニ付、本行之通差出候ニ付旁ニ被对、伊右衛門儀、此節御郡代直触進席相統被仰付被下候様

御惣庄屋直触ニ而致病死武左衛門倅

一錢式貫五百目

覺兵衛

但、先寸志ニいたし候出置候分

一回老貫五百目

但、追寸志ニいたし候出置候分

右者父武左衛門より本行之通差出置候訳ニ被对、覺兵衛儀、御郡代直触進席相統被仰付被下候様

下網田村居住無苗御惣庄屋直触

一回四貫目

慶次

右者追而繼目之節、相応ニ進席相統被仰付被下候様。右者廻江手永守富在成立御仕法附に付、寸志差出候面々内望筋右之通御座候。此段御内意仕候条宜敷被成御參談可被下候。以上

丑五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

本行守富在成立之仕法筋取計に付而寸志之儀、御手伝之規矩を以御賞美被仰付等ニ相究居、右江謙吾以下百七十人、寸志高究之規矩ニ相当申候間、夫々達之通可被仰付哉。

(采世)

〔右僉議之通、歩御小姓列以上之通席、丑八月五日江戸奉窺呼出し分丑十月十八日申渡其外同月十五日達〕

二七三 本郷惣右衛門

(九一四一八)

御内意之覚

松山手永古保里村居住御郡代直触

本郷惣右衛門

一錢壹貫目

但、地土ニ進席被仰付被下候処

右者守富在御仕法付寸志右之通差出候ニ付、内望筋之儀一列之内ニ取志らへ御達仕等ニ御座候処、物書手元ニおいて志らへ浅、御届兼候次第奉恐入候段、相達申候間、何卒此節一同但書之通被仰付被下候様可有御座度奉願候。此段至急ニ宜敷被成御參談可被下候。以上

十月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

(朱書)  
[右之通並十月十七日達]

二七四 内田壽太郎

(九一四一八)

御内意之覚

河江手永御惣庄屋当分御代官兼帯

内田壽太郎

右者文政十二年中山会所小頭申付、天保元年会所詰ニ繰上、同三

年手永見拟兼帯申付、在勤中御郡代直触被仰付、同四年中山手永御山支配役当分助勤ニ而、在勤中一領一疋被仰付、毎歳御米拾俵完被下置、同九年河江手永唐物拔荷改方御横目ニ而、在勤中諸役人段被仰付、御郡代手附横目并井樋方助役兼勤申付、同十一年松橋・龜崎兩御新地見拟役兼帯をも申付置候処、同十四年九月杉嶋手永御惣庄屋当分御代官兼帯被仰付、在勤中諸役人段被仰付、弘化二年松山手永ニ所替被仰付、嘉永元年七月御惣庄屋本役被仰付、御知行高式拾石被下置、同年八月本庄手永ニ所替被仰付、同三年四月自分苗字被成御免、同五年四月御知行高式拾石持懸ニ而、河江手永御惣庄屋当分御代官兼帯被仰付、会所役踏出以来当年迄二十五ヶ年之内、御惣庄屋十一年各別出精相勤申候。総体壽太郎儀兼而御見聞も被成下候通、篤実・温和ニして相応ニ氣働も有之、諸事御用向、吞込見巨も宜敷、何れ之手永ニ而も役前心懸厚、差入精勤仕候ニ付、稜々功業も有之、別而河江手永之儀者大場之所柄殊ニ砂川尻新地御築立ニ付而ハ、当時各別御用繁ニ有之候得共、地場臨時之御用筋ともニ聊無間拔取計、所柄氣受も宜敷、御普請向も功熱ニ有之、彼是屹と御用ニ相立候者ニ御座候間、当手永御惣庄屋御知行高之儀、下地三拾石之所柄ニ付、此節拾石被増下、御惣庄屋本役御代官兼帯被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。尤河江恒八儀、未御吟味懸ニ而、身分如何様とも不被仰付内、右之通奉願候儀者悉多御座候得共、壽太郎儀も当時格別御用ニ相立一列同等之者、同役之内より御賞美奉願候様子ニ付、旁其分ニも難閣、何卒被為叶儀ニ御座候て、別途之御取扱を以、此節一同御僉議被仰付度、幾重ニも奉願候。左候ハ、競も失不申、弥以出精相勤可申と奉存候。此段不閣御内意仕候条、宜敷被成御參談可被

下候。以上

嘉永六年四月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

壽太郎儀、杉嶋手永御惣庄屋当分以来十一年、右本役より六年、自分苗字御免より四年ニ相成。本庄手永より去年四月河江手永江当分所替被仰付置候。追々所々江所替被仰付、何れ之手永ニ而茂精勤いたし、稜々功業有之ニ付、御知行高拾石被増下、手永究高三拾石被下置、河江手永御惣庄屋本役被仰付被下候様、達之通御座候。究高三拾石之手永ニ而被仰付置、上等ニ而候へハ、当分役より十年以上、自分苗字より三年以上ニ而究高ニ被仰付見合に付、壽太郎儀者一ヶ年完越居ニ付、御知行高拾石被増下、河江手永御惣庄屋御代官兼帯可被仰付哉。御知行高式拾石被下置候。但河江恒八儀、御吟味懸ニ而、未身分如何様共不被仰付内ニ御座候得共、格別精勤いたし功蹟茂有之、御賞美筋延引ニ相成候付、本文之通相しらべ申候。

(朱書)  
〔石袋議之通五十一月廿四日申渡〕

覚

一錢五拾三貫百拾五匁三分六厘

一夫貳万六千六拾三人

但弘化三年春、松橋御新地田作り養水及不足申候ニ付、河江手永久具曲野懸猫追堤水増、御普請御願ニ相成、成熟仕候処、御入目錢口立之通ニ御座候。尤堤塘築夫方之儀者無賃錢ニ而、河江・松

山・郡浦より被召仕貫キ穴、其外御普請者松山より御引請出来仕候処、即年より養水相備、松橋御新地端々迄茂用水行届、上下逸稜之儀ニ御座候。

一錢四拾九貫九百九拾八匁六分八厘

一夫壹万四千百貳拾貳人

但同午春、北浦御新地田作為養水、杉嶋手永大渡水車場より緑川水御取入之御仕法被仰付、国町并馬瀬村、宇土川口樋発塘都合三ヶ所、底樋を初メ新井手立積所并樋居込御普請ニ相成候処、御入目錢本行之通御座候、尤夫方之儀、夫飯米ニ而も被奉願管ニ御座候処、右御新地ニ付而者、余計之御出方末ニ付、村々御申論ニ相成、無賃錢ニ而被召仕、御普請出来仕候処、御見込通用水唯流仕即年より、畝數四拾町程田作ニ相成申候事。

一錢拾貫五百八拾目壹分六厘

一夫九千七拾六人

但弘化四未春、北浦御新地右養水潤色ニ相成候ニ付、杉嶋手永以下井手筋并樋居込、且笹原村内古田新井手立并御新地内田畑境新井手數百間塘方被仰付候処、水行能相成、昨年之所ニ而者、田作畝方相増、御德米等茂被召上、逸稜之儀と奉存候。

一夫貳千五百四拾三人

但同未春、松山村田方用水不足仕候ニ付、櫛宮下ヶ名之内ニ而、新堤築方手永出夫を以、御普請被仰付候処、養水相備申候事。

一夫千三百五拾六人

但右同古保里村田方用水及不足候ニ付、三十六ヶ所之内、当時迄有懸之堤堀添手永夫を以右同断。

一錢五拾八貫貳拾目八分八厘



但松山手永布古閑・上古閑・曾畑・立岡列并宇土御知行所松原・

江部・新町・本町・巢籠列都合九ヶ村之儀、以前より逆水を以養水ニ仕来申候処、御先役江副驩之助殿御在勤中、杉嶋手永築地より之縁川余水を廻江手永榎津元積より分水を以新井手立ニ而数ヶ所積所并樋居込ニ相成、養水引入ニ相成候処、句這能ク唯流仕一稜之用水ニ相成候段者被為知召上候通ニ御座候。然処右御普請之儀、江副御在勤中、卒業ニ至兼候儀も御座候処、壽太郎殿御所付後、潤色ニ御仕法等被附下、初発より之御入目明細御調立ニ相成候処、右之通ニ而并手床御年貢・諸出米銀償之儀茂、畝懸出米等之御仕法立ニ相成、所柄養水逸稜之儀と奉存候。

一 錢貳百貳貫五百七拾五匁分九厘八毛

但松山手永村々御年貢・諸上納滞并諸御用錢拜借被仰付置候分、極々難渋之者、又者竈潰等ニ而、如何体ニ茂御取立出来兼候分、去々年来内輪之次第、委敷御糺方ニ相成、永年賦等を以御取立之御仕法立ニ相成候事。

一 糶千五百三拾八石五斗八升三合

但松山手永御困糶、先年以來拜借滞高本行之通ニ御座候処、当親方殿御所付即下より精々糺方ニ相成候処、村方々碎候而、拜借柄次第ニ寄、拜借捨之意味合ニ而押移候向々茂有之、又門潰死亡退転等ニ而、如何体ニ茂取立出来兼候者茂有之候ニ付、小前々々人別之糺方ニ相成至而、無余儀分者拜領捨り、其余丈ヶ之年賦返納御願立被下、夫々願之通被仰付、即年より年賦通速ニ相納り候様ニ相成、上下逸稜之儀と奉存候事。

一 夫壹万四千壹人

但弘化四未春、松橋御新地内新井手堀夫、本行之通松山手永村々

より無賃錢ニ而御普請被仰付候事。

右者松山壽太郎殿去ル午十一月御所付ニ相成候後、松山手永所々御普請被仰付候功業并其外共ニ可申上旨奉得、其意取しらべ申候処、右之通御座候。尤右之外臨時之御用筋者稜々御座候得共一々難申上、先重立候分、覚書を以申上候。以上

弘化五年二月

松山会所

役人共

覚

一天保十五辰春、著町村懸縁川塘筋、寛政八辰年洪水切所根困免落居候ヶ所、間数拾八間、夫数六百九拾四人ニ而、松山壽太郎在勤中御普請ニ相成申候ニ付、丈夫ニ相成居申候。

一同年、宇土御知行所千原村懸塘笠服付、間数百間五合、夫数三千七百四拾壹人ニ而御普請ニ相成、土取之儀者先年塘破損之節、石砂居込、荒地ニ相成居候を明開、土取跡、田畝三反起畝ニ相成、両全之御普請ニ而、上下一稜之為合ニ而御座候。

一 杉嶋村懸裏塘筋之儀、極々危ク御座候処、壽太郎入込即下より心配仕候処、余計之夫数ニ而何分一手永ニ而者夫幅合兼候ニ付、御郡中寄夫ニ而、御普請出来仕塘手丈夫ニ相成候上、土取之儀者縁川中洲より積取候ニ付、費地等ニ懸り不申、上下逸稜之為合ニ而御座候。間数五百貳拾八間、夫数三万七百四拾三人ニ而御普請出来仕申候。一 廻江手永塚原村堤再堀、杉嶋手永より夫数千九百六拾四人御普請越夫仕申候。

一 杉嶋手永村々諸上納尻少々もつれ居候をしらべ糺、永年賦等ニ仕法被付置、弗々返納之道相立申候。

右者松山壽太郎、杉嶋在勤中功業之稜々相しらべ申候処、右之通

御座候。以上

弘化五年申三月

池部清之丞

覚

一錢拾壹貫五百四拾八匁五分九厘

一夫四万九千九百六拾六人

但松山手永立岡大堤之儀、去ル文政八酉年御堀添ニ相成候処、未  
夕堀残分有之、水咄所初癸八尺上ケ之積を六尺上ケニ相成居候間、  
十分之養水相備不申、端々ニ至候而者、及旱田候儀茂御座候ニ付、  
去申春、古保山谷手残分堀方を初、塘手笠揚服付御普請被仰付、  
水咄之儀者土台壹尺五寸程上ケ方ニ相成、尚其上壹尺者懸板之御  
仕法を茂被仰付候間、凡水坪壹万九千三百坪程増水ニ相成、水下  
畝貳百八拾九町程、太略十五日余養水ニ相成候ニ付而者、去夏引出  
候養水残分堤三・四合通者余分ニ相成候程之儀ニ而、此後旱損之憂  
決而有御座間敷、所柄一稜之為合ニ相成申候。尤本行御普請向之  
儀、太造之夫数ニ而一手水之力ニ及不申候ニ付而者、積夫之内貳万  
貳千七百人余者、河江・杉嶋・廻江・郡浦加勢夫申談ニ相成。御  
入目錢者去ル酉年御堀添入目錢御間拜借被仰付、当時年賦ニ而返  
上納仕候分、去暮より三ヶ年追操奉願、右返納分を以出方ニ相成  
候間、差寄上下より出方ニ茂及不申、重畳之儀ニ御座候。  
右者本庄壽太郎殿松山手永御在勤中、御事業筋之儀、去申二月一  
卜通御達申上置候処、立岡大堤御普請潤色之稜洩居候間、此節取  
しらべ御達申上候。以上

嘉永二年正月

松山会所

役人共

二七五 井上育太郎

(九二四一八)

覚

松山手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段  
ニ而御郡代手附横目井樋方見拟・津口・陸口  
見拟兼帯

井上育太郎

右者別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、御役前数十年心懸能出精相勤、  
諸見聞筋等精密ニ有之、惣体松山手永之儀、御普請之向々立会茂  
多有之候内、住吉御新地養水取入ニ付而者、其砌赤澤宇太郎病中  
引入之内ニ而、育太郎儀堤堀方村直等ニ至迄、同人主ニ成各別心配  
いたし、且又先年救浦御新地并高良下り松御新地御築立之節茂始  
末罷出、其外松合村追々之出火ニ而数百軒及焼亡候ニ付而者、跡家  
建方等稜々繁勤之内、諸事無間抜心を用候由ニ而、精勤之次第勤  
年数等、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

丑八月

河野子次右衛門<sup>印</sup>

御内意之覚

松山手永唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段  
ニ而御郡代手附横目・井樋方見拟・津口・陸  
口見拟兼帯

井上育太郎

右者文政三年松山手永塘方助役助勤申付、同四年同手永懸木原御、  
山見拟兼帯申付、同五年二月塘方助役并宇土人馬所横目当分申付、  
同六年御制度見拟兼勤申付、同九年四月塘方助役本役ニ而、在勤

中一領老疋被仰付、天保二年五月御郡代手附横目并松山手永井樋方助役当分兼帯申付、同年八月唐物抜荷改方御横目在勤中諸役人段被仰付、同月依願塘方助役、宇土人馬所横目・御山見拟・御制度見拟之儀者差免、同年九月津口・陸口見拟兼帯申付置候処、天保十年九月役方多年心懸能致出精候ニ付、本席一領老疋被仰付、同十四年宇土北浦新地見拟兼帯申付、弘化二年四月并樋方助役兼帯者差免、并樋方横目兼勤申付、文政三年六月塘方助役助勤申付候。以来当年迄数々之役儀三十四年精勤仕候内、唐物抜荷改方御横目并御郡代手附横目・津口・陸口見拟等廿三ヶ年相勤、御賞美并功業之稜々左之通

一文政十二年四月立岡堤堀添之節、大勢之石工日雇仕方等之志らべ請込種々致心配、且又松島新川堀替ニ付而も罷出丁場々々打廻、格別致出精候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置候。

一天保六年三月去卯年非常之洪水以後、自他手水迫々大造之御普請出夫之節々始末罷出致出精候旨ニ而、金子貳百疋被下置候。

一同十二年十二月下益城・宇土於海辺新地御築立被仰付候ニ付而御用懸被仰付、水門并樋居込を始種々致心配、潮留并地割等請込始末各別出精仕候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置候。

一弘化四年北浦新地出来ニ付而、初發際目建積方より罷出、御普請中種々致心配、塘手破損之節、取防方等昼夜骨を折、并樋居込等ニ迄迄始末格別致出精候旨ニ而、作紋麻上下一具并金子貳百疋被下置候。

一文政九年十一月廿九日之夜松合村出火ニ而、家数貳百三拾軒及焼亡候節、灰寄より跡家建方迄始末相詰心配仕候。

一同十年救浦新地築立ニ付而、初發積方より御普請中数十日御普請

小屋詰切、出精相勤申候。

一同年九月宇土町出火ニ而、竈数七拾貳軒及焼亡候節、灰寄より跡家建方迄始末出役致心配候。

一同十一年馬瀬村樋發塘堀切石并樋居込御普請ニ付而、積方より御普請中必多度出勤ニ而右同断。

一同年秋非常之大風ニ付而、海辺潮留所々及破損、跡御普請中数十日所々廻勤いたし右同断。

一同年十二月廿三日之夜松合村二度目出火、竈数貳百五拾九軒及焼亡候節、灰寄より跡家建方迄始末詰切致心配候。

一同十三年四月五日之夜松合村三度目出火、竈数三百三拾五軒焼亡之節右同断、数十日相詰致心配候。

一同年高良下り松新地御築立ニ付而、初發積方より御普請中相詰致出精候。

一天保五年より六年迄、大曲り塘筋石刻蓑御普請中并新開御米山床御取致ニ付而必多度出勤致心配候。

一去子春住吉新地為養水新堤築立被仰付候ニ付而ハ、先御惣庄屋赤澤宇太郎病中引入中之儀ニ而、堤床七曲り村拾六軒村直等始末主ニ成心配いたし、堤築立ニ付而ハ積夫三万三千五百六人之内、去春

壹万九千六百人余出夫仕せ過半御普請向も出来、差寄水溜りも至極宜敷、一稜養水之助ニ相成、此上笠腹積前通出来候へハ、是迄

杉島手永内より引入来候養水道打替ニ相成、数ヶ所之底樋等追々大造之御出方筋も相減其上全体之養水増ニも相成、彼是往々一稜之功業と相見申候。

右之通ニ而文政九年松合村火災以下十稜々儀者、未御賞美も不被仰付、稜々一稜之功績、殊ニ松山手水之儀、零落村勝之所柄、取

分御用繁ニ有之、類々立合見聞筋等も多御座候処、数々兼勤之役前ともニ無間拔致精勤、一体物馴見巨も宜敷、彼是屹と御用ニ相立、最早塘方助役助勤以来、数々之役儀無怠三十四年相勤、唐物拔荷改方御横目并御郡代手附横目廿三ヶ年格別精勤仕、本席一領壹疋ニ被仰付候。以来当年迄十五ヶ年ニ相成、功績之儀ハ委細前文之通ニ付、乍恐旁ニ被对、諸役人段本席ニ被仰付、尚作紋御時服被下置候様於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

育太郎儀、達之通ニ而、塘方助役以来三十四年在勤中、一領一疋より二十八年唐物拔荷改方御横目在勤中、諸役人段より二十三年本席一領一疋被仰付候而十五年ニ相成、役方格別出精いたし、稜々功業茂有之、一領一疋持席ニ而、右御横目十五年相勤候へハ、諸役人段本席被仰付、見合ニ付育太郎儀、一領一疋本席より十五年ニ相成、惣年数茂前文之通ニ付、旁を以諸役人段本席可被仰付哉。但右本席被仰付、猶作紋時服被下置候様、申立ニ御座候得共、育太郎儀者当代御郡代直触之叔父ニ而、根元別株ニ被召出置候ニ付、此節本席茂年功業、旁別段を以被仰付候間、拝領方者先見合可被置哉。

二七六 北野甚七

(九一四一八)

覚

松山手永馬瀬村居住地土ニ而手永横目并新開御米山見拟兼帯

北野甚七

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、役方七十三年手全ニ相勤、最早及老衰、在方之廻村者出来兼候由ニ候得共、手永横目之儀厚心を用、貧民飢寒凌兼候程之者江者富家面々相倡、糧物・衣類等心付置ニ相成候様多年取計、御米山見拟之儀茂能行届候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

丑八月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永馬瀬村居住、地土ニ而手永横目并新開御米山見拟兼帯

北野甚七

当丑八十九歳

右者天明元年馬瀬村庄屋申付、文政三年松原村庄屋ニ所替申付、同四年手永横目兼帯申付、同七年松原村庄屋者依願差免、手永横目一役相勤居申候処、天保六年新開御米山御用宅御役人引払跡見拟兼帯申付置、当年迄都合七拾三年相勤申候。

一享和元年役方数年精勤仕、且父代寸志之訳旁被对、苗字御免御惣庄屋直触被仰付、猶父甚右衛門存生之内、追々近郷火事逢難洪之者共江米銭差遣申候ニ付而被賞、家内ハ管笠傘被成御免候。

(朱世)

〔右僉議之通丑十一月廿四日申渡〕

一文化八年馬瀬村零落之所柄、役方多年厚心を用、各別出精仕候旨  
二而、御郡代直触<sup>二</sup>被仰付候。

一天保二年役方五十年余、心懸能出精仕候旨<sup>二</sup>而、作紋麻上下一具被下置候。

一同九年役方数十年出精仕、及老年候得共、必多度村方打廻り、貧民救出等之申談行届、且御米山見<sup>二</sup>自勤<sup>二</sup>而相勤、御蔵<sup>二</sup>弘<sup>二</sup>之節、<sup>二</sup>弘<sup>二</sup>子共へ湯茶をも相施、万端手厚世話仕、一統之為合<sup>二</sup>相成候旨<sup>二</sup>而、地士<sup>二</sup>被仰付候。

一同十四年役方六十年余出精仕候旨<sup>二</sup>而、御銀五兩被下置候。

一嘉永三年役方数十年出精仕候旨<sup>二</sup>而、御銀五兩被下置候。

右之通甚七儀、天明元年親跡庄屋役申付候以来、当年迄七十二年勤続候内<sup>二</sup>者、手永横目勤向心懸厚、貧民取救等之儀心を用、飢寒凌兼候程之もの共、見聞無怠申達、富家之面々相信、粮物衣類等心付遣候様数年取計、近年八及老衰、存分之廻村等ハ出来兼候儀も御座候得共、生質至而篤実<sup>二</sup>有之、勤向暫時<sup>二</sup>茂難忘、志深切成もの<sup>二</sup>而、全勤七十二年之功勞、先手永内<sup>二</sup>而者類も無之、四ヶ年以前年功<sup>二</sup>よつて御銀被為<sup>二</sup>拝領、未年数も相立不申候得共、最早八十九歳<sup>二</sup>而、余命も無御座、稀之勤勞其<sup>二</sup>佩<sup>二</sup>茂難閣御座候間、乍恐被賞、別段を以<sup>二</sup>一領一疋<sup>二</sup>進席被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永六年四月

吉田平之助

御郡方

御奉行中

僉議

甚七儀、達之通<sup>二</sup>而、惣年数七十二年之内、庄屋四十三年、手永

横目三十年<sup>二</sup>相成、役方五十年余<sup>二</sup>而、地士被仰付候以来十六年役方六十年余<sup>二</sup>而銀五兩被下置、猶七十年<sup>二</sup>而同様被下置候而、四年<sup>二</sup>相成、此步<sup>二</sup>間近ク有之、且庄屋手永横目等<sup>二</sup>而、一領一疋と申者、階級無御座候得共、格別年勞等之者ハ追々見合茂有之、本紙甚七儀、七十年余之勤<sup>二</sup>ハ、稀成者<sup>二</sup>而、最早八十九歳罷成候由、余命<sup>二</sup>茂無之<sup>二</sup>付、旁別段を以、達之通一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
右僉議之通、丑十一月廿四日達

二七七 弥平次

(九一二四一八)

覚

松山手永善道寺江部両村庄屋

弥平次

右者、別紙申立之趣<sup>二</sup>付、見聞仕候處、弘頭以来役方数十年出精相勤、惣体年齢<sup>二</sup>者達者<sup>二</sup>有之、零落之村方觀農厚相信、御年貢諸上納等速<sup>二</sup>相納、彼是村方之世話筋茂、能行届候由<sup>二</sup>而、勤年数等委細者、本紙書面之通相聞申候。以上

丑八月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永善道寺村江部村庄屋

弥平次

当丑七十歳

右弥平次儀、文化八年松山村弘頭申付、文政元年同村御山ノ口申付、同三年御山ノ口者依願差免、同五年御山口再勤申付、天保七

年同村庄屋助役申付、同十年古保里村庄屋申付、弘化二年御山口者差免、同三年布古閑村・岩熊村両村庄屋ニ所替申付、嘉永四年江部村・善道寺村庄屋ニ所替申付、弘頭役より庄屋役迄惣年数四十二年、内三十四年庄屋御山口精勤仕候。

一弘化元年御山口以来、役方多年出精いたし候旨ニ而、礼服被成御免候。惣体弥平次儀、手全成ものにて、役前格別心懸厚出精仕、万端堅固ニ相勤候ニ付、同三年布古閑村・岩熊村江所替申付候ニ付而ハ、右両村之儀、木原山裾辺之村立片穂所之悪田、従前々極零落之村方ニ而、御年貢諸出銀取立方等、外村より別段骨折強御座候処、取扱筋を始、諸事村方諭方行届、近年風儀も立直、漸々勸農ニ基成立之萌相見候ニ付、去ル亥年善道寺村・江部村江所替申付、就中善道寺村之儀者、無頼之零落所ニ御座候処、弥平次儀各別差入り、勸農相倡万端、手厚心配仕候ニ付、年来怠惰之村方氣向立直、御年貢諸上納当季にてハ、可也ニ相濟候様相成、ケ所々々成立筋等、漸々功頭も相見、最早七十歳之老体ニ者御座候得共、下地壮健ニ有之、今以昼夜之無差別、両村ニ懸精勤仕候間、乍恐多年之勤勞旁ニ被对、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

弥平次儀、達之通ニ而、弘頭以来四十一年之内、山ノ口より三十四年ニ相成、見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
「右僉議之通、丑十一月廿四日達」

(嘉永七年)

二七八 松岡謙濟

(九二四一九)

覚

錢塘手永北走湯村居住御郡医師並

松岡謙濟

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業心懸能、貧福之無差別療治方手広被行、病家見廻等尻輕打廻候ニ付、所柄信用いたし、且又居住所船着之所柄に付、船頭加子等茂追々療治いたし、彼是所柄為合相成候由、尤施薬と有之候者、謝礼届兼候分之由、其外委細者本紙書面之通相聞申候。以上

丑七月

池田熊右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

錢塘手永北走湯村居住御郡医師並

松岡謙濟

右者文政三年親跡苗字御免御惣庄屋直触被召出、同十一年九月御郡代直触被仰付、天保十三年九月当席ニ進、当年迄十二ヶ年ニ相成、家業心掛能、去年中病人數九百人余療治、右之外ニ御府中并字土御家中・松山手永中・式丁川口新開蜜柑三ヶ所之湊ニ着仕候自他之売舟乗組之舟頭加子等を取集候へ者、千五百人ニも及為申由ニ相聞申候。在中之儀、近年不作ニ付、謝礼も任心不申もの共多御座候処、左様之者ニハ別段信切ニ心を付、施薬療治いたし遣所柄、一稜為合ニ相成候様子ニ付被賞、御目見医師進席被仰付被

下候様奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

丑四月

江嶋傳左衛門

丑八月

御内意之覚

河野子次右衛門<sup>①</sup>

御郡方

御奉行衆中

松山手永馬場村居住御郡医師並

金田龜齡

当丑五十六歳

僉議

(朱書) 謙濟儀達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学  
業篤志、療治方手広被行候由達有之、再春館御目附見聞之趣  
三法 茂同様之由達有之、科目丙科ニ相当申候、御郡御目附付御横  
破的 目見聞之趣茂手広被行、病家見廻等尻軽打廻候由、夫々別紙  
之通ニ而上等と相見、御郡医師並被仰付候。以来十二年ニ相  
成、見合茂御座候間、御目見医師可被仰付哉。

成、見合茂御座候間、御目見医師可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉議之通丑十一月廿二日江戸奉覽寅二月朔日申渡〕

二七九 金田龜齡

(九一四一四一九)

覚

松山手永馬場村居住御郡医師並

金田龜齡

右者、別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、家業心懸能、療治方手広  
被行、病家廻診等貧福之無差別、療治方深切ニ有之、所柄信用い  
たし候由。且施薬と有之候儀者、貧民謝礼届兼候分之由、尤家伝  
之保重円・神寄丸之儀者、暑中之砌、居村并近村四五ヶ村江施薬  
いたし候由ニ而、是等者所柄為合ニ相成候由、其外病人數等之儀、  
委細者本紙書面之通相聞申候。以上

右龜齡儀、文政二年十一月苗字御免御惣庄屋直触被仰付、文政十  
二年十二月家業心懸能、療治方手広貧福之無差別、厚心を用出精  
仕、且又立提堀添之節罷出、療治方出精仕候旨ニ而、御郡代直触  
被仰付、天保十三年家業心懸能、療治方數年貧福之無差別、手広  
出精いたし候旨ニ而、御郡医師並被仰付候。文政二年御惣庄屋直  
触被仰付候。以来当年迄三十五年、先賞より十二ヶ年、弥以出精  
仕、当時療治懸之ヶ所々々并病人數等左之通。

一郡浦手永十八ヶ所

但、神山村・神原村・浦上村・両長崎村・龜尾村・石橋村・宮庄  
村・両椿原村・両惠里村・両新開村・伊津野村・鷺見塚村・飯塚  
村・網引村

一松山手永村町七ヶ所

但、高良村・御領村・柏原村・城神山村・馬場村・松崎村・宇土  
町

一河江手永内ニ而松橋町

右村町ニ而

病家七百三拾軒 去子年分

病人數千九百八拾人余

内去子年施薬分

病家百六拾七軒

病人數四百拾人余

右之通ニ而、當時療治懸、郡浦・松山・河江・三手永ニ亘り、手  
広療治方出精仕、孰之村町も至貧乏之者多、年々余計之施薬をも  
いたし、其上毎歳暑中ニ者、家方之保童円・神寄丸・散薬等、近  
在ニ懸、別段施業仕、疫病・痢病等流行之節ハ、猶更施業勝ニ御  
座候得共、貧福之無差別、療治方心切ニ有之、医学・経学も相応  
ニ習熟いたし、追々再春館ニおいて被賞、御銀をも拝領仕、療治  
方も功熟ニ而、所柄一稜為合ニ相成申候ニ付、乍恐被賞進席被仰付  
被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被  
下候。以上

嘉永六年五月

吉田平之助

御郡方

御奉行衆中

僉議

龜齡儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟学業篤  
志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂、同様ニ有之候由、科目  
丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、療治方手広被  
行、病家廻診等、貧福之無差別深切ニ有之候由、夫々別紙之通ニ而  
上等と相見、御郡医師並被仰付候以來十二年ニ相成、右之科目ニ而  
者、見合茂御座候間、御目見医師可被仰付哉。

(朱世)

三法成的

右僉議之通、寅正月廿八日江戸奉覽。同五月廿一日申渡

二八〇 浦上勝甫

(九一四一九)

覚

松山手永佐野村居住御郡代直触医師ニ而病死  
仕候浦上真壽俸

浦上勝甫

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業心懸能出精いたし、  
田中道俊方ニ茂多年入塾仕、医業相進、療治方手広被行、病家尋  
向等深切ニ有之、惣体勝甫懸村々之儀零落之村方多至而、薄謝ニ  
有之由ニ候得共、右体ニ無係、病用手厚行届、一稜所柄為合ニ相  
成候由、且施薬と有之候儀者謝儀届兼候分ニ而、其外家筋等之次  
第、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

丑十二月

河野子次右衛門 ㊦

御内意之覚

松山手永佐野村居住御郡代直触医師ニ而病死  
仕候浦上真壽俸

浦上勝甫

当丑四十五歳

右、浦上勝甫家筋之儀、先祖浦上十兵衛ニ男浦上八左衛門と申、  
若狭守様江御奉公相勤居申候処、病身ニ罷成、御暇奉願浪人仕、  
本家浦上十兵衛育ニ相成、其子孫三代浦上勤助と申本家ニ被育、  
士席ニ而居申候処、三代目勤助弟前文勝甫祖父ニ相当候浦上真庵  
と為申者医業仕、松山手永佐野村ニ居住仕居候処、天明六年御郡  
代直触被召出、文化八年迄式拾六年相勤、病死仕候。其子浦上真  
壽儀、文化八年親跡御郡代直触被仰付、当年迄四十二年医業出精  
仕、当三月病死仕候。倅勝甫儀、文政十年より親代診仕、病家向  
無怠、昼夜打廻り、療治方出精仕、御郡並之出役等も代勤仕、天



保五年松合村疫病流行ニ付而も、親為名代出役仕、療治方出精いたし候旨ニ而御銀貳両被下置候。右之通ニ而當時療治懸村々、松山

手永佐野村・三日村・立岡村・古保里村・曾畑村・上古閑村・松山村・境目村・布古閑村・河江手永古保山村・廻江手永平原村・

郡浦手永伊津野村都合十三ヶ村、其外所々臨時之病家江も都合療治懸三百軒余ニ而、去子年病人數千百余人、其内施藥療治百三十拾

人余ニ而、惣体家業心懸厚、療治方も習熟いたし、次第ニ病家手

広相成候様子ニ者相聞申候得共、近年凶作続ニ付而八山在勝之為、

家向至而薄謝ニ有之、年々施藥療治之分も多、旁暮方難渋ニおよ

び候得共、家治ニ者無頓着、藥品等も入念、貧福之無差別療治方

差入出精仕候ニ付、療治懸之向々一応為合ニ相成申候間、家筋之

訊旁ニ被对、乍恐勝甫儀、親跡御郡代直触被仰付被下候様、於私

奉願候。此段御内意仕候条、宜ク被成御參談可被下候。以上

嘉永六年九月 吉田平之助

御郡方 御奉行衆中

僉議 勝甫儀、達之通ニ付、医業吟味役江及問合候処、治療習熟、学

破的 業篤志療治方茂相応被行候由達有之、再春館御目附江茂問合申

失論 候処、見聞右同様之由達有之、科目丙科ニ相当、夫々別紙之通

御座候。依之御郡代直触医師之跡目、右科目ニ而究之通苗字御

免、御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書) [右僉議之通寅五月廿五日達]

(安政元年)

二八一 芥川源之允

御内意之覚

一 錢老貫目

一同老貫五百目

右者今度御備場御用ニ付而、寸志錢右之通差上度奉願候処、願之

通被召上旨ニ付、夫々上納相濟申候。依之源之允儀者地土、多三

郎儀者御郡代直触進席被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、

宜敷被成御參談可被下候。以上

嘉永七年八月 飽田 御郡代

御郡方 御奉行衆中

僉議 源之允・多三郎儀、達之通ニ而、寸志高究之規矩ニ相当申候旨、

源之允儀地土、多三郎儀御郡代直触可被仰付哉。

(朱書) [右僉議之通寅九月十三日達]

二八二 宇平次、儀 平

(九一四一九)

覚

横手手水中椎田村

宇平次

錢塘手永西走瀉村

儀平

右兩人別紙之趣ニ付見聞仕候処、何れ茂手全成者ニ而、御船之御用、木綿類染方御用被仰付置候由ニ而、此節泰寶丸本帆染方ニ付而、麻上下着用御免ニ相成候而茂可然儀と相聞申候。以上

寅九月

久野多学團

元松啓次郎團

御内意之覚

横手手水中椎田村

宇平次

錢塘手永西走瀉村

儀平

右者川尻御船之御用之木綿類一式染方御用被仰付置候処、此節泰寶丸本帆御仕替被仰付、右兩人江染方被仰付筈御座候処、御召舟本帆染方之儀者、麻上下着用仕候而御紋附方いたし候。旧格之由ニ付、先例之御見合を以上着用御免被仰付被下候様奉願候。右之趣より川尻御船頭被申より茂筋之御内意仕ニ而可有御座候間、宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永七年八月

飽田

御郡方

御郡代

御奉行衆中

僉議

宇平次・儀平儀、達之通ニ而見合茂御座候間、礼服可被成御免哉。

(朱書)  
〔右僉議之通寅九月十七日達〕

二八三 小山七郎太

(十一一)

覚

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、御役前心懸能、数々之役儀多年出精相勤候由ニ而、養祖父以来御惣庄屋相勤候家筋等之次第委細者、本紙書面之通相聞申候。尤御赦免開等者、所持仕居不申由承申候。以上

小山七郎太

寅八月

久野多学團

御内意之覚

御内意之覚

宇土郡一領彦正ニ而、当二月病死仕候小山喜十郎養子、唐物拔荷改方御横目、在勤中諸役人段、御郡代手附横目役并高田手永茂無田・中無田・水嶋御新地惣見拟、種山会所見拟兼帶

小山七郎太

四十九歳

右者、養父小山喜十郎儀、養祖父小山改藏松山手永惣惣庄屋在勤中、文化元年代役御免被仰付置、同十二年七月親跡松山手永惣惣庄屋・御代官兼帯被仰付、文政三年中山手永惣惣庄屋転所被仰付、天保四年当御役被成御免、一領老疋被仰付、御郡並之御奉公無懈怠相勤申候。御惣惣庄屋在勤中稜々功業有之、御品、金子度々被下置候。御惣惣庄屋代役以来、当年迄五十一ヶ年相勤、当二月病死仕候。右七郎太儀、天保六年野津会所見習ニ罷出、同七年正月会所小頭申付、同八年当用方受込申付、同九年八月下有佐村庄屋・本郷勘助会所在勤中米銭しらへ方当分引除申付候ニ付、右村御年貢取立方兼帯申付、同十二年六月会所詰持懸ニ而、鹿嶋尻御新地・鹿野村両懸庄屋兼帯申付、同八月下役助役米銀方受込、当用方兼勤申付、同十一月芝口村庄屋徳平、野津会所在勤中諸官銭入組調ニ付、当分庄屋差免、右村庄屋場暫兼帯申付、同十三年正月野津手永地推受込申付、相勤居申候処、多役兼勤届兼、芝口村庄屋之場者御断願出、同十四年正月差免、同五月諸御用銭米出入、諸拝借返納等、一切取立方受込申付、同十五年四月手代差添ニ而、一切根役申付、御用米銭数十年違乱いたし御取締ニ付、御年貢御取立一卷并御用銭、別而入念、根ニ成申談候様申付、相勤居申候処、同五月八代郡唐物拔荷改方御横目在勤中諸役人段被仰付、御郡代手附横目申付、同六月高田手永井樋方助役并種山会所見扱、水嶋御新地見扱、且芦北催合・敷川内懸見扱兼帯申付置候処、多役届兼候ニ付、御断願出申候ニ付、芦北催合御新地・敷川内懸見扱・井樋方助役差免、弘化三年依願水嶋新地見扱差免、同四年十二月種山手永手附横目江所替申付、柿迫村新田開・油谷樋仕方并同新井手立等、御用懸申付、嘉永三年正月猶又高田手永所替申付、

同七月水嶋葭牟田新地惣見扱兼帯申付、会所見習以来当年迄二十ヶ年相勤申候内、追々御賞美・功業之稜々、左之通  
一天保十二年鹿嶋尻御新地出来ニ付、御銀方受持、余計之諸浚方等無間違圭角ニ取計、潮留之節罷出、格別出精仕候旨ニ而、鳥目三貫文被下置候。  
一同十四年閏九月鏡御藏新規建方ニ付、御銀受払繁雜之處、出精いたし、出夫仕方等ニ付而ハ、種々心配いたし、御出方減ニ成相成候旨ニ付、鳥目貳貫文被下置候。  
一弘化二年十二月種山手永村々諸上納滞しらへ受込申付候処、速ニしらへ取立方主ニ成申談、大造之錢辻一時ニ上納相片付、折節御惣庄屋引入中、別而致心配候旨ニ而、金一兩被下置候。  
一同六年五月八代両新地定友宛ニ付而考、追々罷出、致出精候旨ニ付、金子貳百疋被下置候。  
一野津手永之儀、文政十一年非常之凶作以来、会所諸御用銭村々拝領高千貫目余、天保九年村々より年賦返納願出候ニ付、七郎太儀根ニ成、諸帳面取調、右凶作尻村々、諸上納余計ニ相滞、内輪借替等ニ而押移、年々御取立難渋仕、改兼候処、天保十四年五月手永中申談、大講組立、文政已来之滞、片付筋心配仕候。且又四百町・七百町御新地御築立以來大造之御普請打続、野津会所諸御用銭高七百貫目余入組纏ニ相成、懸之役々当分差免、調方申付候節、同人根ニ成、御帳面仕立方共、格別出精仕、相片付、將又鹿嶋尻御新地両懸庄屋、在勤之砌初発より田畑位究・年季受開・明道橋手入水理仕法ニ付而考、追々心配仕、壹番割より三拾六番迄、間數六百三拾貳間・幅貳間五合、新井手出来仕左候而、南北両懸相境地面・海形之節田尾筋ニ而、水気拔兼作毛登不宜ヶ所々々水気

拔用水兼用之新井手立欠広メ共、幅式間五合ニして、流千五拾間  
余出来仕候ニ付、養水行届、冬水落宜敷相成、地味変化仕、所柄  
一廉之為合ニ而、勸農倡方等行届申候ニ付、速ニ御所務筋相立、当  
時者出百姓共、何れ茂成立居申候。扱又天保十四年九月非常之高  
潮ニ而、鏡入江北塘破損仕、芝口村列田畑潮浸ニ相成、入江口潮  
出入強、塘床穿所築留御普請難渋ニ付、外入江口ニ而、土俵詰等  
仕、諸手配根ニ成、御普請中夜白出精仕、速ニ卒業ニ至、其跡潮  
害御損毛しらへ始末出方仕、不一形骨折、彼は一廉之為合相成申  
候。

一嘉永二年十一月種山手、永四浦柿迫村懸内、桑山田開御用懸申付、  
頻々出勤仕、格別心配仕候。右内桑組之儀、竈数拾軒程ニ而、砥  
用井五ヶ庄之境、会所元より者七里程隔、水川水源ニ而、四浦在之  
内ニ而茂、極山奥難渋之所柄ニ而、田地一向ニ無之、畑方より申候而  
茂、嶮岨之山畑迄ニも差寄、沓・わらし用之藁等茂、里在より買  
登、従来之難渋仕候ニ付、文化年中切替畑之内、為試少々田開仕  
候得共、一向ニ登り不申候由ニて打捨置、其後茨立等ニ相成居申  
候処、右之村裾ニ下り、横手組之内ニ者、田畑有之、相応ニ者登り  
申候間、僅之間ニ而右様地味違候訳有之間敷、以前水川水源冷水  
之俣、養水ニ取用候処より者心附、弘化四年為試水溜を堀、水温  
之仕法仕、少々田開明候而、根付仕候処、相応ニ登り候得共、極  
零落之所柄ニ而、右田開ニ打懸居候得者、当前之口過出来兼、難渋  
仕候ニ付、外組々より加勢夫を以、開方申付候得共、其跡之手入  
茂不一形事ニ而、寸計進兼居申候処、右之七郎太、御用懸申付、  
有折相詰居、漸々進立、其後者年々少々宛開添、当時ニ而者、田畝  
数壹町五反程ニ相成、登り宜年柄者、初ニして式拾石位出来仕候

様相成、就而者藁等茂、里在より買登ニ者不及様相成、往々零落立  
直之基本相立、所柄一廉之為合ニ御座候。

一高田手永水嶋新地之儀、築立後暫茂申分絶不申候処、七郎太右新  
地見扱受持中、塘筋所々損所之手入、石井樋或者養水井手立、且  
弘化三年九月再潮留、其外笠服ニ重石垣大造之普請向、始末主ニ  
成、各別出精仕候付、塘手漸々丈夫ニ相成、非常之大変ニ無之候  
ハ、心遣茂無之様相成申候。

一天保十四年前高田手永零落村々御年貢・諸上納等差支、且御家人  
以下御用錢拝借年賦返納等相滞居候分百六拾貫目余片付兼、入組  
相成居候処、七郎太高田受持中、弘化二年御惣庄屋立会、入組之  
次第、糺方之上、年賦返納相片付、入組無御座様相成申候。

一新無田村冲手永開之儀、根元井上在等、零落村々悪田持合之為、  
寛政年中築立被仰付、其主意を失、過半豪家々々之手ニ、質讓等  
ニ遣置候ニ付、引戻追々申談候得共、片付兼居候処、七郎太儀、  
御惣庄屋申談、立会質代錢半高程、或者御間拝借等を以、元錢被  
返下、地方引戻、当時者宮田同様徳米取立、一ヶ年四拾石程宛、  
余分御備ニ相成申候ニ付、後年石有余錢を以、御間拝借返納相済  
候上、村々受持被仰付、悪田受持之助力ニ相成候ハ、自然と零  
落立直、彼は一廉之為合相成可申候。

右之通、七郎太儀見習以來二十年役儀品々格別出精相勤、八代三  
手永ニ懸、稜々功績茂有之、養父五十一ヶ年、父子七十一ヶ年勤  
勞被対、御別段御僉議被為用、養父同様本席一領者定ニ被仰付被  
下候様有御座渡、於私共奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御  
參談可被下候。以上

嘉永七年閏七月

宇土・八代

御郡方

御郡代

御奉行衆中

僉議

七郎太儀、達之通三而、父小山喜十郎儀、親代役以来五十一年相勤相果、七郎太儀、会所見習以来二十年之内、唐物拔荷改方御横目、在勤中諸役人段被仰付候而十年ニ相成、稜々功業茂有之、父子年勞被对、本席一領一疋被仰付被下候様との儀ニ御座候処、喜十郎親代役之年数者難被立下見合ニ付、御惣庄屋十八年相勤、一領一疋共惣年数三十九年ニ相成申候。然処右家筋之儀、喜十郎迄御惣庄屋四代相続いたし居候処、同人儀役儀応兼候付被成御免、一領一疋被仰付置候。惣体御惣庄屋三代相続いたし候跡式ハ、一領一疋被召出、其次之代より者、普通之見合ニ而、落席被仰付究ニ付、喜十郎御惣庄屋勤続居候へハ、此節一領一疋可被仰付哉之処、前文之通被仰付候処ニ而者、右之見合ニ者難相成可有御座候得共、数代御惣庄屋相勤候儀ニ候へハ、普通之跡式同様ニも難被仰付相見、且七郎太儀、当役十年ニ相成、一階者相進候年限ニ至居、功業之趣茂、書面之通ニ付旁を以、此節迄者、達之通本席一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉議之通、東十月十二日達〕

二八四 三村傳之助 他

(十一一)

覺

鯨・沼山津水害除、緑川・加勢川・走濁新川等御普請ニ付而、河

瀬安兵衛列三百九拾四人別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、勤方出精之段等左之通ニ御座候。

鯨手水御惣庄屋

三村傳之助

沼山津手水御惣庄屋独礼

河瀬安兵衛

右兩人御普請御取起初より諸事根ニ成、利害得失御普請之緩急申談筋等都而引受、格別出精相勤、別而傳之助儀者根手水之儀ニ付始末主ニ成、厚心配いたし候由。

錢塘手水御惣庄屋

齊藤嘉兵衛

杉嶋手水右同

池部清之丞

右兩人右同断、大慈寺河原堀割新川立ニ付而者、川下より之申分野田村之儀、余計之費地ニ茂相成、走濁新川再興之儀、塩氣之恐彼是色々申分茂為有之由之処、嘉兵衛儀差入申論、別而走濁新川御普請之儀者、速ニ成就いたし、清之丞儀、宝曆地積釈迦堂地、掘川中隔乱杭打方、杉嶋積取揚等、都而杉嶋地向キ合之ヶ所ニ而是又申分勝ニ為有之由之処、始末主ニ成申論、兩人共割合出夫を茂差出、別而嘉兵衛儀者、追々集会等茂引受、厚心配いたし候由。

鯨手水御郡代手附横目在勤中諸役人段

梅田源作

錢塘手水右同断

小山三右衛門

杉嶋手水右同断

沼山津手永右同断

高橋十之允

吉富藤次郎

木倉手永右同断沼山津在勤中

山内権之助

錢塘手永井樋方助役一領壹疋

木村源左衛門

右同断

久我久左衛門

右同断在勤中一領壹疋

甲斐源八

右八人右同断、源作・三右衛門・藤次郎・権之助者御入目其外諸品受弘立会を始、御普請之ヶ所々々江茂罷出、十之允儀者、都而杉嶋地向キ合之御普請ニ付、諸立会等多、源左衛門・久左衛門・源八儀者走潟新川掘方等之御普請引受、何れ茂格別出精いたし候由、源作儀者鯰手永請持ニ而、別而心配茂為有之由。

鯰手永地土ニ而塘方助役在勤中一領壹疋

齊藤律次

右同断根手永ニ付、御普請之ヶ所々々江者每茂罷出、格別出精仕候由、且小頭以来勤年数等之儀茂本紙書面之通相聞申候。

池田手永御惣庄屋ニ而独礼

布田太郎右衛門

郡浦手永御惣庄屋ニ而独礼

郡浦新五左衛門

右兩人初発より追々集会等之節罷出、出夫割取之申談等、彼是厚

心配いたし、別而太郎右衛門儀者集会外之申談筋等茂格別心を用、心配いたし候由。

錢塘手永ニ而緑川水理見拟在勤中一領壹疋

小山又次郎

鯰手永ニ而右同断、当時御郡代手附横目兼帯

矢部請持

石坂禎之助

杉嶋手永ニ而緑川水理見拟在勤中一領壹疋

郷 謙吾

右三人之内、又次郎儀、走潟新川御普請を初所々江罷出、禎之助儀者、鯰会所役人之砌より測量等ニ茂罷出、其外水理見拟被仰付所々御普請等ニ罷出、謙吾儀茂杉嶋会所手代砌より御普請筋専ら取扱、其外水理見拟被仰付候付而者、所々御普請等ニ茂罷出、何れ茂格別出精いたし候由。

鯰手永一領壹疋ニ而沼山津手永塘方助役

野田潤之助

錢塘手永地土ニ而同会所手代御普請受込

中村儀三右衛門

右同地土永井甚次郎倅ニ而同所根拟

永井八十八

右同地土ニ而井樋方助役在勤中一領壹疋

小山郡兵衛

右同地土ニ而同会所下代

渋江甚之助

右同御郡代直触同会所詰

白石平四郎

錢塘手永御郡筒ニ而同会所小頭

馬原五助

鯰手永根拟小頭ニ而水理見拟在勤中御郡代直

触

末武和助

右同根拟小頭ニ而礼服御免

瀬兵衛

右同犬洲村庄屋

勝兵衛

右拾人之内、潤之助儀者根方ニ而御普請出夫之ケ所々々者、都而罷

出儀、三右衛門・八十八儀者走潟新川、其外所々御普請之ケ

所々々江罷出、走潟御普請之儀者、別而速ニ成就いたし、郡兵衛・

甚之助・平四郎儀者、野田井走潟費地しらべ御入目錢受払等出精

いたし、五助儀者走潟井樋并大渡町裏大慈寺河原新川等御普請ニ茂

罷出、和助・瀬兵衛儀者、所々御普請之ケ所受持、勝兵衛儀者御

普請小屋定詰ニ而、御入目錢受払、其外出役賄等ニ至迄受込ニ而、

圭角ニ取計候由ニ而、何れ茂格別出精いたし候由。

本庄手永在勤中当時河江手永御惣庄屋

内田壽太郎

田迎手永御惣庄屋

甲斐忠九郎

矢部手永右同

布田保之助

廻江手永右同

藤井次郎助

中山手永右同

矢嶋忠左衛門

五町手永右同

佐藤久右衛門

木倉手永右同

光永平蔵

甲佐手永右同

丸山平左衛門

河江手永在勤中当時佐敷手永御惣庄屋

近藤喜左衛門

横手手永右同

大賀純右衛門

松山手永御惣庄屋在勤中当時佐敷手永一領老

正

赤澤新四郎

砥用手永御惣庄屋在勤中当時御役御免

篠原善兵衛

右拾式人之内、壽太郎儀本庄在勤中、忠九郎儀者田迎ニ而御普請

筋之儀、往古より鯰・沼山津・本庄・田迎催合之由ニ而、初発よ

り追々集会、且又御普請之ケ所々々江茂罷出心配仕、保之助より

善兵衛迄拾人之儀者御普請之ケ所々々出夫等取計、且御普請場江茂

罷出、何れ茂心配いたし候由。

杉嶋手永根拟小頭

藤兵衛

同手永釈迦堂村庄屋ニ而御郡代直触

堀 廉平

錢塘手永御郡筒ニ而同会所小頭

白石平左衛門

沼山津手永根拟小頭

俊 助

右四人之内、藤兵衛・廉平儀数ヶ所之御普請村々故障之筋茂為有之由之処、程々ニ申諭、平左衛門儀者走瀉并樋請持、俊助儀者鯨請之ヶ所々々根請ニ而心配いたし、何れ茂出精相勸候由。

甲佐手永根拟小頭ニ而礼服御免

徳 助

木倉手永根拟小頭

善兵衛

鯨会所手代ニ而地土

下田文左衛門

右同副手代ニ而右同

米満清七

右同根居ニ而御郡代直触

祖父江 謙左衛門

右同下代ニ而水理見拟在勤中御郡代直触

木柑子清兵衛

右同外廻小頭

一郎右衛門

錢塘手永御郡筒ニ而錢塘村庄屋

馬原嘉右衛門

右同会所小頭

甚右衛門

右同手永野田村庄屋

壽 八

右拾人之内徳助儀者、大慈寺新川積方より罷出杭木等之心配、善兵衛儀者右同所を始御普請積方等ニ罷出、文左衛門儀者、御惣庄屋差合等之節者名代ニ茂罷出、清七儀者御入目錢請拟、清兵衛儀者側量絵図仕立、謙左衛門儀者御普請小屋詰、一郎右衛門儀者根拟ニ差統心配、嘉右衛門・甚右衛門・壽八儀者走瀉御普請等引受何れ茂出精いたし候由。

錢塘手永御郡代手附横目在勤中当時内牧手永

御惣庄屋

柴田純太郎

横手手永御郡代手附横目在勤中諸役人段

鳥井謙左衛門

池田手永右同当時田迎請持

小田安左衛門

本庄手永右同

除野金三郎

甲佐手永右同

北 幸兵衛

沼山津手永右同

福嶋太郎助

廻江手永右同

内野省九郎

中山手永右同



河江手永右同

加来尉左衛門

砥用手永右同

井上甚之助

松山手永御郡代手附横日本席諸役人段

岡嶋繁藏

郡浦手永右同在勤中諸役人段

井上育太郎

砥用手永御惣庄屋

積 三左衛門

右田徳左衛門

右拾三人大慈寺河原新川掘通を始、所々御普請之ヶ所々々、其外  
集会等ニ茂罷出、何れ茂心配いたし候由。

本庄手永塘方助役在勤中当時御郡代手附横目  
在勤中諸役人段ニ而池田受持

甲佐手永塘方助役一領巻疋

宮原敬之助

松本嘉右衛門

右同断

佐藤勝之助

木倉手永右同

岩水徳藏

廻江手永右同在勤中一領巻疋

藤井忠左衛門

河江手永右同

砥用手永右同本席一領巻疋

岩崎次郎兵衛

松山手永塘方助役在勤中一領巻疋

三隅喜兵衛

郡浦手永右同

野田亀十郎

河瀬安兵衛倅代役御免

郡浦又太

松山手永井樋方助役在勤中一領巻疋

河瀬太郎七

郡浦新五左衛門倅代役御免

野村新助

近藤喜左衛門倅右同

郡浦志摩助

矢嶋忠左衛門倅右同

近藤平四郎

右拾四人之内、敬之助より新助迄拾巻人之儀者御普請丁場積より

夫仕之節々罷出、就中太郎七儀者始末罷出、新助儀者石取出之儀茂  
心配いたし候由、志摩助より源助迄三人之儀者出夫之節々罷出何  
れ茂出精いたし候由。

甲佐手永御山支配役諸役人段

赤星忠兵衛

木倉手永右同在勤中諸役人段

光永次郎助

矢部手永御山支配役在勤中諸役人段

山内農之允

右同御雇

木原孫七郎

右四人之儀、御普請場江者罷出不申由ニ候得共、忠兵衛・次郎助儀者余計之竹木間引剪等を以取計、矢部者遠方ニ付割合前之立木を以里在ニ而買入私等之取計心配いたし候由。

錢塘手永御目見医師

松岡謙濟

右同御郡医師並

緒方 長

池田手永右同

井上貞郁

養壽院支配ニ而池田手永入医

秋山壽濟

池田手永御惣庄屋直触

井手省庵

横手手永御郡医師並

馬原玄徹

横手手永御目見医師浅山文蔚倅

浅山文貞

本庄手永御郡医師並

吉尾憲良

右同所居住ニ而田中老濟方支配医師

三浦幸演

田迎手永居住ニ而山宝宗全方支配

後藤玄又

同手永居住ニ而真光寺支配医師

玄 磧

鯨手永御目見医師

徳永貞壽

右同御郡代直触

田代宗壽

右同断

池上貞之助

杉嶋手永御郡医師並

三隅蔓壽

右同断

三隅大方

右同御郡代直触

清崎元栗

杉嶋手永御郡医師並

吉村俊彦

廻江手永御郡代直触医師

高濱玄迪

中山手永御郡医師

宮崎紹元

右式拾人之儀、御普請寄夫等之節々罷出、内外之療治方出精ニ相成、都而程々施藥療治之様子ニ承申候。

錢塘手永地土甲斐勝平孫ニ而同会所詰

甲斐貞次

右同所御郡筒三而平木村庄屋

齊藤又四郎

池田手永根拟小頭三而御郡代直触

植田新五郎

右同御惣庄屋直触三而根拟小頭助勤

園田勝左衛門

横手手永根拟小頭三而御郡代直触

内藤次郎右衛門

右同在勤中御惣庄屋直触三而根拟小頭

吉村和左衛門

本庄手永根拟小頭

忠次郎

田迎手永右同御郡代直触

伊藤忠左衛門

木倉手永右同

文作

廻江手永右同御郡代直触

菊池廣左衛門

河江手永右同御郡代直触當時東新田村庄屋

桑原五左衛門

右同根拟小頭三而亩字御免

久原勘左衛門

中山手永右同在勤中当時同会所手代三而地土

富永平左衛門

右同会所根拟三而一領考疋

豊田次部右衛門

砥用手永右同在勤中当時退役

孫作

右同根拟小頭三而御郡代直触

遠山弥兵衛

松山手永御郡代直触田河内文助養子三而右同

在勤中当時善道寺村庄屋

田河内茂左衛門

右同断平原平次郎養子三而根拟小頭

平原太郎助

郡浦手永根拟小頭三而地土

稻原覺左衛門

甲斐忠九郎養子三而鯨会所詰

甲斐壽一郎

鯨手永地土石坂勇八養子三而同会所詰

石坂為助

同会所詰

庄兵衛

右同

十郎助

右同所小頭三而御郡代直触齊藤林蔵養子

齊藤太郎助

右同三而地土満田恒右衛門二男

満田壽太郎

右同所小頭

俊之助

右同三而梅田源作四男

梅田熊太郎

鯨会所小頭

和太郎

右同

忠三郎

右同

甚助

右同

弥左衛門

右同

吉之助

右同

文次郎

右同ニ而地土齊藤律次二男

齊藤辰次郎

右同

松太郎

右三拾五人之儀、何れ茂請持之稜々心懸能出精いたし候由

錢塘手永御郡筒父ニ而方丈村庄屋

堺 助次郎

右同御郡代直触ニ而西走瀉村右同

田代勘七

右同北走瀉村右同

直右衛門

郡浦手永地土ニ而長濱村右同

釜賀廣次

沼山津手永会所詰

壽一郎

右同

一太郎

右同上辛川村庄屋

任次

右同会所小頭

久左衛門

右同

茂左衛門

右同御郡代直触沢田栄次郎弟ニ而同会所小頭

沢田直左衛門

右同小頭

甚三郎

右同

雄次郎

右同

善助

杉嶋手永ニ而御郡代直触今村又之允伴同会所

小頭

今村弥七郎

木倉手永右同御普請方受込

勝兵衛

矢部会所手代ニ而地土

高橋文次

右同副手代ニ而御郡代直触

工藤宗次郎

五町会所手代ニ而御郡代直触

長谷川甚左衛門

五町会所下代ニ而在勤中御郡代直触

出田宗左衛門

右同副手代ニ而右同

高木磐平

右同下代ニ而右同

上村恒右衛門

右同根拟小頭ニ而御郡代直触

宮津次左衛門

右同断

永井半九郎

本庄手永平野村庄屋

太兵衛

錢塘手永二而御郡代直触同会所詰

荒木九左衛門

右同地士林田弥八二男二而同会所小頭

林田弥三左衛門

右同御郡代直触河部九兵衛養子二而右同

河部三郎次

右同地士渋谷元平倅二而右同

渋谷勘次

右同無苗御惣庄屋直触二而右同

喜八

右同小頭

仙左衛門

錢塘会所小頭

政右衛門

沼山津会所詰二而木山町村庄屋兼帶無苗御惣庄屋直触

傳右衛門

右同会所詰二而御郡筒

緒方純左衛門

右同断

甲斐弥右衛門

田迎手永二而歩御使番列同会所小頭在勤中

山田七左衛門

沼山津会所小頭

篤右衛門

右同

傳左衛門

池田会所手代二而御郡代直触

井手理八郎

右同小頭二而御郡筒

上野善兵衛

右同下代二而御惣庄屋直触

植田太平

右同会所詰二而御郡筒

白木萬次郎

右同二而御郡代直触

江藤健之助

池田会所小頭

利左衛門

右同

忠平

右同

忠七

池田会所小頭二而無苗御惣庄屋直触

為助

右同御郡筒

黒田直三郎

池田会所根拟小頭助勤二而御郡筒

嶋田茂左衛門

右同断御郡筒代役

右田松五郎

横手会所手代二而在勤中御郡代直触

古閑為助

右同差添之節當時并樋方助役在勤中一領卷疋

甲斐謙助

右同会所詰二而御郡代直触

戸田茂七郎

右同斷 鳥井作右衛門

右同二而御郡筒橋本亭助倅

橋本敬右衛門

右同地土友枝慶助三男

友枝八左衛門

横手手永一領壹疋内田庄之助三男

内田宅平

右同小頭

文右衛門

右同

惣右衛門

右同

半平

右同

勝助

右同

只右衛門

本庄会所手代二而地土

一左衛門

右同下代二而在勤中地土

角平

右同会所詰

藤本伊左衛門

右同

庄兵衛

本庄会所詰小頭

守田太右衛門

石原茂右衛門

善左衛門

索左衛門

宗七

右同外廻小頭 立右衛門

右同 嘉平

右同二而地土守田太右衛門倅

守田格左衛門

右同二而一領壹疋甲斐弥左衛門倅

甲斐仁左衛門

右同

順左衛門

右同

弥八

右同小頭

喜左衛門

右同

權左衛門

右同御郡代直觸宮原源次郎二男

宮原源太郎

右同会所詰二而在勤中地土

庄太郎

右同根拟差添

下山甚左衛門

右同会所詰

齊藤九右衛門

右同二而御郡代直觸

宗右衛門

右同

清藏

右同

純左衛門

右同

外山徳次郎

右同

右同 彦兵衛

右同 半八

右同 貞次郎

右同御郡代直触清田唯之允四男三而當時退役

清田禎之助

右同小頭三而當時退役

源次郎

右同小頭 十兵衛

右同 九八郎

右同 才助

右同 啓次郎

甲佐会所手代三而在勤中御郡代直触

児成彦兵衛

甲佐会所副手代三而御郡代直触

守田恒助

右同会所詰三而在勤中御郡代直触

本郷純次

右同御郡簡

児成為右衛門

右同 十右衛門

右同 彦七

右同御郡代直触守田恒助倅

守田啓助

右同 丈八

右同 市之助

右同 十左衛門

右同在勤中當時諸役人段

坂田龜次郎

木倉会所詰三而地土

松本源左衛門

右同 元左衛門

右同小頭 勝藏

右同下代 又藏

木倉会所小頭 忠三郎

右同 源十郎

右同 喜一郎

右同三而無苗御惣庄屋直触 儀左衛門

右同小頭 徳助

右同 傳右衛門

右同 勝三郎

廻江会所小頭 益右衛門

右同 作兵衛

右同三而御郡代直触

源迫壽一郎

右同三而御郡代直触

米原壽三郎

右同下代三而地土

野口惣右衛門

右同小頭御郡代直触菊池廣左衛門倅

右同会所詰  
真左衛門  
菊池格兵衛

右同二而御郡代直触

水野順太郎

廻江会所詰二而一領老疋林田彦左衛門養子

林田源次郎

右同小頭二而一領老疋水野惠十郎弟

水野啓三郎

右同二而御郡代直触

成松郡左衛門

右同二而御郡代直触甲斐又助二男

甲斐卯一郎

右同

竹次

杉嶋会所小頭二而御郡代直触岩村純左衛門養子

子

岩村權左衛門

右同二而御郡代直触

吉田順八

右同

鉄右衛門

右同

幸之助

右同

兵右衛門

右同二而一領老疋今村庄兵衛倅

今村巳之助

右同二而郡浦新五左衛門育

郡浦伍一郎

右同  
才八

右同  
雲平

杉嶋会所小頭二而地土三隅半左衛門二男

三隅龜八

右同  
大四郎

右同  
三郎助

河江会所小頭二而地土藏原新兵衛倅

藏原小右衛門

右同  
俊助

右同二而地土岩崎淳平倅

岩崎久太

右同二而御惣庄屋直触

岩崎助左衛門

右同二而御郡代直触谷川庄太郎弟

谷川奎助

右同  
謙次

右同  
小左衛門

右同  
仙左衛門

右同  
半次郎

右同  
庄兵衛

右同  
駄八

右同  
英左衛門

河江会所小頭  
惠作

中山会所小頭當時下郷村庄屋二而御郡筒

下田源八



右同会所詰 善左衛門

右同小頭 萬四郎

右同 嘉久兵衛

右同 幸左衛門

右同 文左衛門

右同 幾平

右同 次左衛門

右同 金三郎

右同ニ而御郡代直触吉永真助孫

吉永寛之助

祇用会所手代ニ而在勤中御郡代直触

松田弥一郎

右同会所小頭ニ而當時古閑・甲佐平両村庄屋

勝平

右同ニ而一領老正三隅喜兵衛倅

三隅格左衛門

祇用会所小頭ニ而地士柳井瀬左衛門三男

柳井一平

右同ニ而御郡代直触渡邊喜右衛門倅

渡邊僊左衛門

松山会所手代當時退役ニ而御郡代直触

小郷藤兵衛

右同小頭當時退役

十左衛門

右同ニ而御郡代直触

河野潤左衛門

右同ニ而御郡代直触芥川茂十郎養子當時宇土

馱所惣代

芥川政左衛門

右同ニ而地士山本幾右衛門養子當時退役

山本庫兵衛

右同ニ而御郡代直触龜井幸右衛門倅

龜井九郎兵衛

右同ニ而御郡代直触當時東松崎村庄屋

小郷彦右衛門

右同

右同地士河野九郎次二男

河野大作

右同御郡代直触

野村勝之助

松山会所小頭

右同

右同ニ而御郡代直触朝田覚右衛門弟

朝田源藏

右同ニ而右同小郷藤兵衛養子

小郷四郎助

右同

右同

郡浦会所小頭ニ而御郡代直触有働嘉右衛門養

子

有働新右衛門

右同二而一領老疋辛川良右衛門碎

辛川喜一郎

右同

東助

右同

次郎右衛門

右同二而御郡代直触河野傳之允弟

河野佐兵衛

右同

徳十

右同

喜太郎

右同

準太郎

右同二而御郡簡

佃 武右衛門

郡浦会所小頭

藤左衛門

右同

太兵衛

錢塘手永御惣庄屋直触二而同会所小頭

久我和兵衛

松山手永網津村庄屋二而御郡代直触

齊藤七左衛門

池田手永上松尾村右同二而地土

飛鷹喜傳

錢塘手永北走瀉村右同二而御郡代直触

芥川源之允

右同南走瀉村右同二而御郡代直触

小山直助

右同中牟田村右同二而地土

永井甚次郎

右同江中嶋村右同二而地土

田上植次

右同下沖村右同二而地土

甲斐勝平

右同北沖村右同二而地土

小山元右衛門

錢塘手永東錢塘村庄屋二而地土

渋谷元平

右同二十町村右同二而御郡簡

荒木半次郎

右同内田村右同二而御郡簡

村上傳右衛門

右同上沖村右同二而御郡簡

内田庄次

右同小岩瀨村右同二而御郡簡

保田忠左衛門

右同上内田村右同二而御惣庄屋直触

中村金右衛門

右同錢塘村右同二而御郡簡父

久我弥八

右同地土小山元右衛門養子二而三十丁村庄屋

小山壽八郎

右同御普請中内田新開村庄屋當時御郡簡

吉塚弥兵衛

右同北中牟田村庄屋

久平

右同八丁村庄屋二而地土

白石恒右衛門

錢塘手永新開村帳本二而御郡代直触

白石植助

松山手永笠岩村庄屋

傳兵衛

沼山津会所手代在勤中御郡代直触

安尾騏一郎

右同下代二而右同

桑原権四郎

右同副手代

右同会所詰

右同

右同小頭

右同

矢部会所小頭二而諸役人段石原武兵衛二男

石原平次郎

右同小頭

右同

右同二而在勤中御惣庄屋直触

大城弥兵衛

矢部会所小頭二而在勤中御惣庄屋直触

佐藤傳兵衛

右同

五町会所小頭

右同

右同

右同

右同

錢塘手永一領卷正

右同

右同

右同地土

右同御郡代直触

仁三助

善兵衛

永助

嘉平

弥太郎

準次郎

木村八助

吉水吉郎次

廣瀬平八

野村惠一郎

右式百四拾六人之儀、何れ茂受持之稜々心懸能出精いたし候由。  
 右之通二而去ル嘉永二年四月より御普請御取起二相成、去年迄五  
 ケ年二巨御用懸之面々出精二相成、大造之御普請夫々成就二至、  
 別而走瀉新川再興之儀者、以前大水理御普請之節者十一月より御  
 取懸二而、翌々年之夏迄二通水二相成候由之処、此節者以前より茂  
 手数増之御普請日数二百日余二而、夫々成就いたし、殊二寒中之  
 御普請御用懸中、衆力一致二而出精二相成候二付、速二相整候様子  
二相聞、且又水害所水引之儀、去々年以来者雨少二者有之候得共、  
 平水茂余程引下ケ、増水之節茂下手之捌方宜相成候二随イ、無田  
 内之水御普請前二見比候得者、引落速二相成候儀者、右御普請之切  
 驗かと水害所村々二おいて茂相唱申候。其外委細者本紙書面之通二  
 而相替候儀者付紙用置候通承申候。尤段格之儀、付紙仕候而者余り  
 錯雜二相成申候間、付紙用置不申、前条銘々肩書二認置候通承申

候。以上

寅二月

久野多學園

平井恒右衛門⑤

成御參談可被下候。以上

嘉永六年七月

上妻半右衛門

御内意之覺

鯨・沼山津水害除緑川・加勢川等御普請之儀、嘉永二年御取起ニ而、十八手永御惣庄屋共御用懸被仰付、数十度集会ニおよび別害得失御普請之緩急等申談、数十ヶ所之御普請、当年迄五ヶ年ニ亘、夫々成就仕候。水引之次第者増水毎ニ御普請請前之釣合よりも差引を立其時々御達仕節、水害所是迄之通ニ候ヘハ、たとへ鯨・沼山津一手永ニ而仮土反より五百石下り之御損方有之候ヘハ、諸價米共ニ者千石余ニも及来候処、己住たとひ一旦ハ出増共速ニ引落申候ヘハ、容易ニ是迄通り之御損方ニ者至申間敷、左候ヘハ、数百町之畝方ニ付、莫太之出来仕、且大小豆作之儀ハ沈越候得者、用立不申候処、去々年ハ別段雨少之年柄ニ付、一概ニハ難申上候ヘ共、在郷も沈越候ヘ共、是迄と違速ニ引落申候間、無難ニ収納仕候。惣体降雨ニ相成申候ヘハ、床を浸候恐有之、病夫産婦者所々ニ揚候と唱来候。水害所ニ統小前々々人氣も違、降雨中病夫産婦も枕を高く薦ニ食し御たえ候様奉感荷誠残上難尽、於私も難有仕合奉存候。右之通ニ相成申候も御惣庄屋以下役々申談、一和仕、御普請向速ニ成就仕候故ニ付、執御賞美被仰付被下度奉存候。委細之儀ハ御承知被成下候通ニ付、巨細相認候而ハ却而御見巨も悪敷可被為御座と奉存、一紙を提役々重立て心配骨折仕候。稜々迄を認、傳左衛門・平之助申談、大概錢塘・鯨・沼山津御惣庄屋共より相達候段等々猶私共手元ニ而斟酌を加段等取分御内意仕候。既ニ嘉永三年十一月一旦御内意も仕置申候間、御照覽被成下候様奉願候。則別紙一括り相添御内意仕候条、宜敷被

覺

御奉行衆中

御普請之稜々左之通

嘉永二酉閏四月より

一宝曆積三拾六間乱杭打継栗石詰ニして御普請之事

同年同月より

一釈迦堂地付洲堀割新川立之事

同年同月より

一右新川口上戸口乱杭打方御普請之事

同年同月

一緑川・加勢川中隔乱杭打栗石詰ニして御普請之事

同年九月より

一大慈寺河原新川堀通御普請之事

同年同月

一杉嶋大神宮下夕分流築留御普請之事

同年閏四月より

一大渡町裏塘笠服付ケ石垣取繕御普請之事

同年九月より

一走湯新川御再興御普請之事

嘉永三戌四月より

一杉嶋上ケ田塘石垣出来之事

嘉永二酉九月より

一大慈寺河原新川口欠広メ御普請之事  
同年酉八月より

一宝曆地積芝地並割石積立御普請之事  
嘉永四亥四月

一加勢川中洲土を以宝曆碩下夕上ケ畑作り御普請之事  
同年九月

一大渡下も手欠川之事  
同年同月

一杉嶋積打石取上ケ之事  
同年同月

一犬渕新川堀通御普請之事  
同年十月より

一大慈寺河原新川口再度欠キ広メ底掘之事  
同年十月より

一荒水留メ取除ケたぶの川尻欠キ広メ、加勢川打出之分流御普請之事  
同年同月

一野田釈迦堂塘手笠服御普請之事  
同年十一月

一宝曆積平水より根元高サ壹丈鼻先キ六尺ニ割石積立之事  
嘉永五子五月

一右打繼之乱杭打広仕立上ケ之事  
同年閏二月

一中瀬橋上下欠広石橋懸方之事  
同年同月より

一大慈寺前新川以下所々浚方并杉嶋塘笠服御普請之事  
嘉永四亥五月

一杉嶋どんと打石取上ケニ付守留在養水井樋口欠キ広底積下ケ之事  
嘉永六丑三月

一野田水抜底樋御普請之事  
同年丑四月

一釈迦堂地御床机松上手より水神森迄欠川御普請之事  
同年四月

一杉嶋・廻江養水不足ニ付大渡り口新井樋壹艘出来、塘内并手筋所々御普請之事  
同年同月

一杉嶋どんと仮橋台出来ニ付右上手養水井樋下夕口出張之ケ所取下ケ、御普請之事  
一紙

一錢三百拾七貫九百三拾目壹厘  
外二

八拾八貫百七拾貳匁三分四厘

但、本行ニ稜立候程之儀ニ而も無之、小場々々之御普請、  
其外諸道具買入代出役賄送用共ニ

一粟九拾五石六升八合

一割石四万六千五百貳拾八合貳勺

一栗石千五百六拾七坪貳勺四才  
一丸太  
一杭木 三万七千七百七拾四本  
一寸竹百本  
一辛竹  
一葉竹 九百六拾五束壹合五勺

一 齒朶千四百五拾壹枚貳合

一 明儀壹万九百八拾七俵

一 繩三百三拾八束五把

一 雇夫壹万三千百貳拾六人四合

一 在夫六拾万九千六百八人

外二

壹万人

但、前条三稜在候程之儀ニ而茂無之小場々々之御普請、其

外大聖寺御普請小屋諸仕し等ニ召仕候分

一 費地畝數五町三反五畝拾五步

一紙

一 走湯新川長八百四間

幅四拾間

一 兩塘長千六百六間

根置八間留式間高式間

一 水取水拔新井手長八百式拾四間

一 費地畝拾壹町九畝

一 水越磧所壹ヶ所

上口四拾間懸板通三拾五間

懸板高三尺數名流拾七間

一 水取水拔石井樋七艘

一 土橋壹筋

渡三拾間幅壹丈

一 渡頭式ヶ所

但渡船共

一 新川内石垣長百八拾間

一 留獲打名壹ヶ所

幅四拾間

一 磧番人宅壹軒

式間梁六間半

一 夫貳拾万六千六百六拾六人

一 錢百九拾貳貫百六拾九匁貳分壹厘

走湯御普請御入目分

一同拾四貫五百五拾五匁五分八厘 余道具并石代等御振替分

合貳百六貫七百貳拾四匁七分九厘

右走湯御普請分

一 夫三千九百四人

川尻大渡町裏御普請夫鯨・沼山

津・本庄・田迎出夫分

一 錢三拾壹貫八百九拾六匁貳分七厘

右御入目分

外二

一同七百五拾目

土手賃之内川尻町出錢分

合三拾貳貫六百四拾六匁貳分七厘

右大渡町裏御普請分

夫合貳拾壹万七拾人

錢合貳百三拾九貫三百七拾壹匁六厘

御内意之覺

(朱書)

御知行拾石被増下

安兵衛

河瀬安兵衛

御知行拾石被増下

傳之助

三村傳之助

右者御普請御取起ニ相成申候而ハ、十八手水同役共之内ニも追々罷越、又ハ川尻町江も同様ニ而、会所又ハ御普請小屋へも再々応引受申談をも仕、種々様々差障之筋も御座候得共、諸手水出夫等も支無様相整、数稜ニ亘、大造之御普請成就ニ至、入目錢も重畳手を詰申候間、減省仕、五ヶ年之間諸手水ニ懸、各別ニ心配骨折仕、御普請向ハ惣引受ニ而取計、水害所逸稜之儀ニ付、兩人共重御賞美被仰付被下候様、尤鯨・沼山津と申内、傳之助儀ハ申談集會を

始、重役衆見分等根手水ニ付都而引受、始末主ニ成心配いたし候間御取分被下候様。

〔朱書〕

御知行拾石被増下 嘉兵衛

金子三百疋

作被時服一

清之丞

齊藤嘉兵衛

池部清之丞

右者大慈寺河原新川堀通ニ付而ハ差寄野田村地面費地ニ相成、新川堀根ニ引受残地面ハ川越ニ相成、不弁利彼是ニ付申分勝ニ御座候処、嘉兵衛儀差入申談、走湯新川之儀も只今ニ至候而ハ已前之川床も作地ニ相成、余計之費地難渋を始、□氣申立、差障多御座候得共、是又差入申談、右御普請者錢塘引受ニ而、嘉永二年十一月より御取起ニ付、翌三年霖雨前ニハ相濟不申候而ハ難成候間、嚴寒中晝夜詰切各別之働仕候間、速ニ成就仕、五尺已上之水者殺落川尻町已上水害を免レ、其外錢塘引受御普請之ケ所も有之、且追々会所も引受申談等も仕、清之丞儀ハ宝曆積向合を始中隔乱杭御床机松下欠取、杉嶋積打石取揚下在養水之難渋右ニ付而ハ再応廻禁もいたし申談、上畑一体等都而向合之ケ所々々而已ニ而、種々様々故障申出候得共、同人儀差入申談候間、夫々相整申候。此方申談相整不申候而ハ何事も六ヶ敷御座候処、必竟各別心配いたしゆへ全歸ニ至、杉嶋積打石取揚候ニ付水鼻且々殺落上在水害を免、兩人共割合之出夫をも受、五ヶ年立間始末各別ニ心配骨折仕候間重御賞美被仰付被下候様、嘉兵衛儀者、走湯新川大慈寺新川且者追々集会をも引受申候間御取分被下候様。

〔朱書〕

〔櫻柳紋附御上下一具〕

新五左衛門

那浦新五左衛門

〔朱書〕

太郎右衛門

布田太郎右衛門

右者御惣庄屋帳郷ニ而、初発出夫割之儀諸手水ニ懸色々差障之筋も御座候得共、追々集会之節も程能申談申候間、大造御普請速ニ成就仕候。出夫者勿論割合前差出御普請之ケ所々々ニ罷出、太郎右衛門儀ハ近在ニ居候へハ、集会所ニも傳之助追々罷越及相談各別ニ心を用□兩人共五ヶ年之間始末心配いたし候間、別段御賞美被仰付被下候様、尤太郎右衛門儀者右之通ニ付、御取分被下候様。

〔朱書〕

〔作被上下一具定〕

内田壽太郎

病死 甲斐忠九郎

右者水理御普請之儀、從往古、鯉・沼山津・本庄・田迎と四手永催合ニ而取計來候儀も有之、嘉永二年御普請御取起之砌、釈迦堂地堀川も四手永ニ而出夫仕、十八手水ニ懸候儀者、都而取計初発より水害所之訳を以集会所も無懈怠罷出、御普請之ケ所々々者勿論罷出、始末各別心配骨折いたし候間別段御賞美被仰付被下候様。

〔朱書〕

〔金子三百疋定〕

布田保之助

藤井次郎助

矢嶋忠左衛門

佐藤久右衛門

光永平藏

丸山平左衛門

右者嘉永二年御普請御取起より集會申談を始、数十ヶ所之御普請出夫取計、御普請場へも罷出、始末心配骨折いたし候間、孰も相應御賞美被仰付被下候様。

〔朱書〕

〔金子三百疋定〕

喜左衛門

近藤喜左衛門

病死 宮津藤左衛門

右喜左衛門儀者河江在勤中大慈寺河原新川御普請出夫、藤左衛門儀者横手在勤中走潟新川御普請出夫心配いたし候間、兩人共ニ相応御賞美被仰付被下候様。

〔朱書〕  
〔金子百足〕

大賀純右衛門

右者嘉永四年横手手水へ所替被仰付、大慈寺河原新川欠広、大淵新川堀通荒水留等之御普請都而出夫取計心配骨折いたし候間、相応御賞美被仰付被下候様。

〔朱書〕  
〔下付紙之通ニ付省〕

赤澤宇太郎

〔朱書〕  
〔金子百足〕

善兵衛

篠原善兵衛

右者大慈寺河原新川堀通、走潟下積として十八手永割取、松山者走潟、砥用ハ大慈寺河原、其後大淵新川堀通荒水留等、在勤中都而出夫取計、心配骨折いたし候間、相応御賞美被仰付被下候様。

御内意之覚

〔朱書〕

源作

在勤中諸役人段ニ而御郡代手附横目

作紋羽織一完

三右衛門

梅田源作

十之允

右者御普請御取起より御普請小屋定詰申付、入目銭之始諸品受払圭角ニ取計、根手永之事ニ御座候得共、御普請之ケ所々々へハ罷出、五年之間始末、傳之助引続各別ニ心配骨折いたし候間、別段被賞被下候様。

錢塘手永御郡代手附横目

小山三右衛門

高橋十之允

右三右衛門儀者走潟新川御普請ニ付而者、御普請小屋詰切ニ付、御入目銭諸品受払、圭角ニ有之、御普請向之儀も申談根ニ成、各別心配いたし、野田新川其外御普請之ケ所々々へも五ヶ年之間、始末罷出、十之允儀ハ御普請向者都而杉嶋地ニ係候儀ニ御座候へハ色々様々差障之筋を申立候所、同人儀數十度之立合者勿論、差障之筋も清之丞江力を添、各別心配致候ニ付、夫々相片付御普請場へも五ヶ年之間始末罷出、兩人共心配骨折いたし候間、兩人共別段被賞被下候様。

沼山津手永右同

吉富藤次郎

木倉手永右同

山田権之助

〔朱書〕  
〔作紋羽織一完〕

錢塘井樋方助役一領一正

木村源左衛門

右同

久我久右衛門

右同塘方助役

甲斐源八

右藤次郎・権之助儀ハ初より御用懸申付、寄夫之節者御普請小屋詰切、源作同様御入目銭等之受払も圭角ニ仕、御普請ケ所々々ハ五ヶ年始末罷出骨折仕候。源左衛門・久左衛門儀者走潟新川水越磧所并井樋七艘、嘉永二年十一月より翌四月迄ニ成就仕、御普請所詰切ニ而寒氣強砌各別出精骨折仕、源八儀者同所新川堀方并塘築立井樋磧并土摺掛方共引受出精骨折仕候間、孰作紋御給羽織壹完



被為拝領被下候様。

(朱書)

〔作紋羽織一完 又次郎 禎之助〕

緑川水理見拟在勤中一領一疋

小山又次郎

右同鯨

石坂禎之助

右同杉嶋

郷 謙吾

〔朱書 同上下一具〕

謙吾

右又次郎儀者走瀉新川御普請ニ付而八字土石場へも必毎度罷越割

石等取出方受持、大渡町裏御普請之儀者受持ニ而始末相詰、嘉永

三年三月水理見拟被仰付、其後所々之御普請へも罷出、禎之助儀

鯨会所役人ニ而御座候処、御普請御取起より測量等仕御取懸ニ相

成候而ハ、御普請小屋へ相詰、杉嶋地根困石手御普請ハ始末引受、

又次郎同様被仰付候而ハ杉嶋・錢塘・川尻町へ懸、彼是心配いた

し御普請ケ所々々へハ始末罷出、謙吾儀者杉嶋会所手代ニ而、御

普請筋之儀者専ら取救居候処、嘉永四年九月又次郎同様被仰付候

間、又次郎・禎之助申談、杉嶋地申分并積所打石取揚、守富在養

水一体等厚心配いたし、孰も各別出精骨折仕候間、又次郎・禎之

助儀ハ作紋御給羽織完、謙吾儀ハ作紋麻上下一具被為拝領被下

候様。

(朱書)

〔一領一疋本席被仰付 作紋上下一具〕

鯨手水地土ニ而塘方助役在勤中一領

一疋

齊藤律次

右者根手水之塘方助役ニ而御座候へハ、寄夫御普請之ケ所々々へ

ハ罷出、手水ニ而引受候御普請之稜々も余多御座候処、水理御普

請筋之儀ハ実ニ我物之様ニ相心得、差入出精仕、五ヶ年之間、寒

暑中之無厭誠涯分を尽、別段骨折仕候。同人儀惣体文化九年小頭

助役申付、其後庄屋役をも申付、文政八年寸志ニ而地土ニ被仰付、

弘化二年塘方助役申付、在勤中一領一疋ニ被仰付、当年迄四十二

年ニ罷成、平日御普請向格別ニ出精仕候間、旁別段を以、年旁旁ニ

而一領一疋本席被仰付、猶作紋麻上下一具被為拝領被下候様。

〔朱書 作紋上下一具完〕

鯨手水一領一疋ニ而沼山津塘方助役

野田潤之助

錢塘地土ニ而同所手代御普請受込

中村儀三右衛門

右同地土永井甚次郎俸同所根拟

永井八十八

右潤之助儀者御普請御取懸中、嘉永三年三月塘方助役申付、鯨

沼山津之儀ハ根方ニ而臨時出夫等も仕、御普請ケ所々々へハ都而

罷出、儀三右衛門・八十八儀者走瀉御普請、其外新川立塘築立等

一切引受、走瀉御普請之儀ハ嚴寒中泥中ニも入、差図もいたし候

ニ付速ニ成就仕、其後たふの川尻等之御普請之錢塘引受ニ而、五ヶ

年之間始末出精骨折仕候間、孰も作紋麻上下一具完被為拝領被下

候様。

(朱書)

〔銀五兩 絶太郎 金子貳百元完 謙左衛門列〕

内牧御惣庄屋

柴田純太郎

横手手水御郡代手附横目

鳥井謙左衛門

池田右同當時田迎受持

小田安左衛門

本庄右同

除野金次郎

甲佐右同

北 幸兵衛

沼山津右同

福嶋太郎助

廻江右同

内野省九郎

中山右同

加来尉左衛門

河江右同

井上甚之助

砥用右同

岡崎繁藏

松山右同

井上育太郎

郡浦右同

積 三左衛門

砥用御惣庄屋

右田徳左衛門

儀者本庄手永先役中之儀有之、謙左衛門列同様ニ而御座候、純太郎儀ハ嘉永二年九月走鴻新川再興被仰付、磧所并井樋々々居方申談候而宇土へも罷越、野田新川御普請ニも罷出申候処、同三年十一月御惣庄屋へ転役被仰付、暫之間過候付少御取分被下候様、其余之面々ニハ孰も金子式百疋完被為拜領被下候様。

〔朱書〕  
「金子式百疋完」

本庄手永塘方助役當時手附横目

宮原敬之助

甲佐右同

松本嘉右衛門

右同

佐藤勝之助

木倉右同

岩永徳藏

廻江右同

藤井忠左衛門

杉嶋右同

〔朱書〕  
「病死」

都田安兵衛

河江右同

岩崎次郎兵衛

中山右同ニ而當時御役免

清原健太郎

砥用

三隅喜兵衛

松山右同

右者嘉永二年大慈寺河原新川堀通・犬渕新川たふの川尻堀通等、四ヶ年之間所々御普請集會等ニも罷出、内外骨折仕候。徳左衛門

野田龜太郎  
郡浦右同

郡浦又吉

沼山津河瀬安兵衛倅二代役御免

河瀬太郎七

松山井樋方助役一領一疋

野村新助

郡浦塘方助役右同

中園英之助

右者嘉永二年以來所々御普請之節、丁場積より仕上迄始末罷出、  
出精骨折仕候。太郎七儀者寄夫之節ハ勿論御普請初より所々始末  
罷出、出精骨折仕候。新助儀者寄岩石取出方之儀心配仕、栄之助  
儀ハ長濱太多尾ニ懸、大小石取出心配仕候間、孰も金子貳百疋完  
被為拝領被下候様。

郡浦新五左衛門倅

郡浦志摩助

河江近藤喜左衛門倅

近藤平四郎

中山矢嶋忠左衛門倅

矢嶋源助

右者代役ニ而御普請出夫之節ニ罷出、出精いたし候間、御銀五両完  
被為拝領被下候様。

甲佐御山支配役

赤星忠兵衛

木倉右同

矢部右同

光永次郎助

山内晨之允

木原孫七郎

右者御普請ニ付而ハ、竹木者上益城御山藪より被渡下候ニ付、忠兵  
衛・次郎助儀者余計ニ間引伐等取計、矢部之儀者遠在にて現木持  
出相成不申候ニ付、割合丈々立木を以里在ニ而買入私等之取計仕、  
御普請ニおひてハ却而并利ニ相成、孰も心配いたし候ニ付、金子貳  
百疋完被為拝領被下候様。

錢塘御郡医師並

〔朱書〕  
〔病死〕

松岡謙濟

右同

緒方長

池田御郡代直触

井上貞郁

右同御郡代直触

秋山壽濟

右同御惣庄屋直触

井手省兵衛

横手

馬原玄徹

右同

浅山文貞

本庄

吉尾憲良

〔朱書〕  
〔銀五両完〕

〔朱書〕  
〔金子貳百疋完〕

右同

三浦幸演

田迎

後藤玄又

右同

玄磧

鯨御目見医師

徳永貞壽

右同御郡代直触

田代宗壽

右同

池上貞之助

杉嶋御郡医師並

三隅蔓壽

右同

三隅大方

右同

清崎元栗

右同

吉村俊彦

廻江

高濱玄迪

中山御郡医師

宮崎紹元

右者鯨手永醫師ハ諸手永出夫之節も追々罷出、其外ハ自手永出夫

之節ニ罷出候処、大勢之夫方ニ而怪我、其外内外之病多、余計之  
投薬も仕候間、孰も御銀五両完被為拜領被下候様。

錢塘一領一疋

〔朱書〕  
銀貳両完

八助

吉之助

平八

右同

木村八助

吉永吉之助

右同地士

廣瀬平八

右同御郡代直触

〔朱書〕  
鳥目菅貫文

惠二郎

野村惠一郎

右者野田新川堀方之節、始末為見扨罷出、出精仕候間、孰も御銀  
貳両完被為拜領被下候様。

錢塘手永本席地士ニ而當時井樋方助  
役在勤中一領一疋

小山郡兵衛

〔朱書〕  
金子貳百疋宛

右同下代

郡兵衛

渋谷甚之助

右同在勤中御郡代直触當時紙楮見扨  
会所詰白石卯三郎俸

白石平四郎

〔朱書〕  
鳥目三貫五百文宛

平四郎列

五人

右同御郡筒ニ而同所小頭

馬原五助

鯨手永根抄小頭二而水理見抄在勤中  
御郡代直触

末武和助

右同根抄小頭二而礼服御免

瀬兵衛

右同犬渕村庄屋

勝兵衛

右、郡兵衛・甚之助・平四郎儀者野田・走瀉費地調急成事二而昼夜しらへ方仕、入目銭受抄上、汐害御心付米調方心配仕、五助儀者走瀉井樋所分を以受持申付、大渡町裏御普請をも受持申付、其後大慈寺河原新川口欠広受込而数十日詰切出精仕、和助・瀬兵衛儀者根手水之者二而候へ者、当年迄五ヶ年之間所々御普請昼夜無間断心配骨折候。其外竹木諸品等之費無之様涯分を尽相勤申候。勝兵衛儀者会所詰小頭二而、初より御普請小屋定詰申付、御入目銭、其外一切之受抄上を始、出役賄等二至迄受込申付、勿論詰切廉直二取計、聊申分之筋も無御座、嘉永二月庄屋申付候得共、御普請之儀者不相替受込申付置、深心を用各別相勤申候間、孰茂鳥目五貫文完被為抄押領被下候様。

杉嶋手永根抄

藤兵衛

右同釈迦堂村

堀 廉平

錢塘手永御郡筒二而同所小頭

白石平左衛門

沼山津手永根抄小頭

俊 助

右、藤兵衛儀宝曆積釈迦堂地欠川どんど打石取揚二付、守富在養水井樋等数ヶ所之御普請村々へ申談等心配仕、廉平儀者大慈寺河原宝曆積釈迦堂地欠川河原地堀割中隔乱杭都而村方江懸、故障之筋有之候処、五ヶ年之間厚心配いたし一稜御用二相立申候。平左衛門儀者走瀉井樋々々所分を以受持申付、同所新川下見抄をも申付置、御普請後迄も心配仕候。俊助儀者沼山津手水を以鯨二引続根受二而取計、五ヶ年之間自手永出夫之節者勿論、外二も追々罷出無間断出精相勤申候間、孰茂鳥目三貫文完被為抄押領被下候様。

甲佐手永根抄小頭

徳 助

木倉手永右同

善兵衛

鯨手永同所手代

下田文左衛門

右同副手代

米満清七

右同根居

祖父江 謙左衛門

右同下代二而水理見抄在勤中御郡代

直触

木柑子清兵衛

右同外廻小頭

一郎右衛門

錢塘手永中内田村庄屋

〔朱書〕  
鳥目式貫五百文完

〔朱書〕  
鳥目式貫文完

馬場嘉右衛門  
右同小頭

甚右衛門  
右同野田村庄屋

壽八

右、徳助儀、大慈寺河原新川立積方より罷出、矢部遠在ニ而杭木持出難渋ニ付、於甲佐伐替引受取計、右ニ付而所々ニ懸数十日別而心配仕、善兵衛儀者大慈寺河原堀通以來所々之御普請積方より始末罷出、骨折いたし、文左衛門儀者手代ニ而、傳之助差合之節者名代ニ茂罷出、清七儀者、会所之御入目錢之受払、清兵衛儀者、水理見扶ニ付、初より高低等之側量絵図仕立、謙左衛門儀者、御普請小屋江数ヶ月相詰、一郎右衛門儀者、御普請御取起以來根扶ニ差統所々ニ懸出精仕、嘉右衛門・甚右衛門儀者、走瀉井樋々々所分を以受持、壽八儀者野田村庄屋ニ付、同所新川立向又欠広ニ付而村方申分有之候得共、各別心配いたし候間、御普請之場ニ至何れ鳥目式貫五百文完被為拝領被下候様。

錢塘手永惟重村庄屋

甲斐貞次

右同平木村庄屋

又四郎

池田手永根扶小頭

植田新五郎

右同

勝左衛門

横手手永根扶小頭

内藤次郎右衛門  
右同

吉村和左衛門  
本庄手永右同

忠次郎

田迎手永右同

伊藤忠左衛門

木倉手永右同

文作

廻江手永右同

廣左衛門

河江手永奉新田村庄屋

桑原五左衛門

右同根扶小頭

勘左衛門

中山手永同所手代

富永平左衛門

右同根扶小頭

豊田次一郎

砥用手永右同

孫作

右同

弥兵衛

松山手永右同

茂左衛門

〔朱書〕  
〔鳥目式貫五百文完〕

右同

文左衛門

郡浦手永右同

稻原覺左衛門

鯨会所詰

甲斐壽一郎

右同

石坂為助

右同

庄兵衛

右同

十郎助

右同小頭

齊藤太郎助

右同

滿田壽太郎

右同

梅田熊太郎

右同

和太郎

右同

忠三郎

右同

甚助

右同

弥左衛門

右同

吉之助

右同

文次郎

右同

齊藤辰次郎

右同

松太郎

右、貞次儀者、野田・走潟御普請中諸事心配いたし、又四郎儀者走潟新川床ニ懸候村ニ而心配いたし且御普請小屋出来迄者御吟味役以下宿を受、其外新五郎より覺左衛門迄十七人之者之共者、走潟新川・大慈寺河原新川等数ヶ所之御普請積方より始末主ニ成取計、大造之御普請夫々成就ニ至、壽一郎より松太郎迄十六人之者共者、御普請御取起より五ヶ年之間、所々之御普請他御郡ニ懸骨折仕候間、鳥目巻貫五百文完被為拜領被下候様。

〔朱書  
鳥目巻貫文完〕

錢塘手永御郡代直觸方丈村庄屋

堺 助次郎

右同西走潟村庄屋

田代勘七

右同北走潟村右同

直右衛門

郡浦手永御郡簡ニ而長濱村右同

釜賀廣次

沼山津会所詰小頭

壽太郎

右同

右同上幸川村庄屋

一太郎

右同小頭

任次

右同

右同

右同

久左衛門

茂左衛門

沢田直左衛門

甚三郎

權次郎

右同 善助

杉嶋手永右同

房太

木倉手永右同

勝兵衛

矢部会所手代

高橋文次

右同副手代

工藤宗次郎

五町会所手代

長谷川甚右衛門

右同下代

出田宗左衛門

右同副手代

高木繁平

右同下代

上村恒右衛門

右同根小頭

宮津次左衛門

右同

本庄手永平野村庄屋

太兵衛

右、助次郎・勘七・直右衛門儀者、走鴻新川床ニ懸候村々ニ而、小

前々々誘方心配いたし、御普請中始末罷出、廣次儀者、石場々々

せり立且長濱より道具石割名等八歩通り者取出候心配いたし、壽

太郎より善助迄九人之者共者御普請御取起より所々出夫之節々出役、数年之間骨折仕候。房太・勝兵衛儀者、自手永出夫之節者勿論丁場積より立会根拟江差継骨折仕、文次より半九郎迄八人之者共者、現出夫難渋ニ付、受負頼候ニ付御普請所出役之口数者各別無之候得共、難渋之年柄夫賃銭取立等引受ニ而始末心配仕候。太兵衛儀者、大正寺石巻棒塘より乱杭栗石詰其余右村ニ懸候御普請色々村方故障之筋茂御座候得共、孰も申誘夔入等数十日出勤も仕、彼是心配骨折仕候間、孰も鳥目壹貫文完被為拜領被下候様。

(朱書)  
鳥目七百文完

錢塘手永御郡代直触会所詰

荒木九左衛門

右同一領一疋格林田弥八相統之二男

ニ而会所詰小頭

林田弥三左衛門

右同御郡代直触阿部九兵衛養子ニ而

右同

阿部三郎次

右同地士ニ而涉江元平倅ニ而右同

涉江勘次

右同無苗御惣庄屋直触ニ而右同

喜八

同所右同

仙左衛門

沼山津会所詰ニ而木山町村庄屋兼帯

傳右衛門

右同会所詰



緒方純左衛門  
右同

甲斐弥右衛門  
田迎手永前御使番列

山田七左衛門  
沼山津会所小頭

篤右衛門  
傳左衛門  
右同

井手理八郎  
上野善兵衛  
右同

榎田太平  
白木萬次郎  
右同

江藤健之助  
利左衛門  
右同

忠平  
忠七  
右同

為助  
黒田直三郎  
池田会所

島田茂左衛門  
右田松五郎  
右同

横手会所  
古閑為助  
右同

甲斐謙助  
戸田茂七郎  
右同

鳥井作右衛門  
右同

橋本敬右衛門  
友枝八左衛門  
右同

内田宅平  
文右衛門  
右同

惣右衛門  
半平  
右同

勝助  
只右衛門  
右同

一左衛門  
角平  
右同

藤本伊左衛門  
庄兵衛  
右同

本庄会所  
守田太右衛門  
右同

石原茂右衛門  
善左衛門  
右同

索左衛門  
宗七  
右同

文次  
同所小頭三而當時庄屋役相勤申候  
右同

弥三郎  
立右衛門  
同所右同

嘉平  
守田格左衛門  
右同







益城八大慈寺河原、飽田・詫麻・宇土者走湯、其内大測新川等  
所々之御普請數十日出役骨折仕候間、孰も鳥目七百文完被為拝領  
被下候様。

〔朱世  
鳥目七百文完〕

錢塘御惣庄屋直触小頭

久我和兵衛

松山網津村庄屋

齊藤七左衛門

池田上松尾村右同

飛鷹喜傳

錢塘走湯村右同

芥川源之允

右同南走湯村右同

小山直助

右同中牟田村右同

永井甚次郎

右同江中嶋村右同

田上桂次

右同下仲間村右同

甲斐勝平

右同北沖村右同

小山元右衛門

右同東錢塘村右同

渋谷元平

右同二十丁村右同

荒木半次郎

右同内田村右同

村上傳右衛門

右同上沖村右同

内田庄次

右同小岩瀬村右同

保田忠左衛門

右同上内田村右同

中村金右衛門

右同錢塘村右同

久我弥八

右同二丁村右同

小山壽八郎

右同

吉塚弥兵衛

右同中牟田村右同

久平

右同八丁村右同

白石恒右衛門

右同新開帳本

白石桂助

松山笠岩村右同

傳兵衛

沼山津手代

安尾騏一郎

右同下代

桑原権四郎

右同副手代

壽三郎

右同会所詰

恒右衛門

右同

右同小頭

彦九郎

矢部会所小頭

石原平次郎

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

右同

仙左衛門

源兵衛

大城弥兵衛

佐藤傳兵衛

仁三郎

善兵衛

永助

嘉平

弥太郎

準次郎

右、和兵衛儀者、野田・走湯御普請中諸事心配いたし、御普請向へも頻ニ罷出、七左衛門儀者、石場之せり立築石等取出ニ付心配いたし、喜傳儀も石場之せり立大小石取出心配いたし、源之允より久平迄十六人之者共ハ、走湯御普請中出役仕、十八手永割合外夫方を余計ニ差出心配骨折仕、恒右衛門・桂助儀者、走湯新川床

懸之村々ニ而御普請中彼是心配いたし、傳兵衛儀も、石場之せり立寄岩石取出方ニ付而も心配いたし、騏一郎より茂三郎迄七人之者共ハ御普請御取起以來、手永惣夫立之節ハ罷出、会所元之儀引受出精仕、平次郎より準次郎迄十一人之者共ハ受負夫錢取立、杭木受負扱、一件厚心配いたし候ニ付、孰も鳥目壹貫五百文完被為拝領被下候様。

右之通御内意仕候条、夫々宜敷被成御参談可被下候。以上

嘉永六年七月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

二八五 上妻八右衛門

(十一一一)

御内意奉願覚

〔朱書〕  
作被羽織二

上妻八右衛門

右者嘉永二年緑川・加勢川水理御仕法替に付、御郡御吟味役同道見分被仰付候末、同十一月別段御用懸を茂被仰付、同月より右御普請御取懸、翌年四月迄御普請所江始末被差出置候内、別而走湯新川再興之儀者大造之儀ニ而、其外水取水抜井樋橋等、数ヶ所出来ニ付而者、莫大之御出方受扱筋者素り之儀ニ而、御普請仕法筋等重畳思惟を凝、見込之趣者事々御惣庄屋以下江茂無腹職申談、或者費地畝等之諸しらへを初、地代錢毛上代渡等不当之望出仕候分者且々相当之しらへニ引直せ委細者其時之御達仕置候通ニ而其内ニ者内輪心痛之稜茂有之候得共、聊茂無厭、格別心配出精仕、將又中瀬橋より大慈寺河原迄之加勢川筋所々欠広、并新川立之御仕法に

付而茂費地しらへ、且地代錢究等茂有之、杉嶋地并川尻大渡町裏、且錢塘会所下御手入御普請ニ至迄、都而立会被仰付、右ヶ所々々入用石之儀、宇土・長濱・網津より御取出に付而茂、彼地江追々渡海仕、彼是數ヶ所ニ懸御出方減之申談等厚心配仕、万端配慮筋行届候ニ付、右御普請速ニ成就仕、余計之御出方茂相減候通ニ御座候処、右御仕法替ニ付而者鯨・沼山津平水茂相減、第一洪水引落速ニ有之候ニ付而者、其後田方格別申分茂無之様相成、其末川尻町水害茂除、川筋塘手破損之氣遣茂薄らき、彼是屹と切驗相見上下之為合ニ相成候儀ニ御座候間、如何様卒被賞被下候様奉願候。此段宜被成御達可被下候。以上

嘉永七年二月

御郡横目共

二八六 儀 平

(十一一)

覚

松山手永上古閑村庄屋ニ而無苗御惣庄屋直触

儀 平

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、役方數十年心懸能出精相勤、受持之村方勸農厚相倡、村中一和仕、小前々々帰服いたし、御年貢諸上納速ニ相納、世話筋茂行届候由ニ而、勤年數等本紙書面之通相聞申候。以上

寅七月

平井恒右衛門㊦

御内意之覚

松山手永上古閑村庄屋無苗御惣庄屋直触

儀 平

七十才

右者文化四年父夫右衛門庄屋代役差免、同十四年父跡庄屋申付、当年迄代役以来四十八年無懈怠精勤仕、天保九年役方多年心掛能出精仕候旨ニ而、礼服御免、弘化元年役方多年出精いたし候ニ付、無苗御惣庄屋直触被仰付候。惣体学実ニ有之、村方檀方行届、勸農手厚倡候ニ付、村中一和仕、風儀能、御年貢諸上納も年々速ニ皆納仕、一体人氣善事ニ相進候由、偏ニ儀平兼而之示方行届申候故被相聞申候。右勤中鳥目等數度被下置、前御賞美より十一ヶ年庄屋役三十八年相勤申候ニ付、此節苗字御免被仰付被下候様、於私奉願候。此段宜被成御參談可被下候。以上

四月

江嶋傳左衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

儀平儀、庄屋役三十八年ニ相成、出精相勤候間、苗字御免ニ相成度由、達之通御座候処、庄屋役ハ惣年數四十年已上ニ而、前賞より十一年目苗字御免之究ニ而、惣年數二ヶ年淺有之候得共、極老之ものニ而見合も有之候間、達之通苗字可被成御免哉。代役八年數ニ不加候得共、庄屋代役以来ハ四十八年ニ相成候儀ニ御座候。

(朱書)  
〔僉議之通寅十一月七日達〕

二八七 松岡道成

(十一一)

覚

錢塘手永北走湯村居住御目見醫師ニ而病死仕

候松岡謙濟倅

(朱書)

二 本通

一 法破的

松岡道成

右者、親跡相統別紙之趣ニ付、見聞仕候処、家業心懸厚、父存生  
中より病家廻診等引受、手広療治仕、父死後茂不相替病家茂信仰  
仕、所柄為合ニ相成候由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

寅十一月

久野多學印

御内意之覚

錢塘手永北走湯村居住御目見医師ニ而致病死

候松岡謙濟倅

松岡道成

三十四才

右父謙齊儀、文政三年六月親跡苗字御免、御惣庄屋直触被仰付、  
同十一年九月御郡代直触被仰付、天保十三年九月御郡医師並被仰  
付、当年二月御目見医師被仰付置候処、当七月病死仕候。右道成  
儀田中玄勝門弟ニ而、天保十一年より再春館懸席仕、追々御銀等  
御賞美御座候。父謙齊儀走濁在所々々懸都合竈數四百軒余、緑川  
筋蜜柑新開等着之、自他之商売船乗組之船頭等、臨時ニ療治仕候  
至迄、去年中之病人數千三百七拾人余ニ及候処、惣体道成儀、家  
業心懸厚、父存生中より病家廻診等、都而懇ニ引受療治仕来、  
追々奇効を取候儀多、病氣信仰も厚、所柄為合ニ相成申候間、親  
跡相應被召出被下様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可  
被下候。以上

飽田

嘉永七年九月

御郡代

御郡方

御奉行衆中

僉議

道成儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候処、治療習熟学業篤  
志療治方相應ニ被行候由達有之、再春館御目附見聞之趣茂、同様  
之由達有之、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣  
茂、手広療治いたし、所柄為合ニ相成候由、別紙之通御座候。御  
目見医師之跡、右之科目ニ而者見合茂御座候間、御郡医師並へ可被  
仰付哉。

(朱書)

〔右儀之通宣十一月廿日達〕

(安政二年)

二八八 野村新助

(十一一)

覚

松山手永網津村居住、地土井樋方助役、在勤  
中一領一疋ニ而会所見拟・宇土駅所見拟兼帶

野村新助

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、彼方六十ヶ年格別心懸厚出精相  
勤、追々御賞美茂被仰付、老年ニ者未夕達者ニ有之候由ニ而、井樋  
方助役・宇土駅所見拟ニ而者、人馬立且米錢受払等、圭角ニ取行候  
由ニ而、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

卯三月

久野多學印



御内意之覚

松山手永地土三而井樋方助役并会所見扱・宇

土駄見扱

野村新助

七十二歳

右新助儀、寛政八年郡浦出会所見習ニ呼出、同十年松山会所見習ニ引直、享和三年小頭役申付、文化八年会所詰申付、同十一年根扱役申付、文政四年下代役申付、同十年役方多年手全出精いたし候旨ニ而、無苗御惣庄屋直触被仰付、同十一年手代役申付、同十二年立岡堤堀添ニ付而、地方買上代地取組等、抜群出精いたし、且又松嶋新川堀替ニ付而も罷出、出精仕候旨ニ而、苗字御免被成候。天保二年手永見扱兼帯申付、在勤中御郡代直触被仰付、勸農倡方兼帯申付、同九年依年功御郡代直触本席被仰付、弘化二年松山手永井樋方役并会所見扱兼帯在勤中一領一疋被仰付、同三年五十年余之勤勞被付、本席地土被仰付、同四年宇土駄所見扱兼帯人馬立、井米錢受扱等一切受込申付、当年迄六十年役々出精相勤、追々御賞美被仰付、七年寛政八年より享和二年迄見習二十五五年、享和三年小頭より文政十年下代役迄十七年、文政十一年より弘化元年迄手代役十一年、弘化二年より当年迄井樋方助役会所見扱、新助儀一体為人篤実ニ有之、役々数稜六十年相勤之中、会所在勤中、会所役人村々庄屋など一和ニ申談、手厚引立をも仕、井樋方助役宇土駄見扱申付候処ニ而ハ、人馬立廻米錢受扱等旧弊を改、圭角ニ取行、其外手永一体ニ亘、数々功績御座候間、六十年勤勞被付、本席一領一疋ニ被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政二年二月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

新助儀、達之通ニ而、会所見習以来六十年之内、当役在勤中一領一疋被仰付候以来、十一年本席地土被仰付候而十年ニ相成、惣体役方六十年に而者一席者被進候見合ニ而、前賞よりも十年ニ相成、宇土駄見扱兼勤いたし、格別出精相勤、数々功績茂有之候由、老年旁ニ付、一領一疋本席可被仰付哉。

(朱書)  
[僉議之通卯四月十五日達]

二八九 浦上勝甫

(十一一)

覚

松山手永佐野村居住苗字御免御惣庄屋直触医  
師

浦上勝甫

右者、別紙之趣ニ付見聞仕候処、勝甫家筋之儀、本家高麗門内居住、当代浦上瀬兵衛方先祖、二代目浦上十兵衛二男浦上八左衛門と申人、松山手永三日村ニ而、本家御赦免開地之内、在宅ニ相成居、右八左衛門方嫡子勤助、其子孫五代目之勤助、二男右勝甫亡祖父浦上真庵本家之育ニ而、同手永佐野村江入医仕居候由之処、其節在勤之御惣庄屋内田良平代、松山手永医生少ク為有之由ニ而、御郡之医師ニ勤方ニ相成、左候得者、御郡代直触ニ被召出との趣を以申聞候由ニ付、右之趣、右真庵より本家浦上十兵衛方ニ相伺候

由之処、御郡代支配ニ願立呉候様、申聞ニ相成候付、其趣御惣庄屋江申向ケ候由ニ候得共、其節引取依願、天明六年二月御郡代直触ニ被仰付、右眞庵倅眞壽儀親跡相統、父同様御郡代直触被仰付候由。然処本家より、是迄土席之血脈連綿仕居候由相聞申候。且勝甫儀、家業心懸能、療治方出精いたし候由。尤同人親跡相統、嘉永六年五月と有之候得共、去五月相統被仰付候由承申候。以上

卯七月

平井恒右衛門 ㊦

御内意之覚

松山手永佐野村居住

浦上勝甫

右祖父浦上眞庵儀、天明六年依願御郡代直触ニ被召出、其子浦上眞壽儀、文化八年父跡相統、父同様御郡代直触被召出、其子当代浦上勝甫儀、父病死跡相統、嘉永六年五月苗字御免・御惣庄屋直触被仰付候。然処勝甫家筋之儀者、一昨年平之助より御内意仕候通、根元浦上家育土席之族ニ而、御郡代直触ニ被召出候儀ニ御座候へ者、外々民籍等より被召出候者トハ、乍恐御取分も可有御座哉と奉存候間、勝甫儀御郡代直触ニ被召直被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

安政二年四月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

勝甫儀、去年五月科目究之通、苗字御免之御惣庄屋直触被仰付候処、根元浪人筋目之者ニ付、御郡代直触被仰付被下候様、達之通に付吟味仕候処、同人祖父浦上眞庵、天明六年十一月御郡代直触

被仰付候節、土席浪人之由相見、眞庵依願右之通被召出、文化八年眞庵倅眞壽儀も親同様、御郡代直触被仰付候儀ニ御座候。苗字帶刀浪人筋目之者者、科目ニ無拘御郡代直触被仰付候儀、追々見合有之、勝甫家筋右之通ニ御座候間、達之通御郡代直触可被仰付哉。

例

弘化四年十一月

(朱書)

卯八月 科目究通御惣庄屋直触被

河原手永

五日達 仰付候処、浪人筋目之由

堀田養節

依達御郡代直触被仰付候。

二九〇 松浦善三郎、野口廣吉

(十一一二)

御内意之覚

松山手永松合村居住一領二疋

一錢貳貫目

松浦善三郎

右者諸役人段ニ進席被仰付被下候様

同手永古保里村居住一領一疋野口文平二男

一同貳貫百目

野口廣吉

右者御郡代直触ニ被召出被下候様

同手永松合村居住御惣庄屋直触

一同壹貫五百目

松村徳次

同村居住無苗御惣庄屋直触

一錢貳貫五百目

藤助

右者御郡代直触ニ進席被仰付被下候様。

右者今度御備場御用ニ付、寸志差上度奉願候処、願之通被召上候間、夫々上納相濟申候。依之右稜々之通被仰付被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談被下候。以上

安政二年七月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

善三郎列四人何れ茂寸志高見合之規矩ニ相当申候付、達之通進席等可被仰付哉

(朱書)  
〔右僉議之通卯八月廿七日申渡且達〕

二九一 北野茂次郎、北野甚七

(十一一)

覺

松山手永馬瀬村居住一領者正ニ而病死仕候北

野甚七相統之三男

北野茂次郎

四十九歳

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、手全成人物ニ而、筆算相応ニ仕、当時会所根抄役助勤申付ニ相成、出精相勤居行状ニ付、異候唱相聞不申候。其外委細者本紙書面之通相聞申候。尤亡父甚七勤年数等相替候儀者、稜々付紙用置候通ニ而、御赦免開等者、所持仕居不申由承申候。以上

卯七月

平井恒右衛門

御内意之覺

松山手永一領一疋ニ而病死仕候

北野甚七

九十一歳

一勤年数七十五年

内

四十五年 庄屋役

二十七年 手永横目ニ而御米山見抄

三年 一領一疋

右者天明元年馬瀬村庄屋役申付、文政三年松原村庄屋ニ所替申付、同四年手永横目兼勤申付、同七年依願松原村庄屋役差免、天保六年手永横目役持懸ニ而御米山見抄兼勤申付、精勤仕居申候内、嘉永六年十一月役方七十年余出精相勤候旨ニ而被為賞、一領一疋ニ進席被仰付候。庄屋役以来当年迄七十五年相勤申候。

一寛政四年津波之節、御手船初日丸及難船候濡米取揚等、心配仕候旨ニ而、鳥目三百文被下置候。

一享和元年役方多年出精仕、且祖父代寸志之訳旁被対、苗字御免御惣庄屋直触被仰付、尚祖父甚右衛門存生中、近郷火事逢、難波之者共江米錢差遣候ニ付被賞、家内傘・管笠御免被仰付候。

一文化八年馬瀬村零落之所柄、多年厚心を用、役方格別出精仕候旨ニ而、御郡代直触被仰付、天保九年役前数十年致出精、及老年候而も、必多度村々打廻、貧民取救等之申談行届、且新開御米山床見抄、自勤ニ而相勤、御米払之節者、私子共江湯茶を茂相施し、万端手厚世話いたし、一統之為ニ相成候旨ニ而、地士進席被仰付、嘉永六年十一月役方七十年余、不相替出精仕候旨ニ而、一領一疋ニ被仰付、同七年正月九十歳之長寿被遊御祝金子貳百疋被為拜領候。右

之外追々拜領仕候。

右之通三而、天明元年庄屋役以来七十五年相勤、当正月病死仕候。

右甚七相統之三男

北野茂次郎

一勤年数二十三年

内

六年 庄屋役

十四年 宇土宿惣代并小頭役共

三年 松山会所詰三而根拟助勤

右茂次郎儀、天保四年宇土宿小頭役申付、同十二年宿小頭役持懸

二而、城神山村庄屋役申付、嘉永二年右役々者差免、宇土駅所惣

代役申付、同六年惣代役差免、松山会所詰根拟助勤申付、当年迄

役々二十三年相勤、父子勤年数合九十八年三罷成、茂次郎儀、一

体物馴、且手全三而、御郡並相応之御用相立可申人物御座候。父

子九十年之勤先者稀成儀御座候間、年功被賞、親同様一領一疋相

続被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宣被成御参

談可被下候。以上

安政二年三月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

(朱書) 茂次郎儀、達之通三而、父甚七役方七十五年相勤、一領一

疋三而相果、茂次郎儀も庄屋并小頭等都合二十三年相勤、

父子年数合九十八年三而、父役付六十年、俸役付二十年以

上三而者、親同様被召出見合御座候付、茂次郎儀父同様一

領一疋可被召出哉。但御横目付紙之儀者、甚七儀去年病死

いたし、勤年数一ヶ年之違有之由之処、選挙方江著当正月

病死之段違有之、年数一ヶ年之違三而八、御取扱筋相替儀

も無之候付、本文之通御座候。

二九二 釜賀茂助

(十一一二)

御内意之覚

松山手永立岡村居住御惣庄屋直触

一錢差貫五百目

釜賀茂助

右者御備場御用三付、寸志錢差上申度奉願候処、願之通被召上候

間、夫々上納相済申候。依之御郡代直触三進席被仰付被下候様奉

願候。此段御内意仕候条、宣數被成御参談可被下候。以上

安政二年九月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

茂助儀達之通三而、寸志高究之規矩三相当申候間、御郡代直触可

被仰付哉。

(朱書)

右僉議之通卯九月廿九日達

二九三 拓植玄迪

(十一一二)

覚

松山手永笹原村居住御郡医師並

拓植玄迪

右者別紙之趣ニ付見聞仕候處、家業心懸能出精いたし、他手永ニ懸、療治方手広被行、病家廻診等、貧福之無差別懇ニ有之、且貧民等難渋之者、謝礼届兼候分茂不少候得共、聊無頓着、格別心を用、去年来手永内村々疫疾流行ニ付而者、差入療治方出精いたし、其外重立候御普請等之節々茂罷出、彼是所柄逸稜為合ニ相成候由、其外去一ヶ年分之病人數等、本紙書面之通相聞申候。以上

卯七月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永笹原村居住御郡医師並

拓植玄迪

四十六歳

右者天保十四年養父桂淳跡御郡医師並被召出、当年迄十三ヶ年家業出精仕、当時療治懸之村々合拾式ヶ村、昨寅年しらべ前病家數八百軒余、病人千百余人、此外郡浦・錢塘數十ヶ村ニ懸手広療治出精仕、一稜諸人之為合相成申候間、御目見醫師被仰付被下候様、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政二年三月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄迪儀、達之通ニ付、医業吟味役江及問合候處、治療習熟・學業篤志之段達有之、再春館御目附見聞之趣茂同様之由、達ニ相成、科目丙科相当、御郡御目附付、御横目よりハ他手永ニ懸、療治方手広被行、病家廻診等、貧福之無差別懇ニ有之、村々疫邪流行ニ

付而も療治方差入出精いたし候由相達、御郡医師並被仰付候以來十三年ニ相成、見合茂御座候間、御目見醫師可被仰付哉。

(宋書)

<sup>〔右僉議之通卯十月朔日同十一月申渡</sup>

本道

三條 破的

右之通被仰付候。以上

安政二年十月

眞野源之助

上野十平

小山門喜

二九四 玄春

(十一一三)

覚

郡浦手永椿原村居住御惣庄屋直触醫師ニ而病死仕候渡玄甫倅

玄春

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候處、家業心懸能、小山亭壽・浅山文蔚江入門仕、都合十三ヶ年程滯塾勤學仕、引取候後、父之病家を請繼、療治方可也ニ被行、尋向等貧福之無差別懇有之、所柄為合ニ相成候由ニ而、去一ヶ年之病人數三百人余療治いたし候様子ニ承申候。以上

卯八月

吉武英右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

郡浦手永苗字御免御惣庄屋直触醫師ニ而病死仕候渡玄甫倅

玄春

三十一歳

右玄春儀、惣体家業心懸厚、幼年之比より横手水居住小山亭壽  
江入門仕、十六年より同手永浅山文蔚江直り、稽古習熟仕候ニ付、  
右本之様引取、療治方数ヶ村ニ懸ケ昼夜致奔走、難渋之小前々々  
者薬礼等茂夫々行届不申、施薬同然之療治向多御座候処、貧福之  
無差別、懇ニ致療治、遠在不弁利之所柄一廉之為合ニ相成申候ニ  
付相応ニ被召出被下候様、於私奉願候条、此段宜敷被成御參談可  
被下候。以上

安政二年五月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

玄春儀、達之通ニ付医業吟味役江問合申候処、治療習熟・学業篤  
志ニ有之、療治方相応ニ被行候由達有之、再春館御目附見聞之趣茂  
同様ニ有之、科目丙科ニ相当、御郡御目附付御横目見聞之趣茂別  
紙之通ニ而、右科目ニ而者見合茂御座候間、父同様苗字御免・御惣  
庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)

〔右僉議之通卯十一月十五日達  
本科 三注破的〕

二九五 郡浦新五左衛門・郡浦志摩助

(十一一三)

覚

当月朔日御米船室生丸、三角瀬戸口白瀬ニ乗懸及破船候段者、御

達仕置候通御座候。右場所之儀、御境目と申内、天草海岸之方手  
近キ所柄ニ而、既ニ一旦者天草船々甚外通懸り、他方之船々茂押懸  
ケ候得共、三角上御番大槻勘右衛門を始め、出役面々急速ニ乗付、  
警衛嚴重ニ行届候上、浦船出夫等之諸手配、於村々茂庄屋以下各  
別相働キ、速ニ引連罷出候ニ付、他所船ニ者老儀も積移せ不申、都  
而所柄船々ニ積請、船毎ニ上ワ乗致、濱手積卸シ之場所ニも人数を  
配り、老艘々々請取、渡之手数嚴重之手当仕候ニ付、他方之船々  
者近付得不申、則先書御届申上候通、積請高四千三百七拾俵之御  
米老儀も無紛乱取揚申候。右体不時非常之儀者、暫時之手稜ニ寄  
候而も、他方懸御手数筋共、成行後道御損失ニも至可申筋ニ御座  
候処、別紙名前之面々いづれも差入り、各別出精仕、諸手数急速  
ニ行届候所より、煩敷儀も無之、数千俵之御米散乱不仕段者、先者  
いづれも各別働之規模ニ御座候間、乍恐御別段之御賞美被仰付被  
下候様奉願候。左候ハ、御境目海岸を請候所柄以来、右様之節心  
得方ニも相成不申筋ニ御座候間、何分宜ク被成御參談可被下候。  
此段覚書を以申上候。以上

安政二年十月

郡浦新五左衛門

上妻半右衛門殿

○付札

本紙之通相達、余計之俵数ニ御座候処、老儀も無紛乱取揚、いつ  
れ茂出精相働儀、相達茂無御座候而、相応々々御賞美被仰付被下  
度、於私も奉願候。左候ハ、以往之励も相成可申と奉存候而、  
此段宜敷被成御參談可被下候。以上

十月十六日

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

郡浦手永御惣庄屋

郡浦新五左衛門

同人倅

郡浦志摩助

右者当月朔日、御米船宝生丸三角瀬戸口白瀬ニ乗懸ケ破船江仕候ニ付而者、此間より追々御達仕置候通ニ御座候処、新五左衛門父子交代ニ而始末相詰、厚心配仕候段、別紙之通相達申候間、何卒相応々々御賞美被仰付被下候様奉願候。則別紙内意書相添御達仕候間、此段宜敷被成御參談可被下候。以上

安政二年十月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

郡浦手永御惣庄屋郡浦新五左衛門倅

郡浦志摩助

右者当月朔日鏡御藏納御米船宝生丸、三角瀬戸口白瀬ニ乗懸ケ破船いたし候儀ニ付而者、此間より追々御達仕置候通ニ御座候処、余計之俵数紛失不仕様取揚候段者、志摩助父子交代ニ而始末相詰、厚心配仕候処より之儀と奉存候間、何卒相応ニ御賞美被仰付被下候様奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

安政二年十月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

御内意之覚

今度御手船宝生丸之儀、鏡・川尻御藏米積受、当月朔日郡浦手永戸馳村懸、於白瀬及難船候付、私儀右支配として被差越候間、去ル二日夕、宿本出立仕、式町川口より船路罷越、曉七ッ比難船場江着仕候。然処、御米揚場之儀者際崎村懸中ノ田と申所ニ而、濡米等困方ニ相成居申候。其次第者干米濡米困場濱手之左右ニ篝火を焚、多人数不寝番を附、山手之中央ニ出役元小屋出来、御紋附太丸小丸数多灯し、沖手者数艘之番船を以取切、其嚴重之事共御座候。将又、干米中濡小濡分者右出役之小屋ニ引付、一と所々々山積いたし、床地者藁古苦等充分敷込、何れも苦葺ニ而丈夫ニ困方之上、有折明松を灯見繕ニ相成、聊無油断行届候取計ニ御座候。畢竟天草境ニ而、朔日二日両日共胡乱之船茂数多罷越し、加勢いたし可申など申聞候由之処、三角上御番大槻勘右衛門方父子詰切、一切加勢ニ不及、若近辺ニ罷在候ハ、船者、悉地方江引揚候などと、敷敷差図有之、空炮など打鳴シ締方行届候付、其後一切寄得不申由御座候。翌三日之朝以後者、私儀茂日々罷出、船中雜具取揚相濟候迄、見聞仕候得共、胡乱体之船見受不申、右之通ニ付、御米茂御積高壹俵茂流失不仕、偏ニ大槻方并御惣庄屋、郡浦新五左衛門、諸事之手賦宜敷、番衛等嚴重ニ行届候処より、無異儀相濟申候。且沖手より千米以下運送茂積高之送を添、在御家人等壹艘々々ニ才料を付、浜手江揚方之節送前相改候付、間違茂無之、畢竟大槻方父子即刻より出役を以、前段之通差図有之、新五左衛門父子者出夫・積船・番衛・御家人等之手当者素り、手附会所役人者一旦惣出程ニ而、無残所心配有之候ニ付、聊茂申分無之、干米茂千八百俵余揚方ニ相成申候。勿論御米之儀ニ付、当前之儀ニ者可有御座候

得共、先役共申繼ニ茂如断諸事行届候由承及不申、於難船場者、  
自他共心得違之者、問々出来いたし候得共、聊左様之心遣度無之  
相濟申候ニ付、乍恐此節之儀、御別段を以、大槻方父子を始、御  
惣庄屋并会所小頭、此節始未受込、昼夜詰切之面々以下共、相応  
ニ被賞候様有御座度奉存候。左候ハ、自然之節弥以指揮行届、  
屹御弁利相成可申と奉存候。着到帳相添、右見聞之趣不聞御内意  
仕候。此段被成御達可被下候。以上

十月

矢野勝左衛門

安政二年

宝生丸難船場出役着到帳

卯十月 矢野勝左衛門

十月朔日より八月迄之内

三角浦上御番

一日数六日

大槻勘右衛門

内一日 昼夜詰切

同三日

郡浦右同

同 一日

郡浦平格

同日

同 一日

郡浦新五左衛門

十月朔日より八日迄之内

新五左衛門倅

同 六日

郡浦志摩助

内一日 昼夜詰切

右同

三角浦下御番人

同 六日

河口藤十郎

十月朔日より三日迄

戸馳浦下御番人

一日数三日

梅田弥兵衛

同 四月五日

同 二日

同 朔日より四日迄

同 四日

但 昼夜詰切

十月朔日より四日迄

同 十日

但 右同断、此節始末、根ニ成相勤ニ付各別心配仕候。

右同

同 十日

但 右同断、始末相詰各別心配仕候。

右同 五日迄

同 五日

但 右同断

十月朔日より十日迄

同 十日

但 右同断

右同

右同断

同 十日

有働新右衛門

但 右同断

右同 五日迄

御郡筒ニ而右同断

同 五日

佃 武右衛門

但 右同断

十月朔日より十日迄

御郡筒ニ而郡浦会所詰

一日数十日

準太郎



但右同断

十月朔日より三日迄

御郡代直触

御郡代直触江嶋茂左衛門孫

一日数二日

岡村栄之允

同日より五日迄

右同

同日

右同

江嶋増太郎

一同 一日

永松忠兵衛

但右同断

右同

右同

右同

同日より三日迄

右同

一同 一日

田中市右衛門

一同 三日

又 八

同日

右同

御郡代直触三而波多村庄屋

一同 一日

有働伊右衛門

同日より十日迄

岡村弥次兵衛

同日より三日迄

御郡筒

一同 十日

岡村弥次兵衛

一同 二日

秋森喜兵衛

内二日 昼夜詰切

右同太田尾村庄屋

十月朔日より十日迄

右同

十月二日より四日迄之内

杉浦平右衛門

一同 十日

岩尾十兵衛

一同 二日

右同戸馳村庄屋

右同

右同

同日より三日迄

佐藤又左衛門

一同 十日

中嶋常八

一同 三日

三角浦村庄屋

内四日 昼夜詰切

右同

同日より十日迄

忠藏

右同六日迄之内

右同

一同 十日

老領卷正

一同 五日

岡崎勘兵衛

内三日 昼夜詰切

佐藤保

同日より六日迄之内

右同

同日より三日迄

佐藤保

一同 三日

宮本九右衛門

一同 三日

右同

一同 三日

右同

右同

右同

一同 二日

右同

一同 三日

御郡代直触

一同 一日

右同

同日より三日迄

松浦農平

十月二日

佐藤新左衛門

一同 二日

御郡筒

一日数一日

御郡筒

内一日 昼夜詰切

阿川新平

阿川新平

阿川新平

同日  
 一同 一日  
 同日  
 一同 一日  
 同日より五日迄之内  
 一同 二日  
 同日より三日迄之内  
 一同 二日  
 十月朔日より九日迄  
 一同 九日  
 内一日 昼夜詰切  
 同日より九日迄  
 一同 九日  
 同日より三日迄  
 一同 三日  
 同日より九日迄之内  
 一同 七日  
 右同  
 一同 七日  
 同日より二日迄  
 一同 二日  
 同日より九日迄之内  
 一同 六日  
 同日より五日迄之内  
 一同 四日

右同  
 尾崎為次  
 右同  
 尾崎 東  
 右同  
 岡村善左衛門  
 御郡代直触佐藤又左衛門倅  
 佐藤又喜  
 波多村津横目  
 八左衛門  
 三角浦村右同  
 久次  
 戸馳村右同  
 萬助  
 三角浦村頭百姓  
 徳左衛門  
 右同  
 吟左衛門  
 同村帳書  
 門次  
 波多村頭百姓  
 徳助  
 同村右同  
 良作

十月二日より五日迄之内  
 一日数四日  
 右同  
 一同 三日  
 同朔日より三日迄  
 一同 三日  
 右同  
 一同 三日  
 右同二日より三日迄  
 一同 二日完  
 右同  
 一同 二日  
 一同 一日  
 一同 一日

波多村頭百姓  
 民助  
 右同  
 大作  
 戸馳村右同  
 八兵衛  
 右同  
 眞作  
 右同  
 久次郎  
 茂助  
 大田尾村右同  
 利平次  
 郡浦村右同  
 作兵衛  
 右者宝生丸難船場出役着到所、右之通御座候。尤、数日昼夜詰切之面々者、各別骨折候儀者相違茂無御座候間、御賞美筋宜敷被成御達可被下候。以上  
 安政二年十月  
 矢野勝左衛門  
 御米船破船ニ付、出役出精之次第左之通  
 御郡代衆御直触郡浦村居住会所下代  
 ○山川嘉兵衛  
 御郡筒郡浦村居住会所詰  
 ○岡村吉之允  
 右同同村居住会所小頭

○元松次郎右衛門

右同里浦村居住会所小頭

○高濱又之允

御郡代衆御直触手場村居住会所小頭

○河野佐兵衛

御郡代衆御直触郡浦村居住会所小頭

○有働新右衛門

御郡筒栗崎村居住会所小頭

○佃 武右衛門

御郡代衆御直触江嶋茂左衛門孫手場村居住会所小頭代

○江嶋増太郎

長崎村居住会所小頭

○準太郎

右者急速馳付、昼夜詰切諸手数一切引請、始末出精仕候。

御郡代衆御直触戸馳村庄屋

○佐藤又左衛門

御郡代衆御直触太田尾村庄屋

○松浦平右衛門

御郡代衆御直触波多村庄屋

○岡村弥次兵衛

三角浦村庄屋

○忠 藏

右者浦船井夫方召連、急速ニ罷出、御米取揚方等、始末各別出精仕候。

積 三左衛門

右者破舟之場所江出勤仕、御米取扱諸手数見聞仕候。

一領卷正戸馳村居住

○佐藤 保

右同同村居住

○佐田惣平

御郡代衆御直触同村居住

○松浦農平

右同郡浦村居住

○永松忠兵衛

右同同村居住

○田中市右衛門

右同波多村居住

○岡村栄之允

右同佐藤又左衛門倅

○佐藤又喜

御郡筒三角浦村居住

○中嶋常八

右同波多村居住

○岡崎勘兵衛

右同同村居住

○岩尾十兵衛

右同同村居住

○藤木四郎八

右同同村居住

右同戸馳村居住

○秋森喜兵衛

右同同村居住

○佐藤新左衛門

御郡筒戸馳村居住

○阿川新平

右同同村居住

○尾崎 東

右同波多村居住

○尾崎為次

右同同村居住

○宮本九右衛門

右考、御米番衛、積船上ヲ乗等始末出精仕候。

村役人共

○岡村善左衛門

波多村津横目

○八左衛門

三角浦村右同

○久 次

同村頭百姓

○徳左衛門

同村右同

○門 次

波多村頭百姓

○桂 助

同村右同

○良 作

同村右同

○大 作

同村右同

○民 助

戸馳頭百姓（村頭カ）

○又 八

同村右同

○眞 作

同村右同

○八兵衛

戸馳村頭百姓

○久次郎

同村右同

○茂 助

同村津横目

○萬 助

大田尾村頭百姓

○利平次

郡浦村頭百姓

○作兵衛

右考夫仕、其外船々才料、諸品手配等心配仕候。

右之通ニ御座候間、宜敷被仰付可被下候。以上

安政二年十月

郡浦新五左衛門印

上妻半右衛門殿

二九六 河口藤十郎、梅田弥兵衛

(十一一三)

覚

三角浦瀬戸口下御番

河口藤十郎

戸馳右同

梅田弥兵衛

右考今度宝生丸破船ニ付而考、上御番人ニ差添罷出、厚ク心配仕候。此段宜敷被成御達可被下候。以上

安政二年十月

郡浦新五左衛門印

上妻半右衛門殿

覚

御手船宝生丸、川尻鏡御蔵米積受、当十月朔日致出帆候処、郡浦手永戸馳村懸りニ而致難船、右支配として矢野勝左衛門被差越、

濡米入札私等之成行ハ、別途相達候通ニ御座候処、右難船ニ付而

廿八日達

通

ハ、大槻助右衛門父子并郡浦新五左衛門父子始末厚心配有之、其

新五左衛門倅

外出役之向とも数日詰切等ニ而、御米揚方を始、諸事無残ル処手

一 金子百疋

郡浦志摩助

配り行届候間、相応御賞美被仰付度段、勝左衛門より委細別紙之

三角浦下御番人

通内意達遣、出役名前ハ別冊着到帳之通ニ御座候。然処天保元年

一 銀三両完

河口藤十郎

定借下カヒ毘沙門丸晒沖ニ而難船之節、御惣庄屋并在御家人駆付、数

戸馳浦右同

梅田弥兵衛

日詰切致心配候付、文政八年八代御普請方、右船及難船候節之見

在勤中諸役人段唐物拔荷改方御横目  
積 三左衛門

合を以、御惣庄屋・在御家人者御賞美被仰付度段相達、其余村庄

鶴崎御作事所江被召仕候大工頭廻又之允と申者之儀ニ付、御大工

屋上荷小頭被下候ハ、出役候数ニ応し、一日式百文宛為被渡下儀

棟梁より別紙之通相達可申候。職業人柄等之儀、追々見聞候処、

ニ有之、此節ハ在御家人・庄屋・会所役人已下打込、余計之人數

書面之通相達無御座候。職業巧者ニ而、小前之者引廻手全出精仕

ニ而、一々御取分も難相成可有御座哉ニ付、在御家人已下江ハ都而

候間、追々之御見合を以、願之通被仰付度、於私共奉願候。尤右

一日老升宛之飯米御渡方之儀、別途相達候通ニ御座候間、着到帳

之趣者、此許御郡代江茂及懸合候処、存寄茂無御座候。此段宜敷被

之内大槻勘右衛門以下、積三左衛門迄ハ勝左衛門達出之通、御賞

為成御參談可被下候。以上

美被仰付度、尤郡浦平格并下御番兩人、積三左衛門儀ハ出役ニ相

十一月  
小崎太郎左衛門  
貫 角右衛門

成候迄之儀と相聞候得共、大槻勘右衛門父子、郡浦新五左衛門父

子ハ、前段之通、各別心配有之候趣ニ御座候間、宣敷被成御參談

可被下候。以上

御勘定頭

御作事方  
御奉行衆中

御手船宝生丸戸馳村懸ニ而難船之節、三角上御番并郡浦御惣庄屋

(安政三年)

以下出役、厚心配之處より御米揚方御届候付被賞候儀、本文并別

二九七 岡村庄太郎

紙達之通ニ御座候処、在御家人以下江著大勢ニ付、一日一升完之飯

(二〇一―一四)

米御勘定所しらへニ而被渡下候付、被賞ニ及不申、右付札之面ニ迄、

(朱書) 御賞美被仰付度由、書面之通ニ而、大槻勘右衛門より

[本行發議] 郡浦新五左衛門迄者、機密間しらへニ相成候間、左之

覚

之通卯十二月

宇土町居住、土席浪人格ニ而病死仕候岡村伊八郎養子

岡村庄太郎

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、篤実成人物ニ而、武芸稽古いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、且父代宇土町間懸寸志上納之内、難渋為取救差出候儀、差出同年十一月土席浪人格被仰付置候処、当七月病死仕候。同人存生之内  
一錢 貳百拾九匁

但天保十年二九御手伝ニ付而、宇土町間懸寸志上納之内、難渋為取救差出置候。

右岡村家者代々慈心深、家内親類茂睦敷、召仕之男女ニ至迄厚心を用、世上ニ茂慈悲殿と唱候程之家筋ニ而、右庄太郎儀、一体篤実ニ有之、家風を守、兼々所柄為合ニ相成申候而、養父跡諸役人段ニ被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政二年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

庄太郎儀、土席浪人格之跡目究之通、諸役人段可被召出哉。

(朱書)  
〔右僉議之通 辰三月十八日申渡〕

二九八 慶次・格次

(二〇一―一四)

覚

郡浦手永下網田村居住御惣庄屋直触

慶次

右同人養子

格次

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、慶次儀、近来病身ニ罷成、御惣庄屋直触難相勤、御断願出候由、無余儀趣ニ相聞、養子格次儀、乙名敷生立ニ而、寸志錢差出置候次第、本紙書面之通相聞申候。以上

辰四月

河野子次右衛門

渡邊平兵衛

御内意之覚

郡浦手永下網田村居住御惣庄屋直触慶次養子

格次

一錢四貫目

右者去ル嘉永五年、廻江手永守富在成立寸志差上申度段奉願候処、願之通被召上候ニ付、其砌夫々上納相済申候処、慶次儀、病身ニ有之候間、追而養子相統之節、進席相統被仰付被下候様奉願置候通ニ付、此節御郡代直触ニ進席相統被仰付被下候様奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

安政二年十月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉議

慶次儀、病身ニ罷成、難相勤由、願之通無苗御惣庄屋直触可被成御免哉。格次儀、寸志高究之規矩ニ相当申候間、御郡代直触可被

仰付哉。

〔朱世〕  
〔右倉藏之通辰七月廿五日達〕

二九九 北野安右衛門、喜助

(一〇一—一四)

覺

松山手永馬瀬村居住北野安右衛門列三人、別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

本席卷領一疋格ニ而宇土人馬所横目并御制度格別見抄

北野安右衛門

六十九歳

右者数々之役儀数十年出精相勤、宇土人馬所之儀、近年薩州御家中上下を初、自他之人馬立茂多御座候処、馱所江必多度相詰、諸事無間拔取計、人馬雇錢等張出不申様、惣代以下江茂申談行届、為合ニ相成候由。

地士ニ而東松崎村庄屋

竹下惠吉

七十九歳

右者役前心懸能出精仕、老体ニ罷成候得共、一体壯健ニ而、村方之世話筋茂行届、諸御用向茂無間拔取計候由ニ而、相替候儀者本紙ニ付紙用置候通ニ御座候。

無苗御惣庄屋直触ニ而馬瀬村庄屋

喜助

七十五歳

右者役前心懸能出精仕、馬瀬村之儀田一式之所柄ニ而、近年穂枯

等之災害ニ而零落茂相増候ニ付、種々之心配茂多御座候処、諸事世話筋茂行届、一ヶ村数十年勤続ニ付、村方茂帰服仕居候由。

右之通ニ而、三人共ニ勤年数等之儀、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

辰四月

渡邊平兵衛印

御内意之覺

松山手永本席卷領一疋格ニ而、宇土人馬所横目并御制度格別見抄

〔朱世〕  
〔辰十二月十四日申渡〕

北野安右衛門

右者御郡代直触北野平兵衛と為申者之養子ニ而、平兵衛死後、文化四年十一月松山手永御家人少之所柄ニ付、地士ニ被召出、同年十二月鴻村鳥乱者見抄申付、天保二年迄廿五ヶ年相勤申候。文政五年二月馬瀬村庄屋役申付、同七年依願差免、同六年七月御制度格別見抄申付、同七年津口陸口拔米見抄申付、同年寺社堂宇改方受込申付、当年迄三十三ヶ年相勤申候。同十年一代居住并無願坊主取締申付、同十二年十二月立岡堤堀添出精いたし、且杉嶋新川堀替ニ付而出精いたし候旨ニ而、御銀三両被下置、同十三年牛馬売買取締別段見聞申付、当年迄廿七年相勤申候。同年六月東目養水井手之凌方等厚心いたし候旨ニ而、御銀壹両被下置候。天保二年八月宇土町人馬所横目・同町見抄兼勤申付、当年迄廿六ヶ年相勤申候。同三年六月人馬所横目役、在勤中卷領一疋格ニ被仰付候。同五年五月松合村救浦新地御築立ニ付而、夫仕等骨を折候段御間御聞届之御達御座候。同二年非常之洪水已後、自他手永追々御普請ニ付而致出精候旨ニ而、天保六年三月御銀貳両被下置候。同十二年十二月下益城・宇土於海辺新地御築立ニ付、余計之人馬立無差

支心配出精いたし候旨ニ而、御銀三兩被下置候。弘化四年十月役方多年心懸能出精いたし候旨ニ而、壹領一正格本席被仰付候。嘉永元年九月北浦新地御築立ニ付而、受込之稜々出精いたし候旨ニ而、御銀貳兩被下置候。宇土駅横目并同町見杓兼勤申付置候処ニ而者、必多度駅所江詰方仕、町方を茂昼夜打廻諸事取締、天保五年宇土駅改革ニ付而者、稜々精密被碎、違乱無之候様惣代以下申談筋行届、近十年南目数々新地御築立、且昔北方薪御取出を初、紙楮・塩漬・白砂糖製法等ニ付而者、頻々御役人出在人馬迄茂相増候処、昼夜張詰程ニ而精勤仕、人馬雇立錢等茂格別張出不申、諸事無間抜相調、於所柄も逸稜之為合ニ相成申候。去ル文化四年地士被召出、当年迄五十ヶ年出精相勤、弘化四年壹領一正格本席ニ被仰付候。以来十ヶ年ニ罷成申候ニ付、諸役人段ニ進席被仰付被下候様。

同手永地士柏原村庄屋

竹下惠吉

右惠吉儀、寛政元年九月会所見習ニ罷出、同六年小頭申付、文化三年正月会所詰ニ繰上、井樋方小頭兼帯申付、同七年十二月出銀方受込申付、同九年五月馬瀬村庄屋兼帯申付、文政二年馬場村庄屋差免下代申付、文政四年宇土駅所惣代ニ転役申付、文政九年新町庄屋転役申付、以後所々取替申付、当年迄六十八年精勤仕候。寛政十二年十二月改方心掛能、諸御用無間抜取計出精相勤候ニ付、鳥目七百文被下置候。文化元年八月笹原村手永開御築立ニ付而、出精いたし候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。同六年六月同村七島湯之内、新地御築立ニ付、始末出精仕候ニ付、先役より賞美取計申候。同年九月役方多年手全相勤、会所向諸御用筋厚心を用、數百艘之井樋手入絶不申処、余計之入目錢受払手堅取計、格別出精仕

候ニ付、礼服・小脇差御免被仰付候。大口村手永開御築立ニ付精致候ニ付、文化十三年十一月鳥目壹貫文被下置候。文化十三年本願寺宗意しらへニ付、川尻表を數日相詰出精仕候ニ付、鳥目五百文被下置候。同年春以来御取立方、且新堤築立、其外御囲初藏建方等ニ付、數日之間厚申詰仕出精仕候ニ付、同十四年正月鳥目七百文被下置候。七百町新地御築立潮留井水理御普請等ニ付而、宇土駅所人馬立等取計出精仕候ニ付、文政八年十二月、鳥目八百文被下置候。文政十二年十二月役方數十年致出精、立岡堤掘添之節出在之御役人、人馬繼等格別心配仕候ニ付、無苗御惣庄屋直触被仰付候。天保五年五月役數十年心懸能致出精候ニ付、苗字御免御惣庄屋被仰付候。天保九年御巡見衆通行ニ付而、御用筋相勤候段、御間御聞届之御達御座候。天保十一年七月会所見習以来役方五十年余、心掛能致出精候ニ付、御郡代直触被仰付候。同十二年十二月下益城・宇土於海辺、御築立新地潮留井塘手破損等之節、度々出夫仕り方・土俵運送等無間抜心配いたし候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。弘化四年十月会所見習以来五十余年、心掛能手全ニ相勤、諸事世話筋行届、一体心得方茂宜候ニ付、地士被仰付候。嘉永元年十月北浦新地御築立ニ付、潮留之節、夫仕等出精仕、且卯秋大風破損御普請ニ付而茂、心配仕候ニ付、鳥目七百文被下置候。右之通会所見習以来、当年迄役々六十八年、無懈怠相勤、最早七十九歳之老体ニ御座候得共、一体壯健ニ而不相替精勤仕、村方取締能、諸御用向無間抜、地士ニ被仰付候以来十ヶ年ニ相成、先ッ者稀成人柄ニ御座候。年功旁被対、相应進席被仰付被下候様。

同手永無苗御惣庄屋直觸馬瀬村庄屋

喜助



右喜助儀、文政五年庄屋当分申付、同七年本役申付、当年迄三十  
 五ヶ年無懈怠相勤申候。文化元年御才覚寸志差出候ニ付、礼服・  
 小脇差御免被仰付候。文政十二年立岡堤堀添之節請込之稜出精、  
 且杉嶋新川堀替ニ付而茂出精仕候ニ付、鳥目老貫文被下置候。天保  
 五年松合村度々出火跡家建之節、厚心配いたし、救ノ浦井下り松  
 新地築立ニ付而致出精候ニ付、鳥目老貫文被下置候。同十二年下  
 益城・宇土於海辺新地御築立ニ付而、潮留之節出夫仕り方・土儀  
 運送等無間拔致出精候ニ付、鳥目老貫文被下置候。弘化元年十月  
 役方多年致出精、馬瀬村零落ニ付而着心配強候処、世話筋行届候ニ  
 付、無苗御惣庄屋直触被仰付候。嘉永元年北浦新地御築立ニ付而、  
 明儀類・船等心配いたし候ニ付、鳥目老貫文被下置候。馬瀬村者  
 田一式之片穂所、極々之零落所ニ而、不謂程々之心配多所ニ御座  
 候処、万端之世話筋手厚行届候ニ付而考村方帰服仕、最早七十五  
 歳之老体ニ御座候得共、不相替壯健ニ而精勤仕、文政五年庄屋当  
 分より当年迄庄屋三十五年出精仕、無苗御惣庄屋直触被仰付候以  
 来十三年罷成申候。年功旁被对、苗字御免御惣庄屋直触被仰付被  
 下候様。

安政三年三月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

安右衛門儀、惣年数五十年、人馬所横目二十六年、先賞より十年

ニ相成、見合茂御座候間、諸役人段可被仰付哉。惠吉儀、会所見  
 習以来六十八年、下代庄屋等四十五年、先賞地土被仰付候より十  
 年ニ相成、相応進席被仰付候様達之通ニ而村庄屋一領一疋進席之  
 階級者無御座候得共、当年七十九歳ニ相成、先賞より茂十ヶ年ニ相  
 成、格別高年之者者見合茂御座候間、右年旁極老之訳旁を以、一  
 領一疋可被仰付哉。喜助儀、達之通ニ而、庄屋当分以来三十五年、  
 先賞無苗御惣庄屋直触被仰付候より十二年ニ相成、見合茂御座候  
 間、苗字可被成御免哉。

〔朱書〕  
 〔右僉儀之通、辰十一月十五日達〕

三〇〇 積 三左衛門

(二〇一―四)

郡浦手・永唐物技荷改方御横目在勤中諸役人段  
 并御郡代手附横目・新地見拟兼帯

積 三左衛門

六十歳

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、役前心配能出精仕、所々新地御築  
 立等御用懸度被仰付、度々被賞茂有之候由ニ而、勤年数之儀、本紙  
 書面之通相聞申候。以上

辰四月

渡邊平兵衛印

御内意之覚

在勤中諸役人段郡浦手永唐物技荷改方御横  
 目・津口・陸口見拟・御郡代手附横目・新地  
 見拟兼帯

積 三左衛門

右者文政九年十二月文武芸心懸厚、数々相伝仕、且行状宜旨<sup>二</sup>而、御郡代直触被仰付、文政十年声北郡御山支配役被仰付、天保四年御役御免、年数七ヶ年相勤申候、同七年津方見拟申付、同十一年御郡代手附横目当分申付、同年松橋・亀崎新地見拟兼勤申付、同十二年下益城・宇土催合新地御築立<sup>三</sup>付、出精仕候旨<sup>二</sup>而、作紋麻上下一具被下置、同十三年唐物拔荷改方御横目被仰付、在勤中諸役人被仰付、津口・陸口見拟并御郡代手附横目兼帯申付、同十五年七月郡浦・際崎・手場・塩屋浦新地御築立<sup>三</sup>付、追々相詰出精仕候旨<sup>二</sup>而、金子百疋被下置、嘉永元年八月北浦新地御築立<sup>三</sup>付而出精仕、且去ル卯秋、大風<sup>二</sup>而海辺塘手破損<sup>三</sup>付、数ヶ所之潮留・井樋御普請等、始末心配仕候旨<sup>二</sup>而、作紋麻上下一具被下置、

安政元年十月鯨・沼山津水理御普請骨を折候旨<sup>二</sup>而、金子貳百疋被下置、同二年十一月下益城・八代海辺於砂川尻新地御築立<sup>三</sup>付、石并竹木取出、且御普請筋格別出精仕候旨<sup>二</sup>而、作紋麻上下一具并金子百疋被下置候。御山支配七ヶ年、津口見拟四ヶ年、当役稜々兼勤十七ヶ年、都合貳拾八ヶ年心掛厚格別精勤仕候<sup>三</sup>付、老領一疋本席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。比段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政三年四月  
御郡方

岩崎物部

御奉行衆中

三左衛門儀、達之通<sup>二</sup>而御山支配役以来二十八之内、御山支配役七年、当役十三年、都合二十年<sup>二</sup>相成申候。御郡代直触持席之者当役者一十年<sup>二</sup>而、本席一領一疋被仰付、究御山支配役者持席<sup>二</sup>

不拘、二十四年目直<sup>三</sup>諸役人段本席被仰付、究<sup>二</sup>而当役より者上等之役方<sup>二</sup>御座候处、右御山支配役之年数を加二十年<sup>二</sup>相成申候間、本席一領一疋可被仰付哉。

(朱書)  
右僉議之通長十一月十五日達

三〇一 陣内信次、稻原覚左衛門 他

(二〇一―一四)

覚

郡浦手永一領一疋陣内信次列六人、別紙之趣<sup>二</sup>付見聞仕候处、右之通御座候。

下網田村居住

陣内信次

七十五歳

右者御郡並之御奉公出精仕候由。

栗崎村居住地士<sup>二</sup>而郡浦会所根拟小頭

稻原覚左衛門

五十五歳

右者自他御普請、且新堤掘方之節々罷出、出精仕候由。

御郡代直触<sup>二</sup>而亀尾村庄屋

森内甚兵衛

八十歳

右者老年<sup>二</sup>罷成候得共、一体壮健<sup>二</sup>而、役前心懸能、庄屋役之儀数ヶ村<sup>二</sup>転所申付<sup>二</sup>相成候处、何方茂零落所成立筋等、心を用、精勤仕、当時受持村方世話筋茂行届候由。

御郡代直触ニ而手場村津横目

江嶋茂左衛門

六十六歳

右者役前心懸能出精仕、都合十人之家内一和ニ而精農仕、心得方茂宜由。

栗崎村居住地士稻原覚左衛門養父ニ而同村庄屋

稻原久左衛門

七十五歳

右者役前心懸能、村方之世話筋茂行届、身を以先立精農相信候ニ付、村方近年成立候由。

新開村庄屋ニ而手永横目兼帯

次兵衛

六十歳

右者役前心懸能、村方之世話筋茂行届候由。

右之通ニ而、六人共ニ勤年数之儀、本紙書面之通ニ而、覚左衛門・

甚兵衛儀者見習以來之年数之様子ニ承申候。以上

辰四月

渡辺平兵衛

御内意之覚

郡浦手永覚領一正

陣内信次

右先祖者、加藤家之浪人ニ而、寛永島原御陣之節御供奉願、御凱陣後覚領一正被召出、其後代々相統被仰付来候家筋ニ御座候。右信次儀、享和二年親跡覚領一正相統被仰付、当年迄五十五ヶ年御郡並之御奉公并烏乱者見拟等、無懈怠相勤居候間、被賞、相応之

御品被為拝領被下候様。

同手永地士ニ而根拟小頭

稻原覚左衛門

右者、追々寸志差上候ニ付、地士被仰付置、文化十一年より当年迄四十三ヶ年会所役相勤居申候。右年数之内天保九年より根拟相勤、当年迄十九ヶ年、自他御普請之節々、無懈怠出精仕、養水之仕法立等心掛厚、新堤を茂数ヶ所出来仕、稜々功績も有之候ニ付被賞、作紋麻上下一具被為拝領被下候様。

同手永御郡代直触ニ而龜尾村庄屋

森内甚兵衛

右者、寛政三年より文化二年迄十五ヶ年会所役相勤、文化三年より同十四年迄十二ヶ年網田村庄屋相勤文政元年より天保三年迄十五ヶ年宇土所惣代相勤、同四年伊津野村庄屋申付候後、所々村替申付、惣年数六十六ヶ年之内、会所役十五ヶ年、庄屋三十六ヶ年、馱所惣代十五ヶ年相勤申候。文化八年苗字御免御惣庄屋直触被仰付、天保十一年役方五十年出精仕候ニ付、御郡代直触被仰付、弘化四年役方五十年余、精勤仕候ニ付、作紋麻上下一具被下置候。惣体生得篤実成者ニ而、役前心掛厚相勤、第一庄屋之儀者数ヶ村ニ転候処、いつかた茂難渋村ニ而、勸農相信成立筋を茂手厚相勤申候。当年八十歳ニ相成候得供、壮健ニ而、諸御用筋無懈怠、六十六ヶ年精勤仕居、先ッ者拔群之勤勞ニ付被賞、地士進席被仰付被下候様。

同手永御郡代直触ニ而手場村津横目

江嶋茂左衛門

右者文化四年津横目代役申付、同十年親跡津横目申付、代役六ヶ

年、本役四十四ヶ年、当年迄惣年数五十年精勤仕居申候。文政二年村々難洪ニ付鳥目差出、且借財捨方仕候ニ付、小脇差・傘御免被仰付、同十一年民力強寸志錢壹貫目差上候ニ付、礼服御免被仰付、天保元年至貧乏者共江、粮物配当仕候ニ付御聞御聞届之御達御座候。同十年玉薬料貳貫五百目差上候ニ付、御郡筒被召抱候。文政十二年關東川々御普請御用寸志壹貫五百目差上候ニ付、御郡代直触被仰付候、惣体極々手全成者ニ而、役前厳格ニ相勤、精農ニ而家内睦敷、心得方宜、村方手本とも罷成候程之者ニ御座候間、相応之御賞美被仰付被下候様。

同手永地土稻原覚左衛門養父栗崎村庄屋

稻原久左衛門

右者、文化十二年より村役相勤、文政三年庄屋申付、村役五ヶ年庄屋三十七ヶ年、都合四十二ヶ年相勤申候。生質篤実成者ニ而、極々之精農ニ而、村中相倡候ニ付、以前者零落所ニ而御座候処、追々勸農ニ基、近郷手本とも相成候程之精農ニ罷成、当時手水ニ而者上段程之村方ニ相成申候。畢竟身を以先立、相倡候処より右之通成立、逸稜之勤功ニ御座候間、被賞作紋麻上下一具被為拝領被下候様。

同手永新開村庄屋手永横目兼帯

次兵衛

右者文政四年より村役相勤、同十年下新開村庄屋当分申付相勤居候処、病氣ニ付、同十二年庄屋差免、天保三年城塚村庄屋申付、以後村替を茂申付、村役六ヶ年庄屋二十八ヶ年、内十六ヶ年者手永横目兼帯を茂申付、惣年数三十四ヶ年相勤、手全成生質ニ而役前手堅、村方取扱筋心を用精勤仕候ニ付、無苗御物庄屋直触被仰

付被下候様。

右之通何茂格別出精相勤候間、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政三年四月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

信次儀、達之通ニ而、御郡並之御奉公五十五年ニ相成、究之年数越居申候間、金子貳百疋可被下置哉。覚右衛門儀右同断、会所見習以来四十二年、小頭より三十六年、根柢より十九年、寸志ニ而御郡代直触より二十五年ニ相成、猶寸志ニ而地土被仰付置、左之見合より者小頭以来之年数茂多ク、是迄年功ニ付而之御賞美茂無御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。

鶴崎高田会所下代御郡代直触

平井伊右衛門

嘉永二年十月

右者、会所見習以来四十四年之内、小頭より二十四年、下代十一年、父跡御郡代直触より十年、功業茂有之候間、作紋麻上下一具被下置候。甚兵衛儀右同断。小頭以来六十六年之内、馱所惣代十五年、庄屋三十六年、先賞作紋麻上下被下置候より九年ニ相成、究之年数越居申候間、地土可被仰付哉。茂左衛門儀右同断。親代役を省、津横目四十四年ニ相成、四十年以上礼服御免之究ニ而四ヶ年越居、寸志ニ而御郡代直触被仰付置候間、鳥目壹貫文可被下置哉。久左衛門儀右同断。村役を省、庄屋三十七年ニ相成、初より

勤続ニ付礼服御免之場ニ至居申候処、地土之父ニ付、右御賞美者難被仰付、且生質篤実精農ニ而、身を以先立、村中相倡候間、追々精農江相成、当時手永に而者、上段程之村方ニ相成候由、委細書面之通ニ付、功業旁見合及御座候間、作紋麻上下一具可被下置哉。次兵衛儀右同断。村役を省、庄屋当分三年、本役二十五年之内、手永横目兼帯十六年ニ相成、究之年数ニ至居申候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱世)  
〔右僉儀之通 辰十一月十五日達〕

### 三〇二 江嶋増太郎

(一〇一—一四)

御内意之覚

郡浦手永御郡代直触ニ而病死仕候江嶋茂左衛門養子

江嶋増太郎

当辰二十三歳

右増太郎父茂左衛門儀、文政十二年玉薬料貳貫五百目差上候ニ付、御郡筒被召抱、同十二年関東筋川々御普請御手伝御用ニ付、寸志銭壹貫五百目差上候ニ付、御郡代直触被仰付置候。当年十月民力強寸志貳貫目差上候ニ付、継目之功ニ被立下候段、御達ニ相成申候。茂左衛門儀、文政十一年より二十九ヶ年相勤居候処、当六月病死仕候。右養子増太郎儀、生質手全成者ニ而、往々御用ニ相立可申見込ニも御座候ニ付、父同様御郡代直触被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候、

以上

安政三年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

増太郎儀、達之通ニ而、下地御郡筒相続之家筋之由、付紙之通ニ而、継目寸志高見合之規矩ニ相当申候間、父同様御郡代直触可被仰付哉。

(朱世)  
〔僉議之通 辰十一月十九日達〕

覚

郡浦手永手場村居住、御郡代直触ニ而病死仕候江嶋茂左衛門養子

江嶋増太郎

右者親跡相続別紙之趣ニ付、見聞仕候処、人物宜武芸及数々稽古いたし、当時郡浦会所小頭ニ而、出精相勤居行状ニ付、異候唱相聞不申、寸志銭調達之次第等、本紙書面之通承申候。以上

辰十二月

河口源右衛門 印

### 三〇三 平原太郎助

(一〇一—一四)

御内意之覚

松山手永御郡代直触平原平次郎養子松山会所下代

平原太郎助

当辰三十八歳

辰十二月

河口源右衛門

(安政四年)

三〇四 伊佐軍太、伊佐三吾

(二〇一—一五)

右者大田黒市兵衛と為申者、在勤中地士ニ被仰付、松山手永紙楮見拟申付置候処、嘉永五年十月病死仕、其跡欠役ニ相成居申候。当手、永之儀、所々仕立楮有之、此上相倡候得者、猶仕立場も多有之候所柄ニ御座候間、右平原太郎助儀、惣体壯健之者ニ而、氣働も有之、諸事手厚御用ニ相立候人柄ニ御座候間、市兵衛同様在勤中地士被仰付被下候様奉願候。左候得者紙楮見拟申付度奉存候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

御内意之覚

安政三年十一月

岩崎物部

松山手永居住歩御使番列

御郡方

伊佐軍太

御奉行衆中

僉議

太郎助儀、達之通ニ而、紙楮見拟申付有之度由ニ付、在勤中御郡代直触可被仰付哉。但在勤中地士被仰付被下候様との儀ニ御座候処、右者持席より可席被進見合ニ付、御郡代直触より被仰付候へハ、在勤中地士被仰付候得共、太郎助儀ハ御郡代直触之養子ニ付、本文之通御座候。

右軍太儀、御留守居御中小姓列伊佐三左衛門と為申者之弟ニ而、窮民為御取救、寸志錢九貫目差上候処、天保九年三月歩御使番列ニ被召出、当年迄十九年御奉公相勤候処、依眼病此節御奉公御断願出申候。病氣之様子承糺候処、相違之儀無御座、願之趣尤ニ相聞申候間、願之通御免被仰付被下候様。

右伊佐軍太養子

伊佐三吾

当辰五十一歳

〔朱書〕  
〔僉儀之通辰十一月十九日達〕

覚

右者手全成生質ニ而、武芸茂稽古仕候ニ付、親跡相応ニ被召出候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

松山手永網津村居住御郡代直触平原平次郎養子ニ而松山会所下代

安政三年十一月

岩崎物部

平原太郎助

御郡方

御奉行衆中

右者別紙之趣ニ付見聞仕候処、紙楮見拟之儀、当時欠役ニ付而者見拟倡方等茂届兼候哉ニ而、同人儀下代役相勤居候ニ付、諸事訓込居候由ニ而、本紙申立之通被仰付、可然人物之由承申候。以上

僉議

軍太儀、達之通ニ付、願之通歩御使番列可被成御免哉。三吾儀、

達之通ニ付、歩御使番列之跡目、究之通一領一疋可被召出哉。

〔朱書〕

〔倉儀之通〕二月廿五日達

〔朱書〕

〔巳〕月廿五日達

覚

松山手永高良村居住歩御使番列

伊佐軍太

右軍太養子

伊佐三吾

右者父子進退別紙之趣ニ付見聞仕候処、養父軍太儀眼病差発、御奉公難相勤、御断願出之趣、無余儀様子相聞、養子三吾儀、人物宜武芸茂稽古いたし、行状ニ付異候唱承不申、其外本紙書面之通相聞申候。以上

辰十二月

平井恒右衛門<sup>㊦</sup>

安達幸右衛門<sup>㊦</sup>

三〇五 久保桂助

(二〇一―一五)

御内意之覚

松山手永御惣庄屋当分御代官兼帯

久保桂助

右桂助儀、嘉永五年五月当役被仰付、当年迄六ヶ年相勤、兼々精勤仕、御用ニ相立申候間、追々御見合を以、本役被仰付御知行高式拾石被下置候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

二月

岩崎物部

桂助儀、達之通ニ而、御惣庄屋当分六ヶ年ニ相成り、見合茂御座候間、

松山手永御惣庄屋御代官兼帯本役被仰付、御知行高式拾石可被下置哉。

置哉。

〔朱書〕

〔右付札之通〕巳四月十六日達

覚

松山手永御惣庄屋当分并御代官兼帯

久保桂助

右者別紙申立之趣ニ付、見聞仕候処、御役前数年、心懸能致出精、早損之村方夏秋ニ懸、養水世話筋行届、右ニ付而者、役々者勿論小前々々一統帰服いたし候由ニ而、勤年数委細本紙書面之通承申候。以上

巳三月

柚原地平<sup>㊦</sup>

三〇六 田代滿次

(二〇一―一五)

覚

錢塘手永西走濁村居住、御郡代直触ニ而病死

仕候田代勘右衛門養子

田代滿次

右者親跡相続別紙之趣ニ付、見聞仕候処、人物宜武芸茂稽古いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、且養父五十七年出精相勤候次第、委細者本紙書面之通相聞申候。以上

巳三月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

御内意之覚

錢塘手永西走瀉村居住、御郡代直触<sup>ニ</sup>而病死  
候田代勘右衛門養子

田代滿次

三十歲

右滿次養父勘右衛門儀、寛政十一年三月西走瀉村頭百姓申付、文化六年六月西走瀉村三ヶ村庄屋役申付、其後所々転村後見等申付、文政五年十二月御郡簡召抱、直<sup>ニ</sup>庄屋役申付置天保十一年八月頭百姓以来数十年致出精候旨<sup>ニ</sup>而、御郡代直触被仰付、同年同月依願庄屋役差免、大河洲新地帳本迄相勤居候處、嘉永元年十月頭百姓以来五十年余致出精候旨<sup>ニ</sup>而、作紋麻上下一具被為拝領、安政二年五月大河洲新地帳本差免、去辰七月病死仕候。頭百姓踏出より安政二年迄都合五十七ヶ年相勤申候。右滿次儀、押立人物宜敷、相応御用<sup>ニ</sup>相立可申候而、父勘右衛門五十年余之勤勞被為對、相被召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御參談可被下候。以上

安政四年二月

上妻半右衛門

御郡方

御奉行衆中

僉儀

滿次儀、達之通<sup>ニ</sup>而、父田代勘右衛門儀、御郡代直触被仰付置、役附五十年余<sup>ニ</sup>而相果申候間、右之跡目究之通、苗字御免之御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
「右僉儀之通 巳四月十六日達」

三〇七 守田源作

(二〇一—一五)

御内意之覚

本席御郡代直触馬医<sup>ニ</sup>而、宇土町廻、在勤中  
地土、松山手、永中烏乱者見<sup>ニ</sup>兼帶宇土町居住  
守田源作

当巳六十一歲

右源作儀、祖父より宇土御牧馬医申付置候家筋<sup>ニ</sup>而、文化九年御牧馬療治方父守田柳平、病中等之節代役申付、天保三年父代寸志之訳<sup>ニ</sup>被對、父同様御郡代直触被仰付、且父代日光井關東筋川々御普請御手伝御用、立岡堤掘添、且宇土町焼失之者共取救等<sup>ニ</sup>付而、寸志差出寄特之段、御間御聞届之御達御座候。天保七年宇土町廻役当分申付、同九年在勤中地土被仰付、町廻本役申付、嘉永三年手永中烏乱者惣見<sup>ニ</sup>兼帶申付、父代勤以来当年迄四十六年、御郡代直触以来廿六年、在勤中地土以来廿年、無懈怠精勤仕候。宇土町廻役且手永中烏乱者惣見<sup>ニ</sup>兼帶申付、不斷心掛厚打廻り取<sup>ニ</sup>申候。惣体質直壯健<sup>ニ</sup>有之、聊私情<sup>ニ</sup>流候様之義無之、逸稜為合<sup>ニ</sup>相成、將又御牧馬医<sup>ニ</sup>付而者、代役以来自勤を以相勤、近在懸之村々作馬療治方茂手広出精仕、重疊所柄為合<sup>ニ</sup>相成申候。押方等<sup>ニ</sup>付而者、外之御家人中引立<sup>ニ</sup>茂相成候人柄<sup>ニ</sup>而、宇土町廻役被仰付候以来、最早廿年余<sup>ニ</sup>相成、稜々出精仕候<sup>ニ</sup>付、本席地土被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政四年三月

岩崎物部



御郡方

御奉行衆中

僉議

源作儀、達之通ニ而、御郡代直触被仰付候より二十六年、宇土町廻在勤中地土より二十年ニ相成、他手永ニ懸手広被行、療治方懇ニ有之候由。本紙并御郡御目附付御横目見聞書之通ニ而、町廻役被申付置候付而茂、押者等格別出精いたし、御弁利ニ相成候段、達之通御座候処、右廻役者進席等之見合無御座候。尤馬医迄ニして茂、地土進席之年数越居申候間、地土本席可被仰付哉。

〔朱書〕  
〔僉議之通 巳九月廿八日達〕

覚

松山手永宇土町居住、本席御郡代直触馬医ニ而、宇土町廻、在勤中地土松山永手中烏乱者物見拟兼帯

守田源作

右者別紙之趣ニ付、見聞仕候処、役方多年心懸能、一体質直壯健ニ有之、押者等茂出精仕、私情ニ流候様之取計茂無之由ニ而、御弁利ニ相成、且馬医之儀者、御牧馬を初、松山・郡浦・廻江・錢塘ニ懸、手広被行、去一ヶ年平馬繕・病馬共ニ者、千疋余ニ及候由之処、療治方懇ニ有之、一稜為合ニ相成候由ニ而、勤年数之儀本紙書面之通相聞申候。以上

巳五月

渡邊平兵衛 團

三〇八 清 蔵、才 七

(二〇一—一五)

御内意之覚

郡浦手永戸馳村御山口

清 蔵

当巳七十九歳

右者文政三年より同八年迄六ヶ年頭百姓相勤、同九年より当巳年迄三十二ヶ年御山口相勤居、都合三十八ヶ年出精相勤申候。惣体手全成者ニ而、手広御山見拟方行届、仕立方を茂心懸厚、精勤仕候間、被賞無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

同手永長濱村津横目

才 七

当巳八十八歳

右者文化六年より文政八年迄十七ヶ年頭百姓相勤、文政九年より当巳年迄三十二ヶ年津横目相勤居、都合四十九ヶ年出精相勤申候。手全成生質ニ而、津方取締茂行届、四十九ヶ年之勤勞旁々被对、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右之通兩人共数十年出精相勤居申候ニ付、夫々願之通被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政四年二月

岩崎物部

〔朱書〕  
〔僉議之通 巳九月廿八日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

清蔵・才七儀、達之通ニ而、清蔵儀山口三十二年、才七儀頭百姓以来四十九年ニ相成、何れ茂一両年年浅上御座候得共、極老之者ニ付、見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

覚

郡浦手永清蔵列式人、別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

戸馳村御山口

清蔵

右者手全成人物ニ而、老年ニ者壯健ニ有之、頭百姓以来役方数十年致出精、御山ニ諸木仕立方行届候由。

長濱村津横目

才七

右者人物朴質ニ而、老年ニ者別而壯健有之、頭百姓以来役方数十年出精相勤、津方取締方行届候由。

右之通ニ而、何れ茂勤年数本紙書面之通相聞申候。以上

巳三月

袖原地平圖

(安政五年)

三〇九 西 信一

(一〇一—一六)

覚

松山手永下網津村居住、御郡医師並ニ而病死  
仕候西元甫倅

西 信一

右者親跡相統、別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業心懸能、出精いたし、再春館江茂月々出席仕、且療治方之儀相応ニ被行、貧福之無

差別廻診等、深切ニ有之候ニ付、病家茂為合ニ相成候由ニ而、病人数之儀、書面之通相聞申候。以上

午二月

渡邊平兵衛圖  
藤井亥之八圖

御内意之覚

松山手永下網津村居住、御郡医師並ニ而病死  
仕候西元甫倅

西 信一

当巳廿四歳

右信一家筋之儀、菊池之浪人ニ而、先祖西精甫と為申者、天和三年医業ニ相成、金津又四郎支配を受居候処、高祖父西甫格元文五年又四郎支配を放、御郡代直触ニ被召出、寛保四年御郡医師並ニ被仰付、安永三年曾祖父西梅壽儀医業心掛能、療治方手広出精仕候旨ニ而、親跡御郡医師並被仰付候処、享和元年病死仕候。祖父西元章儀、同三年家業心懸能、療治方出精仕候旨ニ而、親跡右同断被仰付、天保九年七月家業心掛能、療治方手広出精仕候旨ニ而、独礼ニ進席被仰付置候処、弘化二年病死仕候。父西元甫儀、家業心掛能、療治方出精仕候旨ニ而、弘化三年閏五月親跡御郡医師並ニ被召出置候処、当五月病死仕候。然ル処右信一儀、当時療治懸之村方四ヶ所ニ而、竈数三百五十軒余病人数七百十余人、其外近郷より、臨時ニ頼来候病人数多ニ有之、惣体人柄宜、療治方心掛厚、病家向昼夜打廻出精仕、難洪之者江著施薬仕、貧福無差別真実ニ療治方差入出精仕候ニ付而者、村々逸稜為合ニ相成申候。数代御郡医師独礼ニ茂被仰付候家筋、旁々被対、信一儀親同様御郡医師並被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、

宜被成御參談可被下候。以上

安政四年十二月

岩崎物部

御内意之覺

藤井亥之八回

御郡方

松山手永佐野村御牧廻

御奉行衆中

才七

僉議

当年七十二歲

信一儀、達之通ニ付、医業吟味役江問合申候處、治療習熟學業篤志之段達有之、再春館御目附見聞茂同様ニ而、科目内科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、療治方相應ニ被行、貧福之無差別廻診等懇ニ有之候由。別紙之通ニ御座候間、御郡医師並之跡目右科目究之通御郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔僉議之通午四月十五日達

本科三法破的

午四月十五日達〕

三二〇才七、助七

(二〇一—一六)

覺

松山手永佐野・古保里両村御山口

才七

同手永網津村御牧廻

助七

右者別紙之趣ニ付見聞仕候處、兩人共ニ役前心懸能出精いたし、才七儀者御山見扱方等度平常行届、助七儀者御牧廻相怠不申由ニ而、勤年数銘々本紙之通相聞申候。以上

午五月

渡邊平兵衛印

右才七儀、文化十二年三月頭百姓申付、文政五年九月弘頭兼勤申付、同八年迄十一ヶ年相勤、同九年七月御山口申付、当年迄三十三年相勤、惣年数四十四ヶ年ニ罷成申候。頭百姓以來出精仕、御山繁茂之儀厚心配仕候ニ付、先役より手限賞美を茂取計置申候。其後不相替心掛厚出精相勤居申候間、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

同手永網津村御牧廻

助七

当年七十四歲

右助七儀、文化三年三月頭百姓申付、同十二年依願差免、文政元年五月再勤申付、弘化四年迄四十ヶ年相勤申候。嘉永元年三月頭百姓差免、御牧廻申付、当年迄十一ヶ年相勤、都合五十一ヶ年出精仕候。右年数之内ニ者石剪小頭二十四年兼勤仕、数十年相勤候ニ付而者、先役より手限賞美を茂取計置申候。其後不相替出精仕候間、無苗御惣庄屋直触被仰付被下候様。

右兩人之者共数十年格別出精相勤居申候ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政五年三月

岩崎物部

(朱書)  
〔僉議之通午十月十五日達〕

御郡方

御奉行衆中

僉議

才七儀、達之通二而、頭百姓者五十年内二而者進席之年数ニ難取用省之、山口以来三十三年ニ相成、一ケ年浅御座候得共、極老之者ニ付見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。助七儀右同断、頭百姓以来五十一年之内、中途ニ而石剪小頭茂二十四年兼勤いたし候由、見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

三一一 甚七

(二〇一—一六)

覚

郡浦手永下網田村頭百姓

甚七

右者別紙之趣ニ付見聞仕候處、役方五十年心懸能出精いたし、村方世話筋度行届候様子相聞申候。以上

午五月

渡邊平兵衛 印

藤井亥之八 印

御内意之覚

郡浦手永下網田村頭百姓

甚七

当年七十一歳

右甚七儀、手全成生質ニ而、文化六年頭百姓申付、当年迄五十年格別出精仕、村方取締筋行届申候ニ付、手数旁ニ被対、無苗御惣

庄屋直触被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政五年四月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

甚七儀、達之通二而頭百姓五十年ニ相成、格別出精村方取締筋行届候由見合茂御座候間、無苗御惣庄屋直触可被仰付哉。

(朱書)  
[僉議之通午十月十五日達]

三一二 中國英之助 他

(二〇一—一六)

覚

郡浦手永中國英之助列四人、別紙申立之趣ニ付見聞仕候處、左之

通御座候。

御山支配役在勤中諸役人段ニ而、網田村居住

中國英之助

右者役々数十年心懸能出精いたし、当御役以来者諸木仕立方度行届、御山内取扱宜由。

長崎村居住、一領壹疋ニ而手永見扱

辛川良右衛門

右者数々之役方数十年心懸能出精いたし、手永成立筋等ニ付而者種々心配仕候由ニ而、相替候儀者、本紙ニ付紙用置申候。

新開村居住、紙楮見扱、在勤中御郡代直触ニ而、宇土所惣代并新開御藏受込

稲田庄次郎

右者役方数十年心懸能出精いたし、新開御蔵之儀者御取興以来之受込三而、御米弘中者勿論、御蔵建方ニ付而茂心配仕候由。

御郡筒ニ而手場村庄屋

三浦久兵衛

右者役方数十年心懸能出精いたし、村方成立等之世話筋茂行届候由、右之通三而、孰茂勤年数等、本紙之通相聞申候。以上

午五月

渡辺平兵衛

藤井亥之八郎

御内意之覚

郡浦手永御山支配役在勤中諸役人段

中園英之助

当年六十二歳

右英之助儀、文化十三年郡浦手永石見抄申付、文政二年迄四ヶ年相勤、文政三年塘方助役申付、天保十年役方多年出精仕候ニ付、老領一疋本席被仰付、弘化元年まで二十五ヶ年塘方助役相勤、弘化二年井樋方助役申付。嘉永五年迄八ヶ年相勤、同六年御山支配役被仰付、在勤中諸役人段被仰付、当年迄六ヶ年相勤、惣年数四十三ヶ年心掛厚格別出精仕、御山取締筋且仕立方等行届、御山繁茂仕候ニ付、諸役人段本席被仰付被下候様。

同手永老領一疋ニ而手永石見抄

辛川良右衛門

当年七十四歳

右良右衛門儀、寛政十年より文化十一年まで十七年会所小頭相勤、文化十一年村々質地代銭捨遣候ニ付、親跡御郡代直触被仰付、同

十四年栗崎村庄屋後見兼勤申付、文政六年迄七ヶ年相勤、文政七年会所手代役申付、嘉永五年迄二十九ヶ年相勤申候。同年十二月役方五十年余心掛厚、格別出精仕候ニ付、老領一疋被仰付、手代役差免、安政三年手永見抄申付、当年迄三ヶ年相勤、惣年数六十ヶ年心掛厚精勤仕候ニ付、零落之手永成立之仕法立等、種々見込を付、養水方井水氣拔等之新井手立且新堤掘方等、別段心を用精勤仕候ニ付、地味変化仕、一毛作之畝方茂、跡作地ニ相成、漸々農力相増、屹度為合ニ相成申候間、多年之勤勞旁々被対、諸役人段被仰付被下候様。

郡浦手永紙楮見抄、在勤中御郡代直触ニ而、

宇土駅所惣代并新開御蔵請込

稲田庄次郎

当年四十九歳

右庄次郎儀、文政七年より会所小頭申付、天保六年宇土駅所并新開御米・山床請込申付、天保十年迄十六ヶ年相勤、同十一年より弘化元年迄新開村庄屋役五ヶ年相勤、同十三年在勤中御郡代直触ニ而、紙楮御取締ニ付、密抜見抄且倡方被仰付、当年迄十七ヶ年ニ相成申候。弘化二年より当年迄宇土駅所惣代十四ヶ年相勤、惣年数三十五ヶ年格別出精仕、人馬立等無遅滞様取計、御米・山床之儀者、天保度御取興之節より受込申付、年々御米弘中無懈怠精勤仕、此節御蔵建方ニ付而茂、始末諸切厚心配仕、役前心掛能相勤申候ニ付、地土被仰付被下候様。

郡浦手永御郡筒ニ而手場村庄屋

三浦久兵衛

当年五十八歳

右久兵衛儀、文化十二年より文政八年迄十一ヶ年会所小頭相勤、  
文政九年親跡手場村庄屋申付、当年迄三十二年相勤、惣年数四十  
四ヶ年格別出精相勤候内ニ者、村方成立筋且新地御築立等之節々  
功績茂有之、当時庄屋之帳口ニ而、同役中申談行届、惣体心得方  
宜精勤仕候ニ付、年数旁々被对地士被仰付被下候様。

右四人之者共、役前心掛厚格別出精仕候。年数旁々被对、夫々御  
賞美被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、  
宜被成御参談可被下候。以上

安政五年四月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉儀

英之助儀、達之通ニ而、惣年数四十二年之内、塘方助役以来三十  
九年、当役六年、先賞一領一疋本席より二十年ニ相成、右先賞之  
節持席地士之場ニ而取扱ニ相成居申候。左候得者四十年ニ而、諸役  
人段本席之見合ニ付、今一ヶ年浅ク相見申候処、当役者二十四年  
目、諸役人段本席之見合ニ而、遙ニ歩ミ近ク、来年ニ至候得者、当  
役之利キ目無之相見申候間、達之通諸役一段本席可被仰付哉。良  
右衛門儀、小頭以来六十一年之内手代庄屋等相勤、当時者手永見  
扱被申付置、先賞一領一疋より七年ニ相成、心懸厚精勤いたし候  
付、諸役人段進席被仰付候様、達之通ニ御座候処、庄屋手永見扱  
体之役方ニ而考、格別之年旁有之候而茂、是迄諸役人段進席之見合  
者無御座候、乍然六十年余と申者稀成ル年旁ニ付、無味ニ茂難被聞、  
老年旁作紋麻上下一具可被下置哉。庄次郎儀、達之通ニ而惣年数  
三十五年之内、紙楮見扱、在勤中御郡代直触より十七年ニ相成見

合茂御座候間、本席苗字御覚之御惣庄屋直触可被仰付哉。但地士  
進席被仰付候様、達之通御座候得共、遙ニ年浅御座候間、本文之  
通御座候。尤新開御米・山床御取興之砌より受込ニ而、年々御米  
弘中出精いたし、此節御蔵建方ニ付而茂、始末諸切心配いたし候  
由、達之通ニ付、此稜者別段ニ被賞、鳥目老貫五百文程茂可被下置  
哉。久兵衛儀、右同断小頭以来四十四年之内、庄屋三十三年、中  
途御郡筒被召拘候より二十年ニ相成、此歩ミ一ヶ年浅御座候得共、  
庄屋之年数三年越居、惣年数茂四十四年ニ及候付、御郡代直触可  
被仰付哉。但地士進席被仰付候様、達之通ニ御座候得共、遙ニ年  
浅本文之通御座候。

〔朱書〕

〔僉儀之通年十月十五日達〕

三三三 満永和三郎

(二〇一)一六

御内意之覚

松山手永筭岩村居住御惣庄屋直触

一 銭老貫五百目

満永和三郎

同手永高良村居住御惣庄屋直触

一同老貫五百目

津志田善左衛門

右者相州御備場并江戸表御手当御用炮箸出来ニ付、寸志差上度願  
之通被召上、夫々上納相濟申候間、兩人共御郡代直触進席被仰付  
被下候様奉願候。此段宜敷被成御参談可被下候。以上

安政五年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

和三郎・善左衛門儀、達之通<sup>二</sup>而、寸志高究之規矩<sup>三</sup>相当申候間御郡代直触、可被仰付哉。

(朱書)  
〔右僉儀之通十二月廿五日達〕

三二四 田河内茂左衛門

(一〇一—一六)

覺

松山手永曾畑村居住、御郡代直触<sup>二</sup>而病死仕候田河内文助養子

田河内茂左衛門

右者、親跡相統別紙申立之趣<sup>二</sup>付、見聞仕候處、手全成人物<sup>二</sup>而役方數十年致出精、行狀<sup>二</sup>付異候唱相聞不申、寸志錢調達之次第等、委細本紙書面之通承申候。以上

午十二月

柚原地平團

御内意之覺

松山手永御郡代直触<sup>二</sup>而病死仕候田河内文助養子

田河内茂左衛門

当午四十六歲

右茂左衛門養祖父井序次助と為申者、安永七年十一月御山口申附候後、宇土駅所小頭申付置、寛政三年四月御山口出精相勤候<sup>二</sup>付、鳥目三百文被下置、文化八年五月役方多年出精相勤候<sup>二</sup>付、礼服御免被仰付、文政十二年十二月五十年余之勤勞被对、苗字御免御惣庄直触被仰付置候處、天保十二年六月病死仕候養父田河内文助

儀、天保十二年十二月父五十年余之勤功<sup>二</sup>被对、無苗御惣庄屋直

触被仰付、嘉永六年十一月寸志之誤<sup>二</sup>被对、御郡代直触被仰付、

田河内と相改、当年五月病死仕候。養子茂左衛門儀、文政九年松

山会所見習<sup>二</sup>罷出、天保四年五月小頭申付候後、根拟村庄屋申付

置候處、安政二年二月宇土駅所惣代申付、会所見習以來当年迄

三十三ヶ年相勤候内。

一松合村度々之出火旦救浦并下り松新地御築立等<sup>二</sup>付而、骨折候旨<sup>二</sup>

而、天保五年鳥目四百文被下置候。

一天保九年九月貧民為取救鳥目差遣、奇特之儀、御間御聞届之御達

御座候。

一同十年御巡見衆御用出精仕候<sup>二</sup>付、右同断。

一下益城・宇土於海辺新地御築立<sup>二</sup>付塘方請前之稜々始末、別而致

出精候旨<sup>二</sup>而、天保十二年十二月鳥目式貫文被下置候。

一住吉新地御普請申請持稜々致出精、且卯秋大風破損之ヶ所々々普

請付而茂、始末出精相勤候旨<sup>二</sup>而、嘉永元年十月鳥目三貫文被下置

候。

一鯨・沼山津水理一件付而、走瀉新川等數ヶ所之御普請、主<sup>二</sup>成始

末致出精候旨<sup>二</sup>而、嘉永七年十一月鳥目壹貫文被下置候。

一当五月民力強寸志四貫目差上度奉願候處、願之通被召上、繼目之

功<sup>二</sup>被立下段、御達<sup>二</sup>付、当九月上納相濟申候。

右茂左衛門儀、生質宜壯健<sup>二</sup>有之、御郡並之御用<sup>二</sup>相立候人柄<sup>二</sup>

御座候。繼目寸志を茂差出置候儀<sup>二</sup>御座候<sup>二</sup>付、養父同様御郡代

直触<sup>二</sup>被召出被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、

宜被成御參談可被下候。以上

安政五年十二月

岩崎物部

(朱書)  
[十二月廿七日達]

御郡方

御奉行衆中

僉議

茂左衛門儀、達之通三而、寸志高繼目究之規矩三相当申候間、父同様御郡代直触可被仰付哉。

三一五 近藤九平、岩村久兵衛

(二〇一—一六)

御内意之覺

松山手永一村老人御抱繼御郡簡

一錢貳貫五百目

近藤九平

同手永右同

一同貳貫五百目

岩村久兵衛

右者相州御備場并江戸表御手当御用炮箸出来三付、寸志差上度願之通被召上、夫々上納相濟申候間、兩人共地土三進席被仰付被下候様奉願候。此段宜敷被成御參談可被下候。以上

安政五年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

九平・久兵衛儀、達之通三而、寸志高究之規矩三相当申候間、地土可被仰付哉。

(朱書)

[右僉議之通十二月廿八日達]

(安政六年)

三一六 野田七右衛門

(二〇一—一七)

覺

宇土郡御山支配役、在勤中諸役人段

野田七右衛門

右者、別紙之趣三付見聞仕候處、手堅人物三而、老年三者未夕壯健三有之、御牧見以以來塘方助役、其外加役等二十ヶ年、御山支配役二十二ヶ年心懸厚出精相勤、一領壹疋被召出候後、都合四十九ヶ年三而當御役以來者御山々并空野等三、年々諸木余計三仕立方植繼等、格別出精いたし候由三而、勤年数等委細本紙書面之通相聞申候。以上

午十二月

藤井亥之八回

御内意之覺

宇土郡御山支配、在勤中諸役人段

野田七右衛門

当年七十二歳

右七右衛門儀、宇土郡旧古卷領一疋三而、御山支配数十年相勤、御留守居御中小姓三進席被仰付候野田島右衛門二男三而、文化七年卷領一疋三被召出、同十四年御牧見以助役申付、文政四年宇土郡御山見以兼勤申付、同五年郡浦手永両長崎村・浦上村風儀不宜筋有之、右村方烏乱者見以申付、同六年御制度格別見以兼勤申付、文政八年父跡御牧見以本役申付、天保二年塘方助役加勤申付置候



処、同八年塘方助役御制度格別見抄者差免、御牧見抄勤懸ニ而、兄野田林太郎跡宇土郡御山支配、在勤中諸役人段被仰付、櫛楮見抄兼勤申付、当年迄無懈怠精勤仕候。卷領一疋被召出候以来四十九ヶ年ニ罷成、其内諸役付四十二年之内、左之通。

一文政十二年櫛仕立方請込并野開櫛実御買上御用掛、当年迄三十年厚心配出精仕候。

一文政十二年立岡堤堀添之節、丁場見抄等出精仕候旨ニ而、銀貳兩被下置候。

一天保五年松合村并宇土町出火之節々、速ニ罷出、数日骨折、下り松新地御築立年々手入ニ付而茂、数日罷出出精仕候旨ニ而、銀五兩被下置候。

一同六年去ル卯秋以来、自他手永追々御普請ニ付而出精仕候旨ニ而、金子百疋被下置候。

一天保十年松橋龜崎新地御築立付、竹木葎等請込出精仕候旨ニ而、為御心附島目五百目被為拜領、猶同十二年銀五兩被下置候。

一嘉永元年九月北浦住吉新地御築立并去ル卯秋大風破損付而、所々御山より竹木伐出、出精相勤候旨ニ而、作紋麻上下一具并金子百疋被下置候。

一安政二年十二月去ル卯年松橋新地築添之節、御山材木取出出精仕候旨ニ而、作紋麻上下一具被下置候。

右七右衛門儀、惣体壮健ニ而、篤実ニ有之、諸役数十年精勤仕候内、天保八年御山支配以来、空野或者荒山等之内ニ、松・杉・桧・楠・樺等地味ニ応じ、仕立方仕候木数百五十二万二千八百七本ニ而、兼而新古御山内不断打廻、御山口共示方行届候付而者、御山々々次第繁茂仕、就中綱引御山亡父野田島右衛門仕立候

杉・桧二十万余之木数、能木ニ而追々御取出被仰付、所之御用宅且御蔵等新規建方取締、入用之材木間引伐を以取出、一廉御用ニ相立申候、七右衛門亡父之事業を継、差継等之手入無怠、大場之御山内不断打廻取抄申候、諸御普請向且火事逢等付而、年々余計之竹木御薙山より取出付而者、繁多ニ御座候処、右之通莫太之木数仕立方仕、御牧見抄、櫛楮見抄等手厚行届、彼是先者拔群之出精ニ而、来春ニ至候得者、五十年之勤功劳々被对、諸役人段本席被仰付被下候様有御座度、於私奉願候、此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政五年十一月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

七右衛門儀、達之通ニ而、一領一疋被召出候以来、四十九年当役二十二年ニ相成、諸木余計之仕立方植継等、格別出精いたし候由、御山支配役之儀者、上等二十一年並者二十四年以上ニ而、諸役人段本席被仰付見合御座候付、来年ニ至候得者当役二十三年一領一疋被召出候以来五十年ニ相成、旁を以来春ニ至、諸役人段本席可被仰付候哉。

(朱書)  
〔右僉議之通案正月十一日申渡〕

三二七 本田健助

覚

松山手永網津村居住、御郡代直触ニ而病死仕

(二〇一七)

候本田甚右衛門孫養子

本田健助

右者、養祖父跡相統別紙申立之趣ニ付見聞仕候処、手全成人物ニ而、武芸数々稽古いたし、行状ニ付異候唱相聞不申、祖父代寸志錢差上候儀等、委細本紙書面之通承申候。以上

午十二月

柚原地平印

御内意之覚

松山手永網津村居住、御郡代直触ニ而病死仕

候本田甚右衛門孫養子

本田健助

当年式拾四歳

右健助養曾祖父本田清蔵儀、郡浦手永新開村居住ニ而、役方五十年余相勤候被对勤功、天保十二年御郡代直触ニ被仰付置候処、嘉永六年病死仕候養祖父本田甚右衛門儀、父五十年余之被对勤功候旨ニ而、弘化三年苗字御免・御惣庄屋直触ニ被仰付、安政二年廻江手永守富在寸志錢老貫五百目差上候処、御郡代直触ニ被仰付、同年松山手永網津村江居住替奉願候処、願之通御免被仰付、去十月病死仕候。同人存生中左之通民力強寸志差出申候。

一錢四貫目

但花園堤増入目之内ニ、為民力強寸志差上度奉願候処、被召上、繼目之功ニ被立下候段、御達ニ相成、上納相濟申候。

一右本田健助儀、嘉永二年松山会所見習ニ罷出、同六年小頭当分申付、安政三年小頭本役申付、見習以来当年迄十ヶ年、無懈怠出精相勤、武芸も数々出精仕居申候。惣体壯健ニ而氣働も有之、御郡並御用ニ相立可申人物ニ御座候。養祖父代繼目寸志をも差上置候ニ

付、養祖父本田甚右衛門跡御郡代直触ニ被召出被下候様有御座度、

於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政五年十二月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

健助儀、達之通ニ而寸志高繼目究之規矩ニ相当申候間、父同様御

郡代直触可被仰付哉。

(朱書)

〔右僉議之通、未二月朔日達〕

三二八 岡村辰次郎

(二〇一七)

覚

松山手永宇土町居住御郡代直触ニ而病死仕候

岡村儀平次孫養子

岡村辰次郎

右者祖父跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、手全成生立ニ而、筆算等茂稽古仕候由ニ而、相替候唱相聞不申、委細本紙書面之通承申候。以上

未正月

藤井亥之八印

御内意之覚

松山手永宇土町居住、御郡代直触ニ而病死仕候岡村儀平次孫養子

岡村辰次郎

当年十五歳

右辰次郎養祖父岡村儀平次儀、寛政十年宇土町之役并村庄屋相勤、

文化三年同六年寸志差上候三付影踏御免三相成、文政十二年役方

数十年手全三相勤、立岡堤堀添之節、醬油を茂差出候旨三而、無苗

御惣庄屋直触被仰付候。天保七年二丸御手伝御用寸志錢貳貫五百

目差上候三付、御郡代直触被仰付候。嘉永元年役方五十年手全三

出精相勤候旨三而、銀五兩被下置候處、嘉永二年二月病死仕候。

辰次郎儀、生質手全三有之、儀平次儀茂役方五十年之勤勞且追々三

寸志差上候功績旁々被对、養祖父跡相応三被召出被下候様有御座

度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以

上

安政五年十二月

御郡方

御奉行衆中

僉議

辰次郎儀、達之通三而、祖父岡村儀平次病死達、延行三付而者御答

被仰付、御郡代直触之跡究之通、無苗御惣庄屋直触可被仰付段、

於御刑法方、僉議相決候段、知せ来候付、無苗御惣庄屋直触可被

仰付哉。

(朱書)  
[右僉議之通、未二月十六日達]

三一九 齊藤弥五兵衛

(二〇一—一七)

覚

松山手永網津村居住御郡代直触齊藤七左衛門

養父同手永見拟在勤中御郡代直触三而宇土町

别当松山会所詰

齊藤弥五兵衛

四十八歳

右者別紙之趣三付見聞仕候處、篤実成生質之由、書算達者仕、氣

働茂有之、御免方を茂相心得居、役々数十年出精相勤、御用筋吞

込居候由三付、本紙申立通被仰付候而茂、相応相勤可申人物と相

聞申候。以上

未二月

御内意之覚

松山手永見拟在勤中御郡代直触宇土町别当松

山会所詰

齊藤弥五兵衛

右者篤実成生質三而、才氣茂有之、算筆達者三仕、往々御用三相立

可申人物三御座候旨、江謙吾跡杉嶋手永唐物拔荷改方御横目在勤

中諸役人段被仰付被下候様、有御座度、左候得者、御郡代手附横

目を茂申付度奉存候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。

以上

正月

岩崎物部

弥五兵衛儀、達之通三付、江謙吾跡杉嶋手永唐物拔荷改方御横目

被仰付、在勤中諸役人段可被仰付哉。

(朱書)  
[付紙之通未三月十日達]

三二〇 龜井九郎兵衛

(二〇一—一七)

覚

松山手永網津村居住御郡代直触齊藤七左衛門

養父同手永見拟在勤中御郡代直触三而宇土町

松山手永岩熊村居住御郡代直触龜井幸右衛門  
倅同会所下代

龜井九郎兵衛

歳三十五

右者別紙之趣三付見聞仕候処、手全成生質之由、筆算茂達者仕、  
役々数年出精相勤、諸事物馴居候由二付、申立之通被仰付候而茂、  
相應相勤可申人物と相聞申候。以上

未九月

平井恒右衛門<sup>⑧</sup>

御内意之覚

松山手永御郡代直触龜井幸右衛門倅松山会所

下代

龜井九郎兵衛

右九郎兵衛儀、手全成生質<sup>二</sup>而、当時松山会所下代申付置候処、  
平日役前心掛能、出精相勤申候付、齊藤弥五兵衛跡松山手永見抄  
申付度御座候間、在勤中御郡代直触被仰付被下候様、於私奉願候。  
此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政六年六月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

九郎兵衛儀、手永見抄欠跡被申付度由、達之通<sup>三</sup>付、在勤中御郡  
代直触可被仰付哉。

(朱書)

[右僉議之通未九月十九日達]

三二一 藤本作兵衛

(二〇一七)

一錢八貫目

宇土町居住士席浪人格藤本順次第

藤本作兵衛

右者相州御備場并江戸表御手当御用炮箸出来<sup>二</sup>付、口立之通寸志  
差上申度、願之通被召上、夫々上納相濟申候間、歩御小姓列<sup>二</sup>被  
召出被下候様奉願候。此段御内意仕候条、宜敷被成御参談可被下  
候。以上

安政六年六月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

作兵衛儀、達之通<sup>三</sup>而、寸志高究之規矩<sup>三</sup>相当申候間、歩御小姓  
列可被召出哉。

(朱書)

[右僉議之通未八月三日江戸窺九月廿五日申渡]

三二二 竹馬圓次・小郷藤兵衛

(二〇一七)

覚

松山手永小曾部村居住地士<sup>二</sup>而同村庄屋

竹馬圓次

同手永下松山村居住御郡代直触<sup>二</sup>而東松崎村  
庄屋同所新地受込兼帯

小郷藤兵衛

右兩人別紙申立之趣<sup>三</sup>付見聞仕候処、孰茂会所見習以來役方数十  
年出精相勤、追々諸御普請<sup>三</sup>付而者御賞美茂被仰付置、当庄屋役<sup>二</sup>

而者各別心を用、村方之世話筋茂能行届候由ニ而、勤年数等委細者  
本紙書面之通相聞申候。以上

未五月

河野子次右衛門<sup>㊦</sup>

宗村弥久馬<sup>㊦</sup>

御内意之覚

松山手永地士ニ而小曾部村庄屋

竹馬圓次

当未五十五歳

一勤年数四十一年

三年 会所見習

六年 庄屋代役

二十九年 会所役

三年 庄屋

右圓次儀、文化十四年会所見習ニ罷出、文政三年小頭当分申付、

同五年小頭申付、同九年庄屋代役申付、天保四年会所詰助役申付、

同六年本役申付、同十四年下代申付、弘化三年手代申付置候处、

嘉永六年依病氣願之通役儀差免、安政三年病氣快復仕、手代上席

ニ而会所根居当用方申付、同四年小曾部村庄屋申付、当年迄見習

以来役々四十一年相勤候中左之通

一嘉永六年廻江手永守富在成立寸志差出候处、親跡地士ニ被召出候。

一文政八年七百町新地御築立之節出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下

置候。

一立岡堤堀添之節出精仕候段、文政十二年御間御開届之御達御座候。

一救浦新地御築立之節右同断。

一天保十二年宇土海辺新地潮留、且破損等之節罷出、際目建地割等

之請込別而心配仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被下置候。

一弘化三年役方多年出精仕候旨ニ而、鳥目壹貫文被下置候。

一嘉永元年北浦新地出来之節、無間拔取計、且卯秋大風破損之節も

厚心配仕候旨ニ而、鳥目貳貫文被下置候。

右圓次儀、役々出精仕候中、旱田所零落之村々地場、種々心配多

有之候上、立岡堤堀添已来引続、松合村・宇土町数度之火災、且

所々新地御築立、或者大風高波損所等ニ付而者、昼夜無差別出精仕

且又庄屋申付候处ニ而者、勸農倡方手厚諸事取締方相届、村方一

和仕、御年貢諸出銀等速ニ相納来申候。右之通ニ而、四十一ヶ年

之勤勞旁ニ被对、作紋麻上下一具被為拝領被下候様。

同手永御郡代ニ而東松崎村庄屋同所新地請込兼

一勤年数三十三年

六年 見習

二十四年 会所役

三年 庄屋

右藤兵衛儀、文政七年会所見習ニ罷出、天保元年小頭申付、同六

年会所詰助役、同八年本役申付、弘化三年下代申付、嘉永二年松

崎村庄屋後見申付置候处、同六年病氣ニ付願之通役儀差免、安政

四年病氣快復仕、東松崎村庄屋後見申付、会所見習以来当年迄

役々三十三年相勤候中左之通。

一弘化二年父小郷彦太五十年余之勤ニ被对、苗字御免御惣庄屋直触

被仰付候。

一同四年父代寸志之訊ニ被对、御郡代直触被仰付候。

一文政十二年立岡堤堀添之節出精仕候旨ニ付、鳥目三百文被下置候。

一天保五年松合村度々火災、且救浦并下り松新地築立之節骨折候旨

ニ而、鳥目壹貫文被下置候。

一同十二年下益城・宇土海辺新地築立、且破損之節茂出精仕候旨ニ而、鳥目五百文被下置候。

一嘉永元年北浦新地出来ニ付、諸手配等無間抜取計、且卯秋大風破損ニ付而も厚心配仕候ニ付、鳥目貳貫文被下置候。

一安政元年鯨・沼山津水理一件ニ付而、所々御普請出精仕候ニ付、鳥目七百文被下置候。

右藤兵衛儀、見習以來三十三ヶ年役々出精仕候中、立岡堤堀添引続、松合村・宇土町数度之火災、且所々新地築立、或者大風高汐損所等ニ付而者、会所向繁雜ニ有之候処、別而出精仕、一昨巳年東

松崎村庄屋申付、同村之儀、年々養水方難洪仕来候中、一昨年照続ニ付而者、昼夜寢食も不易水配之世話仕、昨年霖雨より秋節迄

降続ニ付而者、水害除種々心配仕候処より、水損之畝も相減申候儀ニ御座候。右之通ニ而会所見見習以來之勤勞旁ニ被対、相応之御賞

美被仰付被下候様。

右兩人共格別出精仕候ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政六年三月

御郡方

御奉行衆中

僉議

圓次儀達之通ニ而、見習并庄屋代役を省、小頭会所詰・下代・手

代・庄屋等前後三十一年ニ相成、右役々見撫中墨会所詰之段等として無苗御惣庄屋直触可被仰付場ニ至居候処、寸志ニ而地土被仰

付置ニ而、見合茂御座候間、銀五両可被下置哉。藤兵衛儀右同断。見習之年数を省、小頭会所詰・下代・庄屋後見等二十七年ニ相成、

礼服御免之場ニ至居申候処、寸志ニ而御郡代直触被仰付置ニ付、見合茂御座候間、鳥目壹貫文可被下置哉。

〔朱書〕  
〔未十月廿日達〕

三二三 草野安次郎、近藤衛守

(二〇一七)

覚

松山手永草野安次郎列兩人、別紙之趣ニ付見聞仕候処左之通御座候。

松合村居住諸役人段ニ而同所津口御番人

草野安次郎

右者役方多年心懸能出精相勤、唐物改方・諸運上銀取立方等手全ニ有之、津口取扱行届候由。

笠岩村居住大嶋遠見燈籠請持在勤中地士

近藤衛守

右者燈籠燈方心懸能手全ニ相勤、御米船を初商船・漁舟等夜中燈籠目当三丁川口入津いたし候儀ニ付、各別心を用片時茂無怠、数

十年之間燈方行届、諸船々逸稜之為合ニ相成候由。

右之通ニ而兩人勤年数等委細者本紙書面之通相聞申候。以上

未五月

河野子次右衛門

宗村弥久馬

御内意之覚

松山手永松合村居住、諸役人段ニ而松合御番

人

一勤年数二十七年

草野安次郎

当末六十二歳

右安次郎儀、文政十二年関東川々御普請御用ニ付、兄草野勘左衛門より寸志差上候ニ付、天保二年別席壹領一疋被召出、同四年松合村唐物拔荷改御番人被仰付、在勤中諸役人段被仰付置候処、嘉永六年廻江手永守富在成立寸志差上候ニ付、諸役人段本席被仰付、安政二年松合村成立請込申付置候同所之儀、自他渡海舟出入繁多之候処、御番人之勤向昼夜無間拔出精仕、津方取締行届、且成立筋主之儀諸事申談、手厚村方一和仕候。右之通ニ而、天保四年御番人被仰付、当年迄二十七年無懈怠相勤候ニ付、作紋麻上下一具被為拝領被下候様。

同手永笠岩村居住、大鳥遠見燈籠請持、在勤中地士

一勤年数三十一年

近藤衛守

当末五十八歳

右衛守儀、文政十二年大鳥遠見燈籠請持、在勤中地士被仰付置、当年迄右之年数無懈怠相勤申候。右大鳥之儀、肥前より天草迄之灘を受波立強、緑川之洗出ニ而、冲手洲高ニ有之、二丁川口入津甚難涉ニ有之、御米船を初商船漁舟等日夜出入多、夜中者右燈籠目当ニ入津仕候処ニ而者、夜中者しばらくも無怠、文政十二年以来当年迄三十一年心掛厚燈方行届、諸舟逸稜逸稜為合ニ相成申候間、金子式百疋被為拝領被下候様。

右之通、両人之者共格別出精相勤居申候ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御参談可被下候。以上

安政六年三月

岩崎物部

御郡方

御奉行家中

僉議

安次郎儀、当役二十七年ニ相成、出精相勤候付、作紋麻上下被下置候様、達之通ニ付吟味仕候処、当役之儀者、文化二年唐物拔荷御取締之初而被仰付、其後年数相勤候もの、被賞之例相見不申、江本甚十郎と申たるもの等者、三十年余相勤申候得共、御賞美者無御座候間、見合可被置哉之処、先例相見不申者、是迄申立無之故ニ而茂可有御座、二十七年相勤候者、無味ニ茂難被差置、金子式百疋程茂可被下置哉。衛守儀、住吉燈籠堂灯方請持、三十一年無懈怠相勤候付、金子式百疋被下置候様、達之通ニ御座候処、是又被賞之先例見兼申候得共、無味ニ茂難被差置、銀ニ両程茂可被下置哉。

(朱書)

右僉議之通草野安次郎儀本月廿日申渡、其外者同日達仕

三三四 中山直右衛門 他

(一〇一七)

覚

松山手永中山直右衛門列三人、別紙之趣ニ付見聞仕候処、左之通御座候。

松山村居住地士ニ而柏原村庄屋

中山直右衛門

右者、会所見習以来役方数十年、手全ニ相勤、村方之世話筋茂行届、早田之ケ所者堤掘添・新井手立等、種々心配いたし、勸農筋茂厚心を用候由。

下網津村居住、御郡代直触野村勝之助父ニ而  
下網津村庄屋

野村源次郎

右者、頭百姓以来役方数十年出精相勤、下網津村之儀者、一体湿地之ケ所ニ而、水氣拔・新井手立等厚心配いたし、跡作等出来仕、彼は世話筋行届候由。

大口村居住、御郡代直触ニ而大見村庄屋

森田作左衛門

右者、頭百姓以来役方数十年手全ニ相勤、村方之世話筋能行届、御年貢・諸上納等、速ニ相納、勤農筋茂厚相唱候由。

右之通ニ而、孰茂勤年数等委細考、本紙書面之通、相聞申候。以上

未五月

河野子次右衛門

宗村弥久馬

御内意之覚

松山手、永地士ニ而柏原村庄屋

中山直右衛門

一勤年数四十年

当未五十三歳

六年 見習

二年 小頭ニ而庄屋代役

三十二年 庄屋

右直右衛門儀、文政三年見習ニ罷出、同九年小頭申付、同十一年下松山村庄屋申付、当時柏原村庄屋相勤居申候。会所見習ニ罷出候以来、当年迄役々四十年相勤候中左之通。

一文政八年七百町新地御築立ニ付出精仕候段、御間御聞届之御達御座候。

一同十二年祖父中山武助、役方五十年余之勤勞ニ被对、御郡代直触被召出、嘉永六年廻江手永守富在成立寸志差出候处、地士進席被仰付候。

一文政十二年立岡堤掘添之節、厚心配仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一松合村度々火災、跡家建方之節厚心配仕、救浦井下松新地築立ニ付而茂出精仕候旨ニ而、天保五年鳥目壹貫文被下置候。

一天保六年去ル卯秋非常洪水後、自他手永追々御普請ニ付而茂厚心配仕候段、御間御聞届之御達御座候。

一同十二年下益城・宇土於海辺新地御築立、其後破損等之節、無間抜心配仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一天保十五年会所見習以来多年心掛能出精仕、早損之所柄、種々成立之儀厚心配仕候旨ニ而、鳥目壹貫五百文被下置候。

一嘉永元年住吉新地御築立、且破損之節茂心配仕候ニ付、鳥目七百文被下置候。

右直右衛門儀、文政十一年下松山村庄屋申付候处、同村之儀、別段早田所零落之村方ニ御座候处、立岡堤掘添養水増仕法立ニ付而者差入心配出精仕、且村内古堤手入、新井手立等井手堀浚等、種々心配仕候处より非常照統之事柄ニ茂、早損ニ至リ不申様相成、村方勤農ニ基、年々御年貢諸上納無滞相濟、御難題筋薄相成申候。安政三年柏原村ニ所替申付、不相替出精仕、諸事世話筋行届、村方一和仕候。右之通ニ而、見習以来当年迄、役々四十年無懈怠精勤仕功績茂御座候間、作紋麻上一具被為拜領被下候様。

同手永御郡代直触野村勝之助父下網津村庄屋

一勤年数三十六年

野村源次郎



五年 頭百姓

当未六十四歳

三十一年 庄屋

右源次郎儀、文政七年下網津村頭百姓申付、同十二年同村庄屋申付、当年迄三十六年相勤候中、左之通

一文政十二年立岡堤堀添之節、出精仕候ニ付、鳥目三百文被下置候。

一天保五年松合村度々出火、跡家建方ニ付厚心配仕、救浦并下り松新地築方ニ付而茂出精仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一同十二年下益城・宇土於海辺新地御築立、其後破損等之節、無間抜心配仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一嘉永元年北浦新地出来ニ付出精、且卯秋大風破損之節も、心配仕候ニ付、鳥目貳貫文被下置候。

一同年役方多年出精仕候旨ニ而、礼服御免被仰付候。

宇土御知行所下網津村遅熟ニ而、網引山迫合ニ而、一体水気強、田方米姓（注）あしく菜麦等之跡作出来兼、年々之程御損引願出、農力を失、零落之村方ニ御座候処、庄屋申付候後、水気抜新古井手堀浚等、種々心配仕候処より稔地ニ相成菜麦等之跡作迄（注）米姓宜相成、且又住吉新地出来仕候処ニ而者、勸農ニ基、近年御損引等之御難題筋不願出、諸上納速ニ年々相納、平日早朝より村内打廻、勸農相唱、諸事示方手厚相届候故、村方一体取以成立候勤勞相見申候儀御座候。頭百姓以来当年迄三十六年之勤功勞々被对、作紋麻上下一具被為拜領被下候様。

同手、永御郡代直触ニ而大見村庄屋

一勤年数三十九年

森田作右衛門

当未六十三歳

二年 頭百姓

三十七年 庄屋

右作右衛門儀文政四年大口村頭百姓申付、同六年同村庄屋申付、当時大見村ニ所替申付、頭百姓以来三十九年相勤候中左之通。

一文政十二年立岡堤堀添之節出精仕、且又杉島新川堀替ニ付而茂出精仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一天保五年松合村出火之節、跡家建方并救浦新地築方等ニ而出精仕候ニ付、鳥目壹貫五百文被下置候。

一同十二年下益城・宇土於海辺新地出来之節、余計之石・竹木等取出方始末自勘ニ而相勤、且船を茂差出、格別出精仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一弘化二年役方多年出精仕候ニ付、無苗御惣庄屋直触被仰付候。

一嘉永元年去ル卯秋、大風破損御普請ニ付出精仕、且北浦新地御築立之節心配仕候ニ付、鳥目壹貫文被下置候。

一同六年廻江手永守富在成立寸志錢差出候処、御郡代直触進席被仰付候。大口村者作地少、高人数不鈞合之上、山畑勝之所柄、以前者手永一番之零落所御座候処、文化十二年村下海辺新地出来、纔五町程之畝數ニ御座候得共、養水掛宜、都而田開ニ相成候処ニ而者、田畑之持合よろしく、作右衛門儀、文政四年頭百姓以来勸農ニ心を委、小前々々示方手厚相届候処より、村方風儀自然と立直り、村中一和仕、田畑手入肥等行届、御年貢・諸出銀・諸公役手全ニ相勤、先ハ手永之手本ニ茂相成候程之儀ニ御座候。畢竟身を以先立示方仕候処より之儀ニ御座候。安政二年大見村江軒村申付、不相替精勤仕候。右之通頭百姓以来屹度功業も相立居候儀ニ御座候。当年迄三十九年之勤勞ニ被对、作紋麻上下一具被為拜領被下候様。

右之通いつれ茂格別出精相勤居申候ニ付、夫々御賞美被仰付被下候様有御座度、於私奉願候。此段御内仕候条宜被成御参談可被下候。以上

安政六年三月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

直右衛門列三人達之通ニ而、何れ茂庄屋三十年以上ニ相成、直右衛門・作右衛門儀者席持、源次郎儀者御郡代直触之父ニ付見合茂御座候間、作紋麻上下一具充可被下置哉。

(朱書)

〔未十月廿日達〕

いつれ茂未十月廿日達〕

三二五 松田三悦

(二〇一—一七)

覚

松山手永宇土町居住、御目見医師ニ而病死仕候松田三成相統之四男

松田三悦

右者親跡相統別紙之趣ニ付見聞仕候処、家業心懸能、儒学者木下信太郎方門弟ニ而四ヶ年程滞塾いたし、医学者黄玄朴方門弟ニ而三ヶ年程塾詰ニ而勤学いたし、儒医学共相応出来いたし居候由。父三成儀、近年病氣勝ニ付、一昨年より宿許江引取、代診出精いたし、療治方年齢ニ者熟練いたし、三成死後者、是迄之病家受継候由。且家製之龍虎丹、御参府之節々并熊胆丸共ニ、御救恤渡ニ数

十年來差出来候由。且近辺至貧之者共江茂、施薬療治茂いたし遣候由ニ候得共、記録仕置不申候由ニ付、貼数者分兼候之由。其外委細者本紙書面之通相聞申候。以上

未七月

吉武英右衛門⑧

御内意之覚

宇土町居住、御目見医師ニ而病死仕候松田三

成四男

松田三悦

当未廿六歳

右三悦祖父松田三淳と為申者、野津手永宮原町居住、御郡代直触松田三達弟ニ而、明和八年宇土町ニ入医仕、療治方出精仕、平日心掛宜、所柄為合ニ相成候旨ニ而、安永二年御郡代直触被召出、寛政二年療治方出精且寸志之訊ニ被对、御郡医師並被仰付、文化元年寸志之訊ニ被对、三人扶持被下置、同七年家業志厚出精仕、数年施薬を茂仕、且寸志を茂差上候旨ニ而、御目見医師被仰付置候処、同十三年病死仕候。右三淳養子松田三成儀、文政二年家業心懸能、病用手全ニ出精仕、且養父三淳寸志之訊旁ニ被对、二人扶持被下置、歩御小姓列ニ被召出、天保九年家業心掛能、療治方出精仕、御参勤之節、家法之製薬差出、其外追々施薬を茂仕候旨ニ而、作紋单羽織一被下置候。嘉永四年家業心掛能、療治方出精仕、御参勤之節々、家法之製薬不相替差出、其外施薬を茂仕候旨ニ而、御目見医師被仰付置候処、当年二月病死仕候養父跡相統被仰付候以来、当年迄四十一年、無懈怠相勤候中、左之通。  
一文政十二年立岡堤堀添之節罷出、療治方出精仕候旨ニ而、銀式兩被下置候。

一天保五年松合村疫病流行ニ付而療治方昼夜差入出精仕候旨ニ而、右同断。

一龍虎丹五千三百四拾五貼

代錢三貫八百拾七匁八分五厘

内四千貳百貼 嘉永六年より安政六年迄、御參勤之節差出候分。

千百四拾五貼 嘉永四年より安政五年迄御救恤渡ニ差出候分。

一熊胆丸六百四拾五貼

代錢四百六拾目七分壹厘 御救恤渡込、右同断差出候分。

錢合四貫貳百七拾八匁五分六厘

右之通ニ而、二成伴松田三爲と申たる者者、御医師組田代元萃養子ニ相成、二男三男ともニ他家養子ニ相成、四男松田三悦儀、名跡相統願之通被仰付候。惣体篤実ニ而、療才有之、家業志厚、父存生中より数百軒之病家向、昼夜無差別打廻、藥品等別段入念、貧富取分無之、出精仕候付而者、病家向一統氣請宜、且三成存生中、宇土町初零落之村方、年々余計之施薬仕来馱所之儀ニ有之候得者、自他通行之病用も多有之候処、手厚療治仕、將又御參勤之節、每度家法之薬差出来候処、厚志之至付被召上旨、御達ニ相成届申候。且又毎歲御救恤渡之節々差出申候。惣体療治方手広四十一年家業心掛厚、御普請之節々も出方仕候、親跡目之儀ニ茂有之、三悦儀、療才有之、不相替療治仕候ニ付、父跡御郡医師並ニ被召出被下候様ニ有御座度、於私奉願候。此段御内意仕候条、宜被成御參談可被下候。以上

安政六年五月

岩崎物部

御郡方

御奉行衆中

僉議

三悦儀、達之通ニ付医業吟味役江問合申候処、治療習熟学業篤志之段達有之、再春館御目附見聞茂同様ニ而、科目丙科ニ相当申候。御郡御目附付御横目見聞之趣茂、療治方年齢ニ者熟練いたし、父死後病家受継出精いたし候由、夫々別紙之通御座候間、御目見医師之跡、右科目究之通、御郡医師並可被召出哉。

(朱書)

「朱十一月式日達

本道

三法被的」

| 番号         | 人名            | 永青文庫番号 | 県立図書館番号 |
|------------|---------------|--------|---------|
| 285        | 上妻八右衛門        | 10-1-1 | 1766    |
| 286        | 儀平            | 10-1-1 | 1767    |
| 287        | 松岡道成          | 10-1-1 | 1770    |
| 安政2年(1855) |               |        |         |
| 288        | 野村新助          | 10-1-2 | 1775    |
| 289        | 浦上勝甫          | 10-1-2 | 1777    |
| 290        | 松浦善三郎、野口廣吉    | 10-1-2 | 1777    |
| 291        | 北野茂次郎、北野甚七    | 10-1-2 | 1778    |
| 292        | 釜賀茂助          | 10-1-2 | 1778    |
| 293        | 拓植玄迪          | 10-1-2 | 1779    |
| 294        | 玄春            | 10-1-3 | 1780    |
| 295        | 郡浦新五左衛門、郡浦志摩助 | 10-1-3 | 1787    |
| 296        | 河口藤十郎、梅田弥兵衛   | 10-1-3 | 1787    |
| 安政3年(1856) |               |        |         |
| 297        | 岡村庄太郎         | 10-1-4 | 1789    |
| 298        | 慶次、格次         | 10-1-4 | 1793    |
| 299        | 北野安右衛門、喜助     | 10-1-4 | 1796    |
| 300        | 積三左衛門         | 10-1-4 | 1796    |
| 301        | 陣内信次、稻原覚左衛門 他 | 10-1-4 | 1796    |
| 302        | 江嶋増太郎         | 10-1-4 | 1796    |
| 303        | 平原太郎助         | 10-1-4 | 1799    |
| 安政4年(1857) |               |        |         |
| 304        | 伊佐軍太、伊佐三吾     | 10-1-5 | 1800    |
| 305        | 久保桂助          | 10-1-5 | 1801    |
| 306        | 田代満次          | 10-1-4 | 1801    |
| 307        | 守田源作          | 10-1-5 | 1808    |

| 番号         | 人名         | 永青文庫番号 | 県立図書館番号 |
|------------|------------|--------|---------|
| 308        | 清蔵、才七      | 10-1-5 | 1808    |
| 安政5年(1858) |            |        |         |
| 309        | 西 信一       | 10-1-6 | 1815    |
| 310        | 才七、助七      | 10-1-6 | 1820    |
| 311        | 甚七         | 10-1-6 | 1820    |
| 312        | 中園英之助 他    | 10-1-6 | 1820    |
| 313        | 満永和三郎      | 10-1-6 | 1824    |
| 314        | 田河内茂左衛門    | 10-1-6 | 1824    |
| 315        | 近藤九平、岩村久兵衛 | 10-1-6 | 1824    |
| 安政6年(1859) |            |        |         |
| 316        | 野田七右衛門     | 10-1-7 | 1825    |
| 317        | 本田健助       | 10-1-7 | 1825    |
| 318        | 岡村辰次郎      | 10-1-7 | 1825    |
| 319        | 斉藤弥五兵衛     | 10-1-7 | 1826    |
| 320        | 亀井九郎兵衛     | 10-1-7 | 1830    |
| 321        | 藤本作兵衛      | 10-1-7 | 1832    |
| 322        | 竹馬圓次、小郷藤兵衛 | 10-1-7 | 1832    |
| 323        | 草野安次郎、近藤衛守 | 10-1-7 | 1832    |
| 324        | 中山直右衛門 他   | 10-1-7 | 1832    |
| 325        | 松田三悦       | 10-1-7 | 1834    |

# 登録番号対照表

| 番号         | 人 名         | 永青文庫番号 | 県立図書館番号 |
|------------|-------------|--------|---------|
| 嘉永元年（1848） |             |        |         |
| 241        | 郡浦又太、岩崎岩太 他 | 9-24-2 | 1698    |
| 242        | 源次郎         | 9-24-2 | 1700    |
| 嘉永2年（1849） |             |        |         |
| 243        | 紫垣章兵衛、紫垣久四郎 | 9-24-3 | 1657    |
| 244        | 定吉          | 9-24-4 | 1704    |
| 245        | 岩太          | 9-24-4 | 1704    |
| 246        | 稲原藤平        | 9-24-4 | 1704    |
| 247        | 高濱玄迪、高濱叔涼   | 9-24-4 | 1705    |
| 248        | 積 新左衛門      | 9-24-4 | 1705    |
| 嘉永3年（1850） |             |        |         |
| 249        | 小山直助、田代勘右衛門 | 9-24-4 | 1706    |
| 250        | 坂本岩喜        | 9-24-5 | 1713    |
| 251        | 松田三為 他      | 9-24-5 | 1713    |
| 252        | 北野甚七        | 9-24-5 | 1714    |
| 253        | 井上八十八       | 9-24-5 | 1715    |
| 254        | 嘉右衛門        | 9-24-5 | 1718    |
| 嘉永4年（1851） |             |        |         |
| 255        | 糸石玄磧        | 9-24-6 | 1721    |
| 256        | 赤澤宇太郎       | 9-24-6 | 1723    |
| 257        | 菊地丹次        | 9-24-6 | 1725    |
| 258        | 江上養節        | 9-24-6 | 1725    |
| 259        | 松田三成        | 9-24-6 | 1729    |
| 嘉永5年（1852） |             |        |         |
| 260        | 水口才助        | 9-24-7 | 1730    |
| 261        | 中村順太        | 9-24-7 | 1730    |

| 番号         | 人 名      | 永青文庫番号 | 県立図書館番号 |
|------------|----------|--------|---------|
| 262        | 澤田善次郎    | 9-24-7 | 1734    |
| 263        | 辛川良右衛門   | 9-24-7 | 1739    |
| 264        | 松本岩右衛門   | 9-24-7 | 1739    |
| 嘉永6年（1853） |          |        |         |
| 265        | 橘 喜又     | 9-24-8 | 1742    |
| 266        | 喜右衛門、嘉兵衛 | 9-24-8 | 1742    |
| 267        | 中園英之助 他  | 9-24-8 | 1744    |
| 268        | 庄兵衛      | 9-24-8 | 1745    |
| 269        | 日隈太郎右衛門  | 9-24-8 | 1747    |
| 270        | 小林喜真太    | 9-24-8 | 1747    |
| 271        | 中村権平     | 9-24-8 | 1747    |
| 272        | 江 謙吾 他   | 9-24-8 | 1748    |
| 273        | 本郷惣右衛門   | 9-24-8 | 1749    |
| 274        | 内田壽太郎    | 9-24-8 | 1750    |
| 275        | 井上育太郎    | 9-24-8 | 1751    |
| 276        | 北野甚七     | 9-24-8 | 1751    |
| 277        | 弥平次      | 9-24-8 | 1751    |
| 嘉永7年（1854） |          |        |         |
| 278        | 松岡謙濟     | 9-24-9 | 1763    |
| 279        | 金田亀齡     | 9-24-9 | 1759    |
| 280        | 浦上勝甫     | 9-24-9 | 1759    |
| 安政元年（1854） |          |        |         |
| 281        | 芥川源之允    | 9-24-9 | 1763    |
| 282        | 宇平次、儀平   | 9-24-9 | 1763    |
| 283        | 小山七郎太    | 10-1-1 | 1764    |
| 284        | 三村傳之助 他  | 10-1-1 | 1766    |

新宇土市史基礎資料 第四集

町在 (四) — 嘉永元、安政六年 —

発行 宇土市教育委員会

熊本県宇土市新小路町九五番地

発行日 平成一〇年三月二七日

印刷 コロニー印刷

